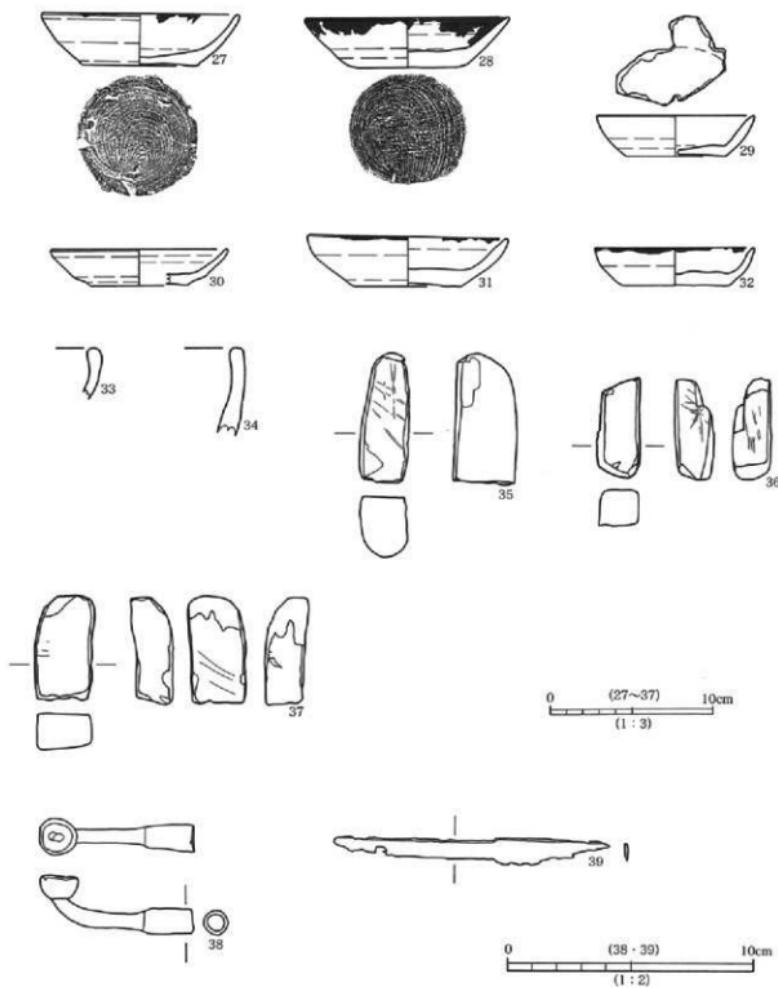


IV 検出された遺構と遺物



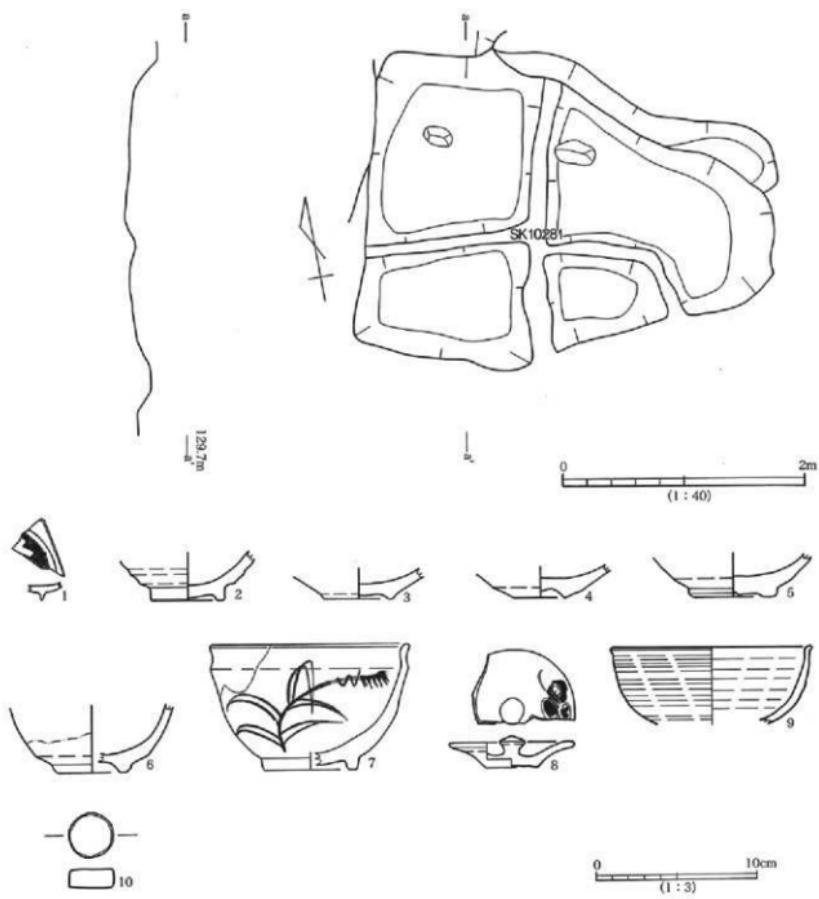
第118図 SK10275 (3)

SK10275

位 置 14 - 17 グリッド。

規 模 長軸 3.89 m、短軸 2.46 m、検出面からの深さ 0.65 m。

形 態 平面形態は東西に長い方形だが、一部北東隅に北側に伸びる張り出しが付属する。西側を南北に



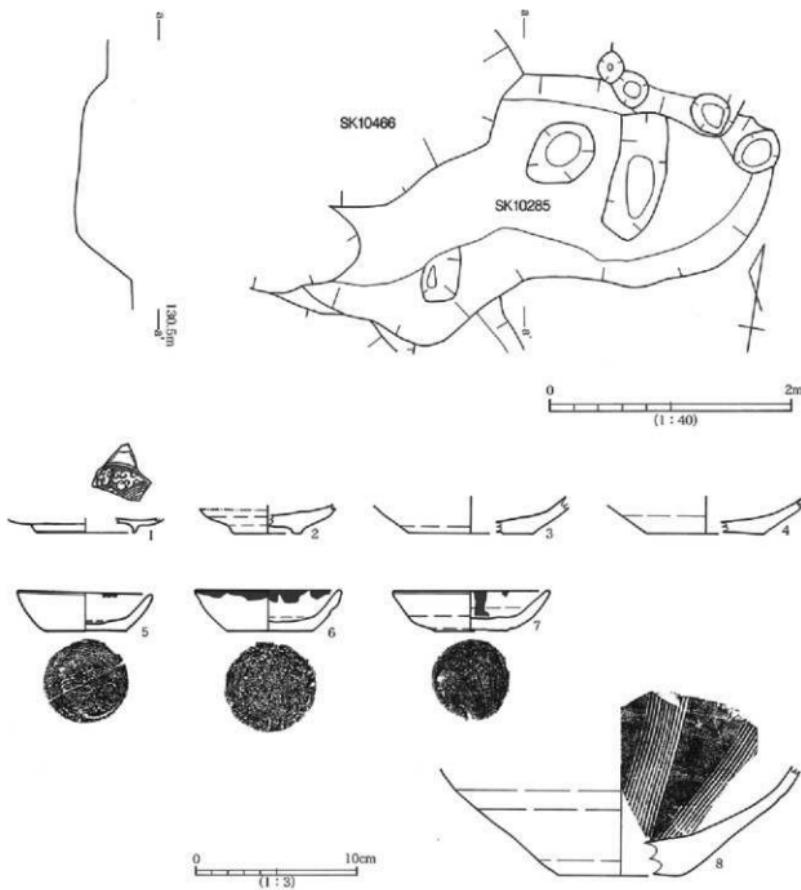
第119図 SK10281

伸びる近現代の掩乱に切られる。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。土器・陶磁器の廃棄土坑であると思われる。

**出土遺物** 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦が出土している。なお、被焼したヒトの頭蓋骨や四肢骨が出土している。

**年 代** 出土している肥前系磁器が初期伊万里及び高台断面三角形の製品で構成されるので、Ⅲ期である。

IV 検出された遺構と遺物



第120図 SK10285

**SK10281**

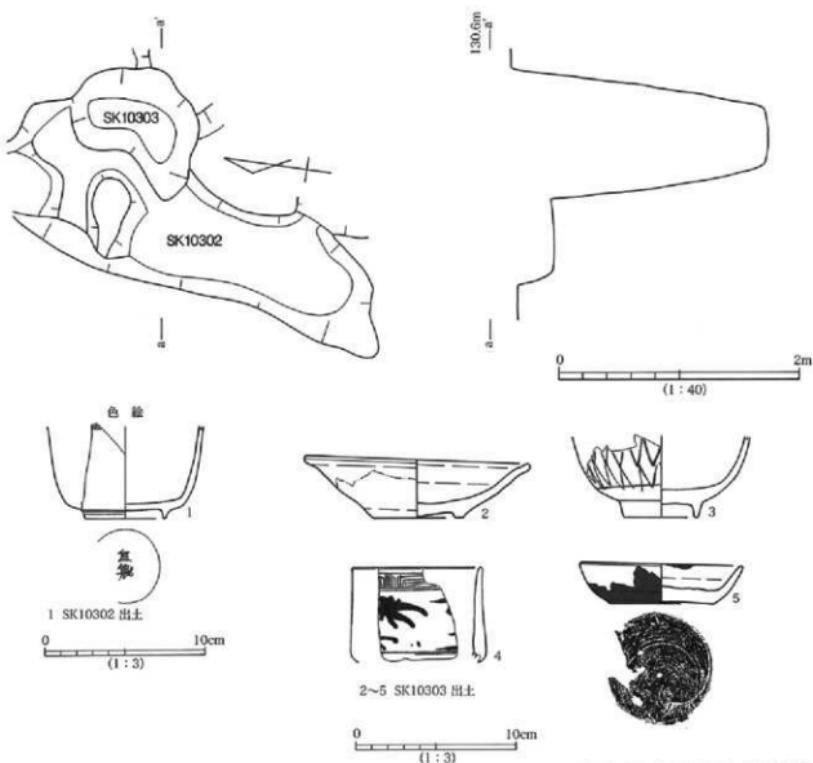
位 置 12 - 15 グリッド。

規 模 長軸 3.34 m、短軸 2.30 m、検出面からの深さ 0.18 m。

形 態 平面形態はくずれた方形を呈する。底面は格子状に仕切られている。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶磁器、黒瓦が出土している。

年 代 固化していない肥前系磁器はⅡ期やⅢ期に相当するものが多いが、8の蓋はさらに年代が下る可能性があり、年代の決定はしがたい。



第121図 SK10302・SK10303

**SK10285**

位 置 14-12 グリッド。

規 模 残存長軸 4.36m、短軸 1.66m、検出面からの深さ 0.35m。

形 態 西側が SK10466 に切られる。平面形態は東西に長くいたずれた楕円形を呈する。底面はピット状の窪みがみられる。壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけが出土している。

年 代 肥前系陶器が出土していることから II 期以降であろうが、正確な年代は不明である。

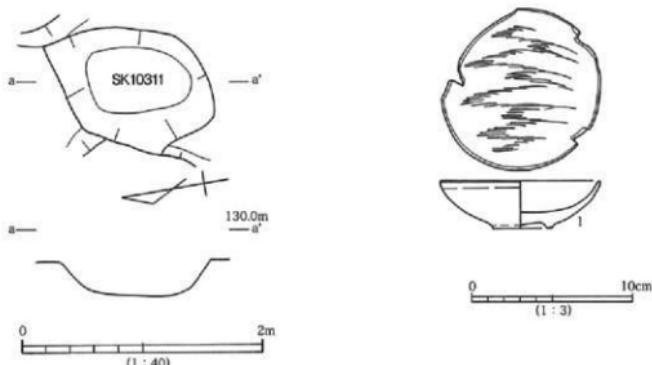
**SK10302・SK10303**

位 置 14-17 グリッド。

規 模 SK10302 長軸 3.49m、短軸 0.86m、検出面からの深さ 0.32m。

SK10303 長軸 1.10m、短軸 0.72m、検出面からの深さ 2.10m。

#### IV 検出された造構と遺物



第122図 SK10311

**形態** SK10302 は SK10303 を切る。SK10302 は平面形態が南北に長い溝状の形態を示す。底面はほぼ平坦だが、北よりの場所に一段高まりをもつ。壁面は急に立ち上がる。SK10303 は平面形態がくずれた楕円形を呈する。底面はほぼ平坦で壁面はかなり急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察はできなかった。

**出土遺物** 図化資料以外に、SK10302 は肥前系陶器皿・磁器瓶、ロクロかわらけが出土している。SK10303 は図化資料以外に肥前系磁器、黒瓦が出土している。

**年代** SK10303 は出土遺物が少ないが、肥前系磁器が初期伊万里のみで構成されるのでⅡ期に相当する。SK10302 は切り合い関係よりそれより新しく、1 などからⅢ期に相当する年代が与えられる。

#### SK10311

**位置** 13 - 17 グリッド。

**規模** 長軸 1.50 m、短軸 0.92 m、検出面からの深さ 0.29 m。

**形態** 平面形態は南北に長い楕円形を呈する。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

**出土遺物** 図化資料以外では、肥前系陶器が 2 点、肥前系磁器が 1 点出土しているのみである。

**年代** 出土遺物が少なく断定はできないが、1 より 17 世紀半ばであろう。

#### SK10315

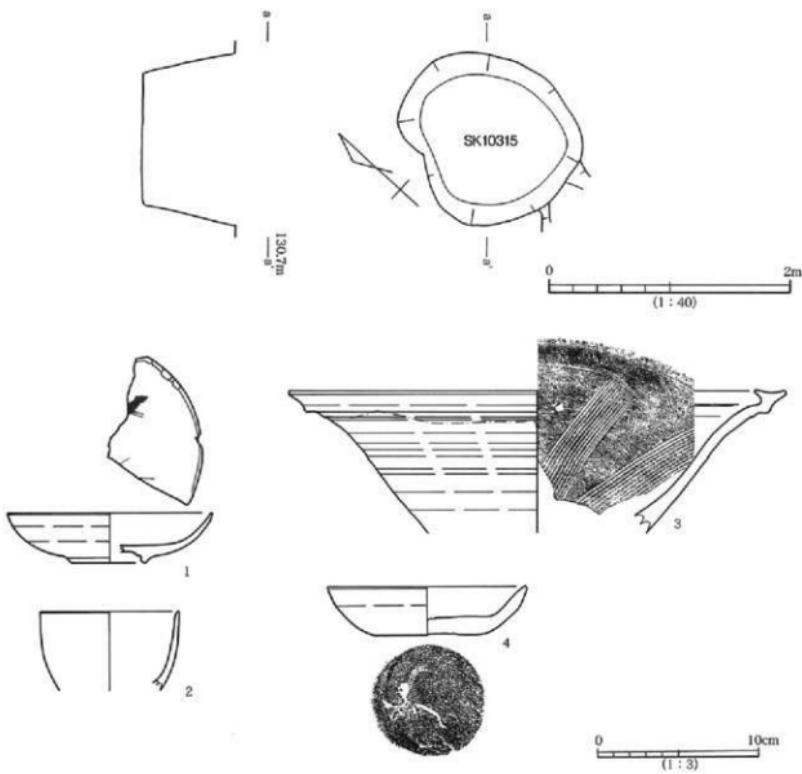
**位置** 14 - 17 グリッド。

**規模** 長軸 1.48 m、短軸 1.28 m、検出面からの深さ 0.73 m。

**形態** 平面形態はほぼ円形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

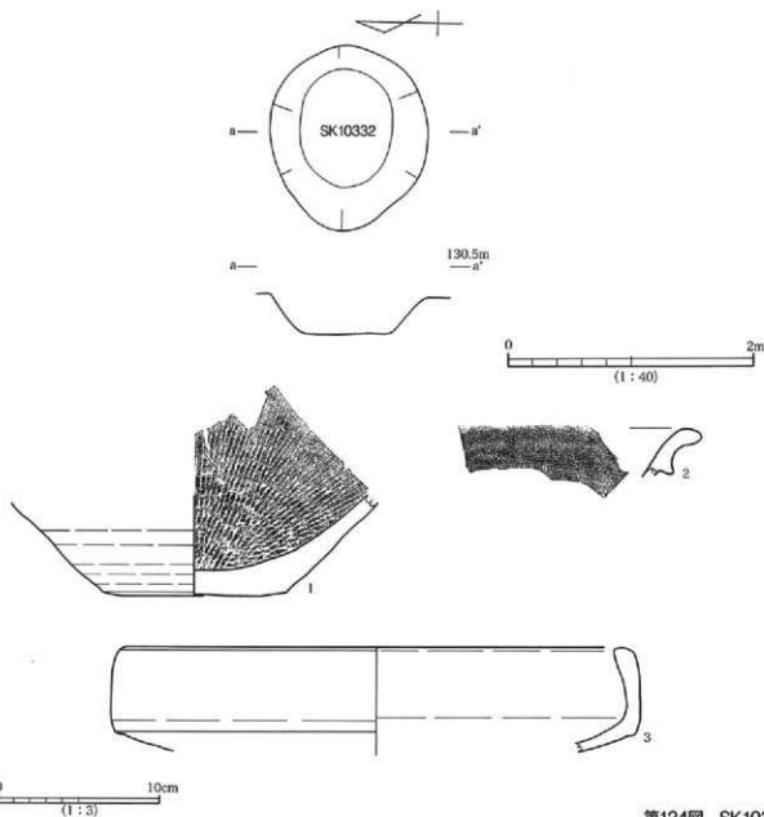
**出土遺物** 図化資料以外では、瀬戸美濃系陶器が 1 点、肥前系陶磁器が 4 点出土しているのみである。

**年代** 1 や 2 より 17 世紀半ばであろう。



第123図 SK10315

IV 検出された遺構と遺物



第124図 SK10332

SK10332

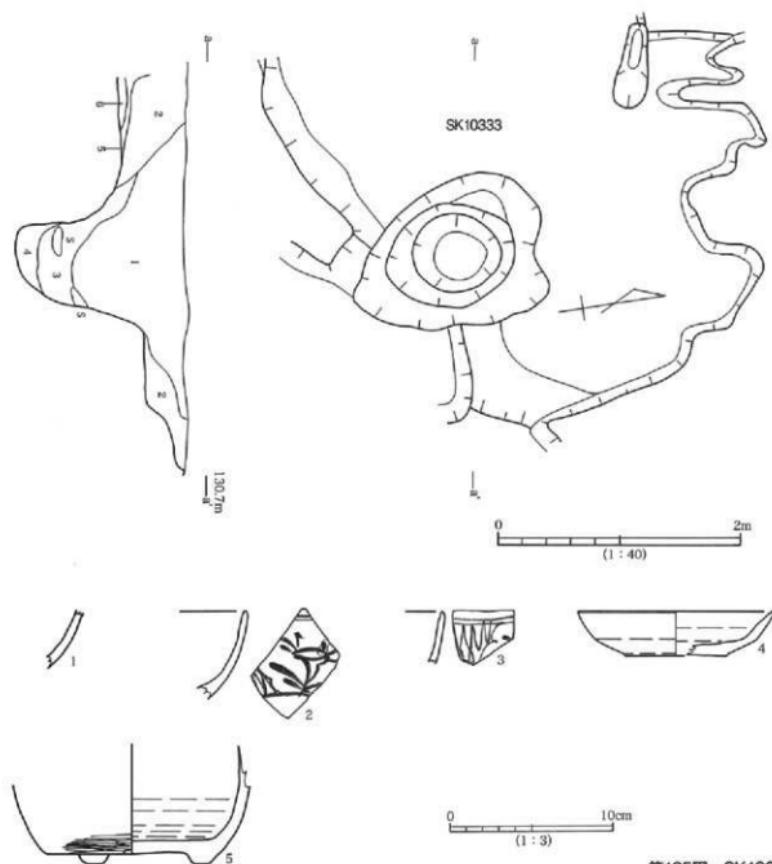
位 置 15 - 15 グリッド。

規 模 長軸 1.52 m、短軸 1.29 m、検出面からの深さ 0.29 m。

形 態 平面形態は円形を呈する。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 図化資料以外に、肥前系磁器、黒瓦が出土している。

年 代 肥前系磁器が出土しているのでII期以降だが、正確な年代は不明である。



第125図 SK10333

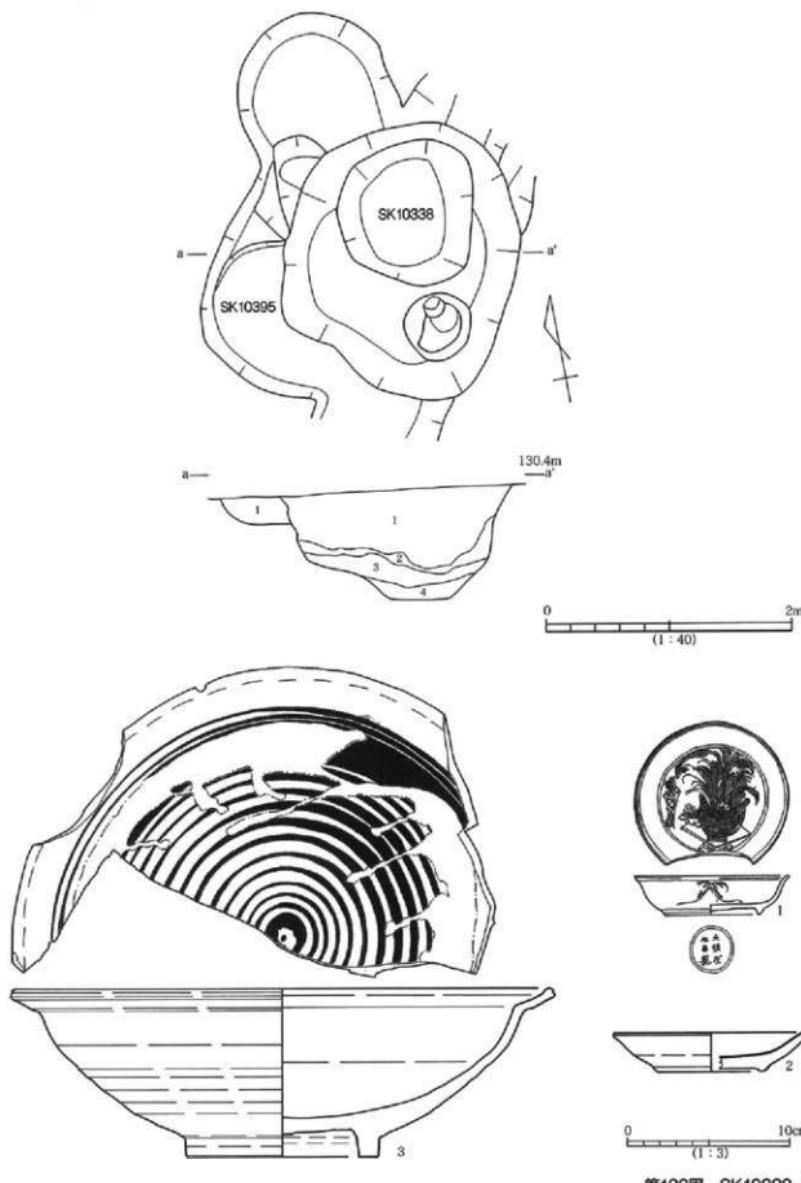
**SK10333**

**位 置** 14-13 グリッド。

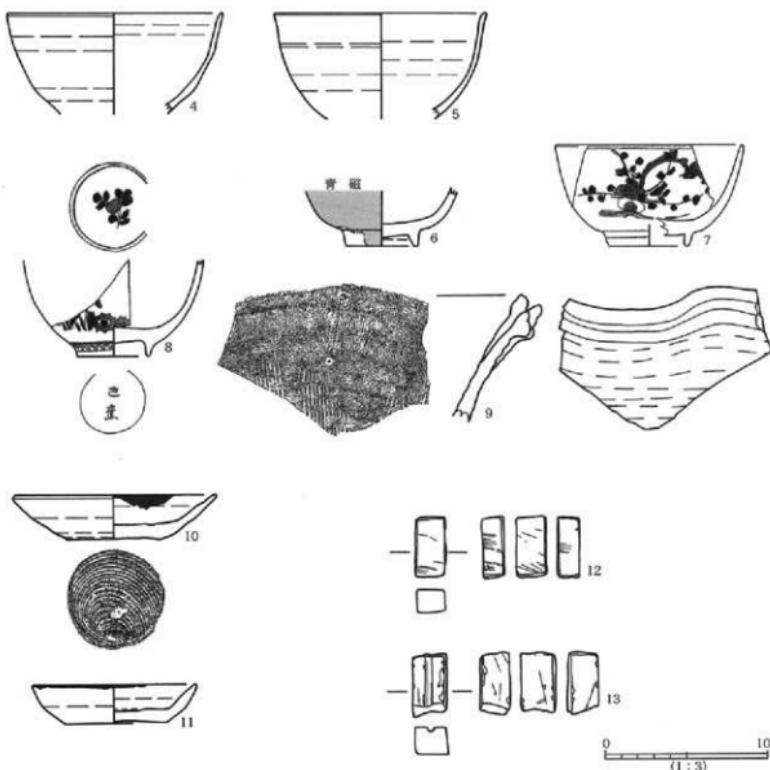
**規 模** 長軸 1.51 m、短軸 1.23 m、検出面からの深さ 1.40 m。

**形 態** 平面形態はややくずれた円形を呈する。断面形態は深い壠鉢状を呈する。壁面は底に近づくほど傾斜が急になる。周辺の大きな落ち込みの覆土を切っているが、当初区別をせずに調査したため、取り上げた遺物は SK10333 に帰属する以外のものも含まれる可能性が高い。1、3、4 層が SK10333 の覆土である。

IV 検出された遺構と遺物



第126図 SK10338 (1)

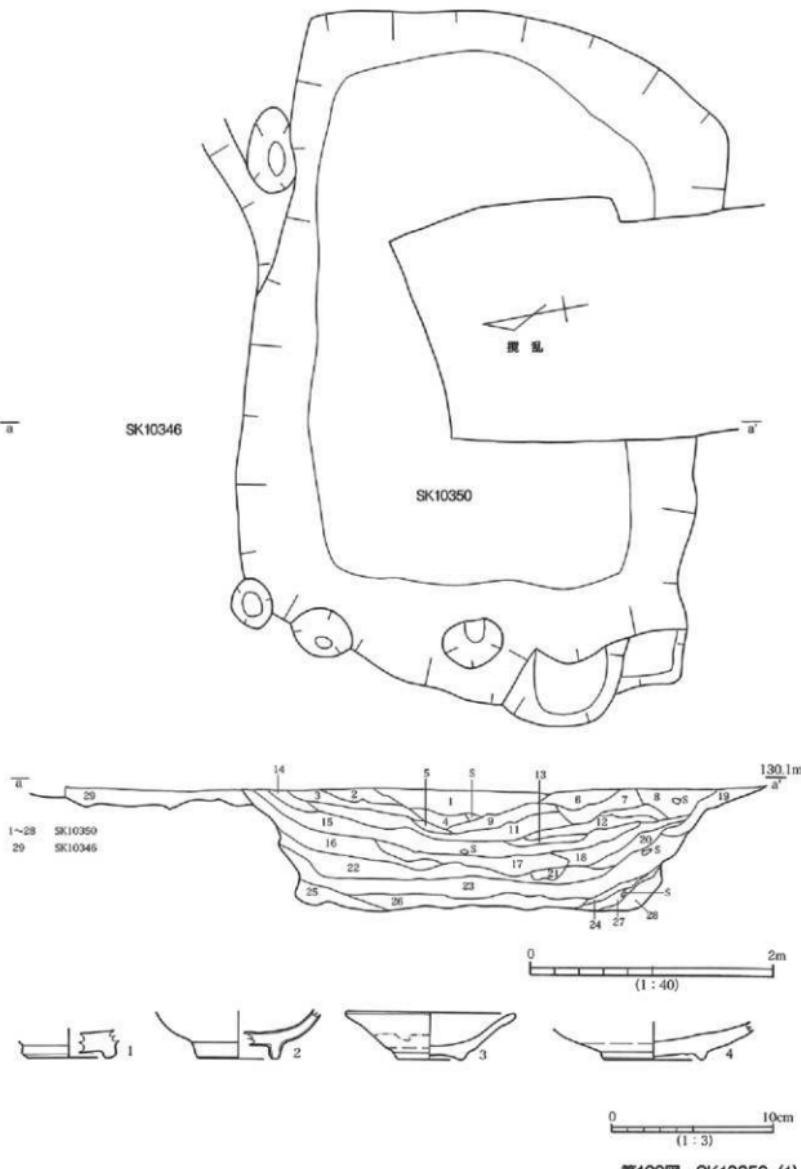


第127図 SK10338 (2)

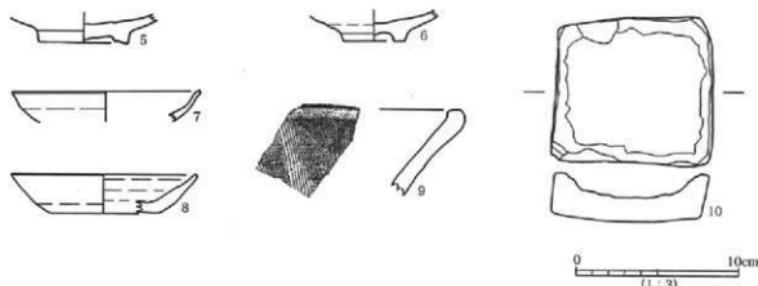
## SK10338

- 位 置 13 - 14 ~ 13 - 15 グリッド。
- 規 模 長軸 2.26 m、短軸 1.94 m、検出面からの深さ 0.92 m。
- 形 態 平面形態はほぼ円形を呈する。底面は北側が最も深く、南側がテラス状に一段高くなっている。壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むため一括埋土と思われる。SK10395 を切る。
- 出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系磁器、黒瓦などが出土している。
- 年 代 肥前系磁器が初期伊万里及び高台断面三角形の製品で構成されるので、III期である。

IV 検出された遺構と遺物



第128図 SK10350 (1)



第129図 SK10350 (2)

**SK10350**

位 置 13 - 12 グリッド。

規 模 長軸 5.54 m、短軸 3.73 m、検出面からの深さ 0.96 m。

形 態 南側の一部を搅乱に切られる。平面形態は東西に長い方形である。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックなどの混入物を多く含むことから一括埋土と思われる。SK10346を切る。

出土遺物 図化資料以外では、輸入磁器、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

年 代 肥前系磁器が初期伊万里のみで構成されるので、II期である。

**SK10360**

位 置 14 - 15 グリッド。

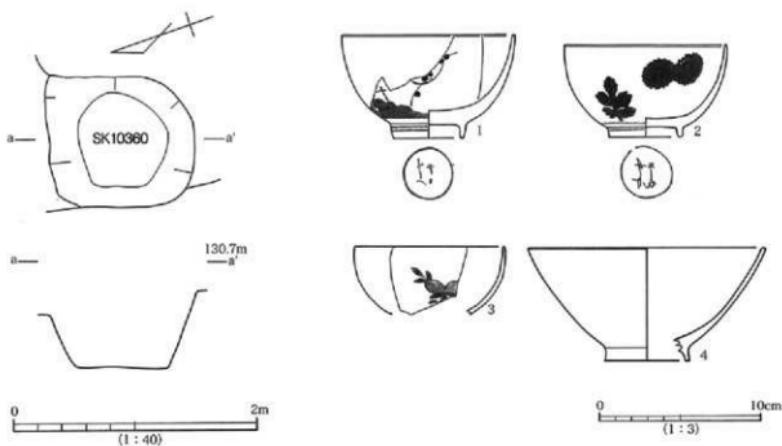
規 模 長軸 1.20 m、短軸 1.06 m、検出面からの深さ 0.62 m。

形 態 平面形態は隅丸方形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 図化資料以外では、肥前系磁器の小破片が非常に多く出土している。また他に肥前系陶器、黒瓦などが若干出土している。

年 代 肥前系磁器がコンニャク印判やくらわんかで構成されるので、V期に相当する。

#### IV 検出された遺構と遺物



第130図 SK10360

#### SK10366

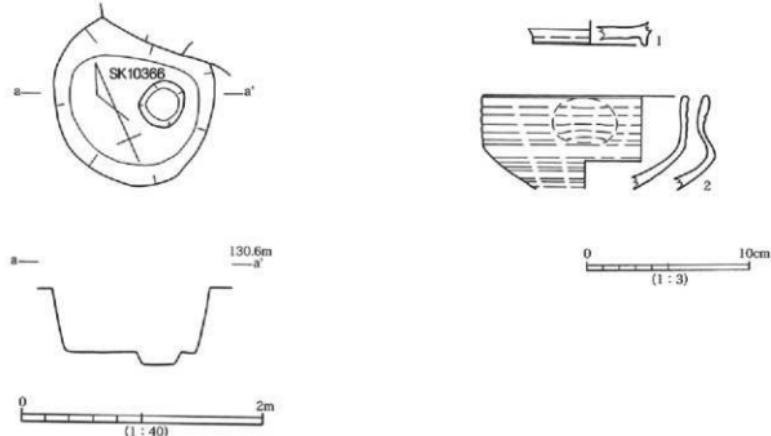
位 置 15 - 12 グリッド。

規 模 長軸 1.33 m、短軸 1.15 m、検出面からの深さ 0.52 m。

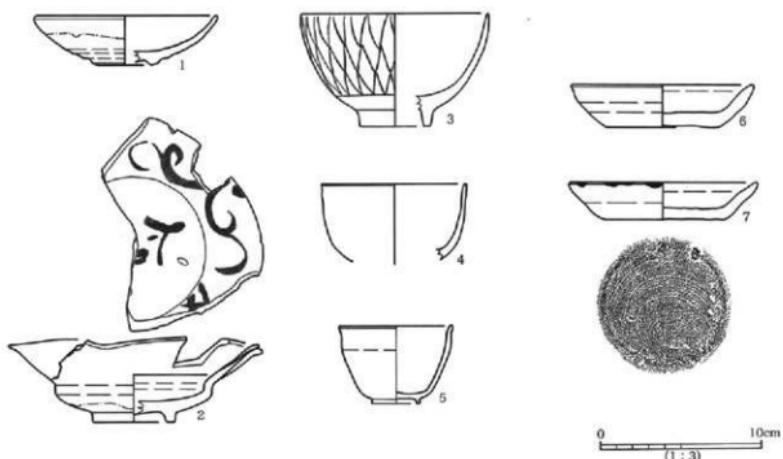
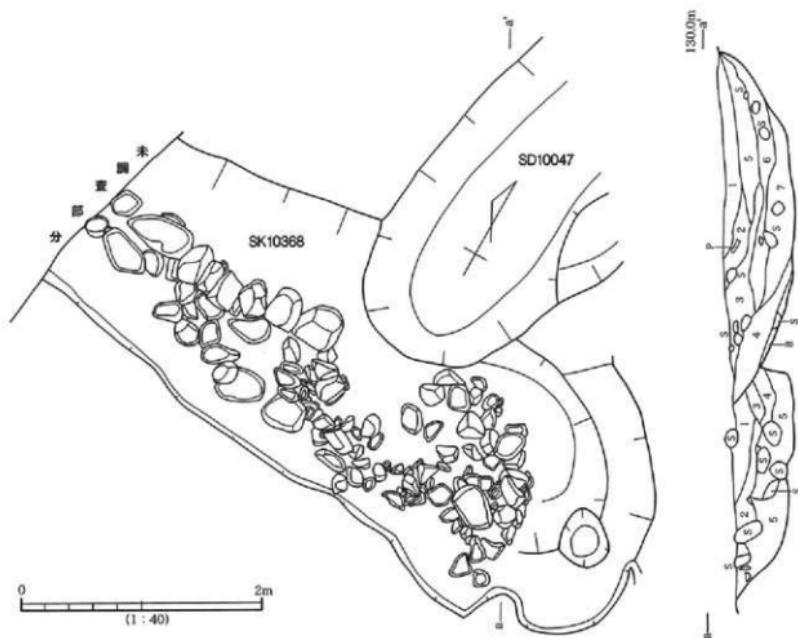
形 態 平面形態はほぼ円形を呈する。底面は東よりにピット状の窪みがある。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶器、ロクロかわらけなどが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが肥前系磁器を含まないことから、I期であろう。

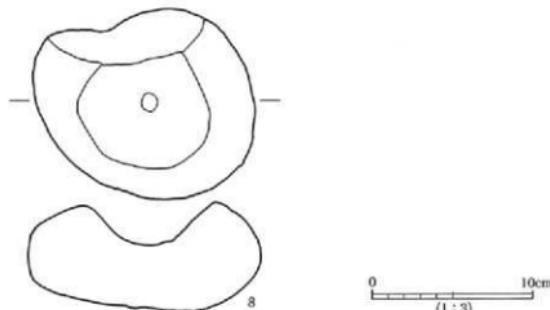


第131図 SK10366



第132図 SK10368 (1)

#### IV 検出された遺構と遺物



第133図 SK10368 (2)

#### SK10368

位 置 12 - 14 グリッド。

規 模 短軸 1.34 m、検出面からの深さ 0.48 m。

形 態 東西に走る溝のような形態を示す。ただし、東側は未調査部分なので全体の形状はわからない。底面はほぼ平坦である。底面から 10 ~ 30 cm ほど浮いたところに直径 5 ~ 30 cm ほどの礫が散乱している。土層は炭化物や焼土などを含むことから、一括埋土と思われる。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけが出土している。なお黒瓦が 38 点出土している。

年 代 胎土目段階の肥前系陶器から高台断面三角形段階の肥前系磁器まで出土しており、年代幅がある。最終的な埋没年代は 17 世紀半ば以降であろう。

#### SK10378

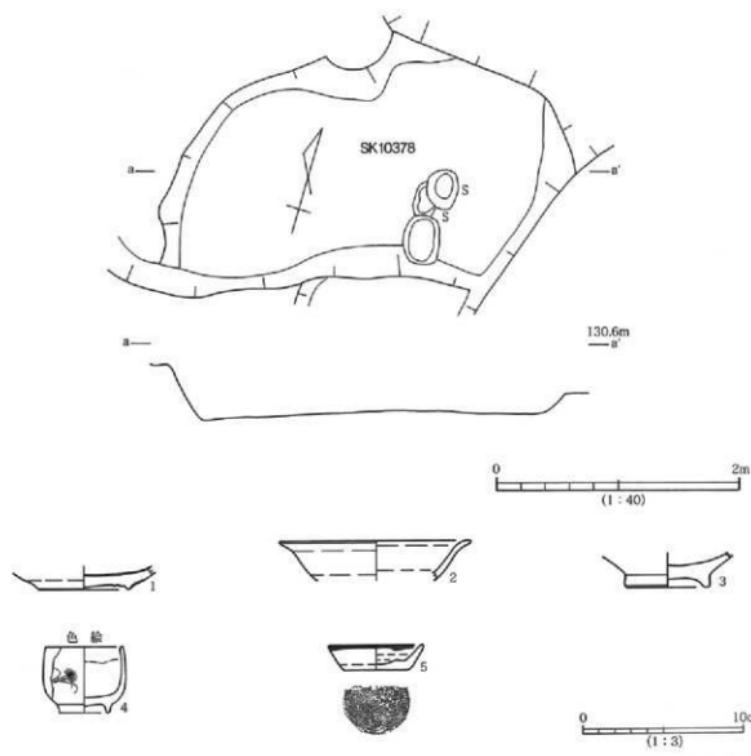
位 置 14 - 15 グリッド。

規 模 長軸 3.50 m、短軸 1.82 m、検出面からの深さ 0.54 m。

形 態 平面形態はくずれた方形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。底面の南東に人頭大ほどの礫が散見される。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

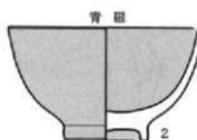
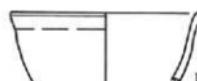
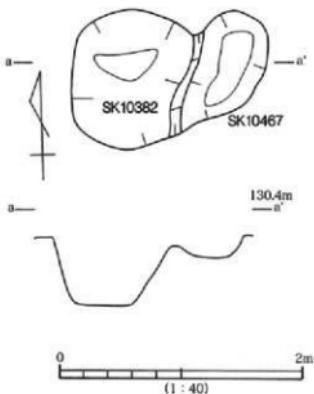
出土遺物 固化資料以外には、肥前系磁器などが出土している。

年 代 4 や固化資料以外にコンニャク印判の肥前系磁器があることから、IV期であろう。



第134図 SK10378

#### IV 検出された遺構と遺物



第135図 SK10382

#### SK10382

位 置 13 - 15 グリッド。

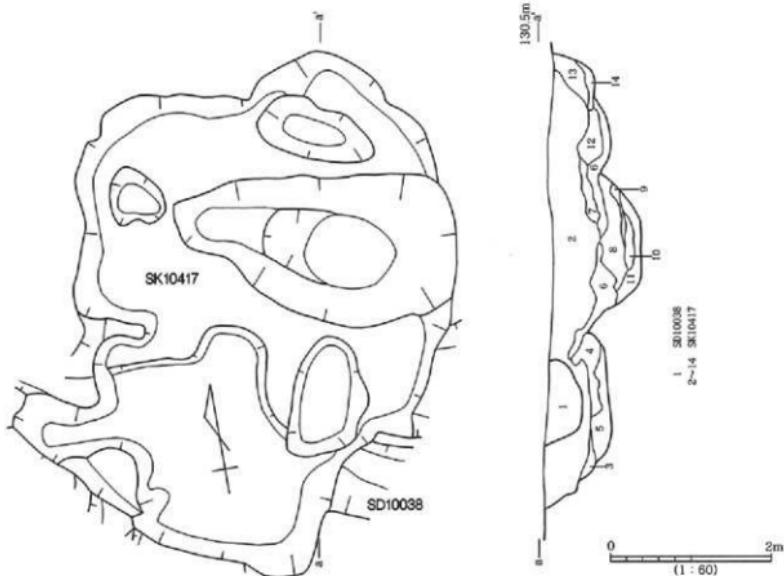
規 模 長軸 1.19 m、短軸 0.94 m、検出面からの深さ 0.55 m。

形 態 平面形態は隅丸方形を呈する。底面は緩やかに湾曲する。壁面は東西が急に、南北がやや緩やかに立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶磁器やロクロかわらけが数点出土しているのみである。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里のみだが 1 などの呉器手の碗が出土しているので、17世紀半ば以降であろう。

IV 検出された遺構と遺物

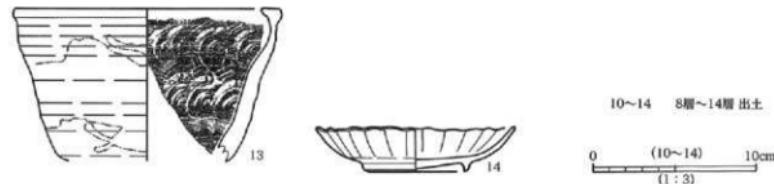
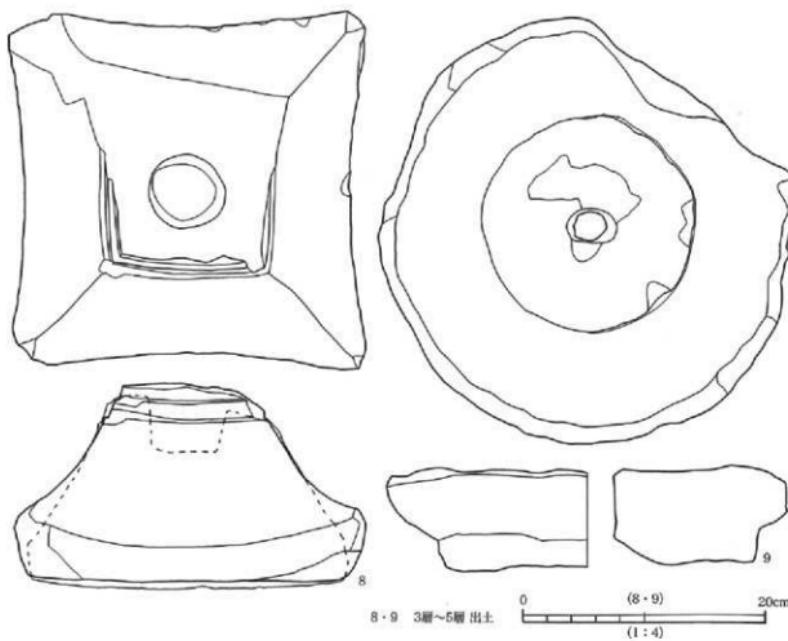


1~7 3層~5層 出土

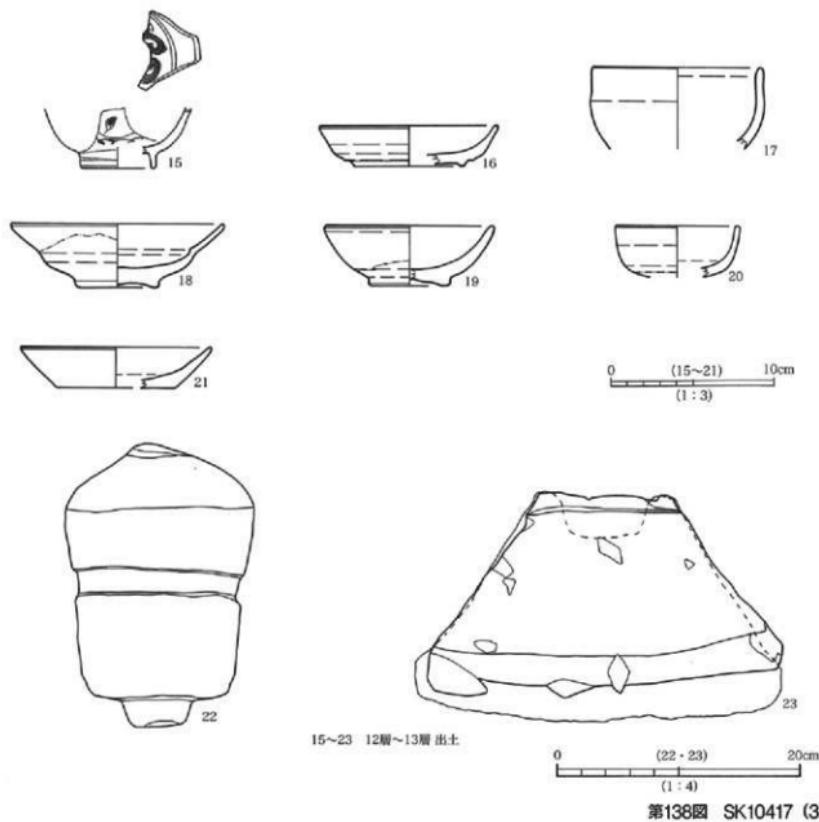


第136図 SK10417 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第137図 SK10417 (2)



第138図 SK10417 (3)

## SK10417

位 置 15-12 グリッド。

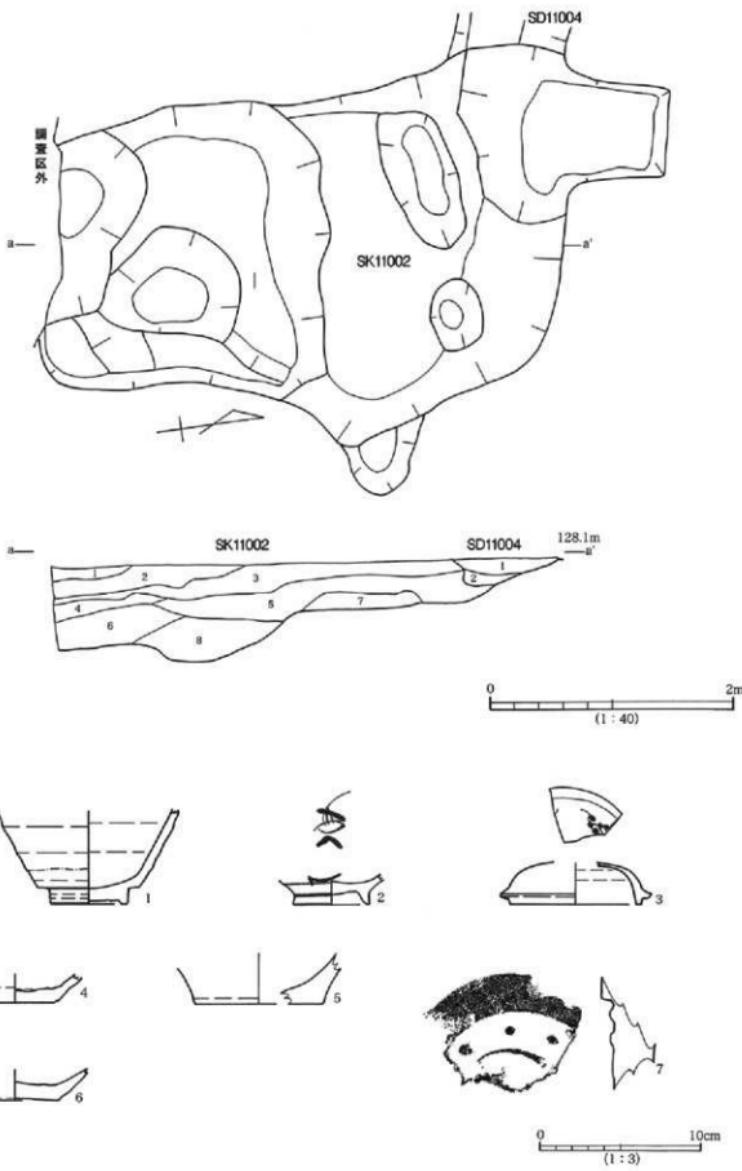
規 模 長軸 6.45 m、短軸 4.67 m、検出面からの深さ 1.13 m。

形 態 平面形態は南北に長いかなりくずれた梢円形を呈する。土層観察および平面プランから、土器・陶磁器などを廃棄するために複数回掘り込まれた土坑の集合体であると思われるが、それぞれの土坑を区別することはできなかった。底面は起伏が激しい。壁面は急に立ち上がる。SD10038 に切られる。

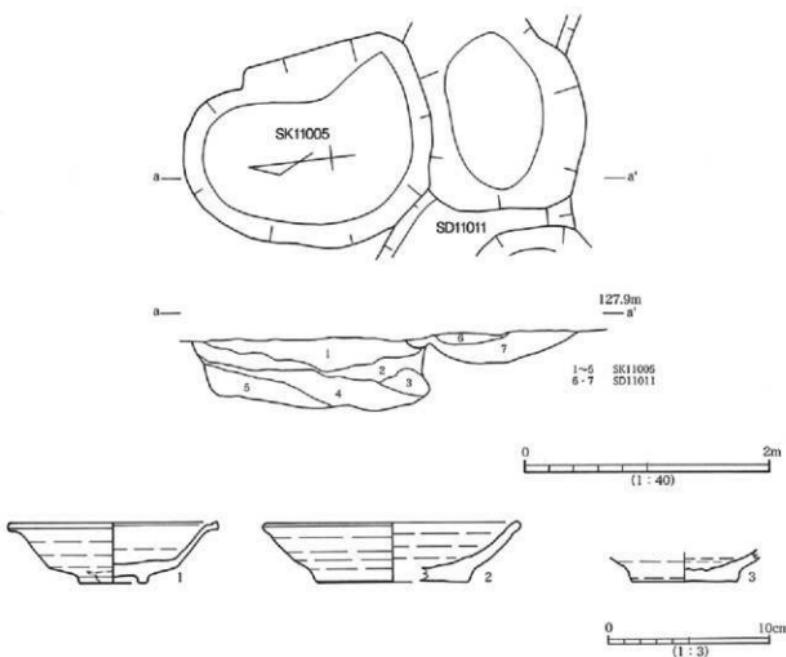
出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物は 16 世紀末から 17 世紀半ばまでの年代幅がある。

IV 検出された遺構と遺物



第139図 SK11002



第140図 SK11005

**SK11002**

位 置 5-10 グリッド。

規 模 残存長軸 5.00 m、短軸 2.46 m、検出面からの深さ 0.97 m。

形 態 平面形態はくずれた隅丸方形を呈する。底面はかなり起伏があり、南側が深く北側が浅い。壁面は北側が緩やかに立ち上がり、東西が急に立ち上がる。土層は地山由來のブロックを多く含むことから、一括埋土と思われる。SD11004 に切られる。

出土遺物 図化資料以外では、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 年代決定資料が少ないが、3や図化資料以外の肥前系磁器からⅢ期以降であろう。

**SK11005**

位 置 5-9 グリッド。

規 模 長軸 2.06 m、短軸 1.55 m、検出面からの深さ 0.55 m。

形 態 平面形態は南北に長い梢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。土層は地山由來のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。SD11011 に切られる。

出土遺物 図化資料以外では、黒瓦が 2 点出土しているのみである。

年 代 出土遺物が少ないが、肥前系磁器が出土していないのでⅠ期の可能性が高い。

### 3 溝跡

SD109

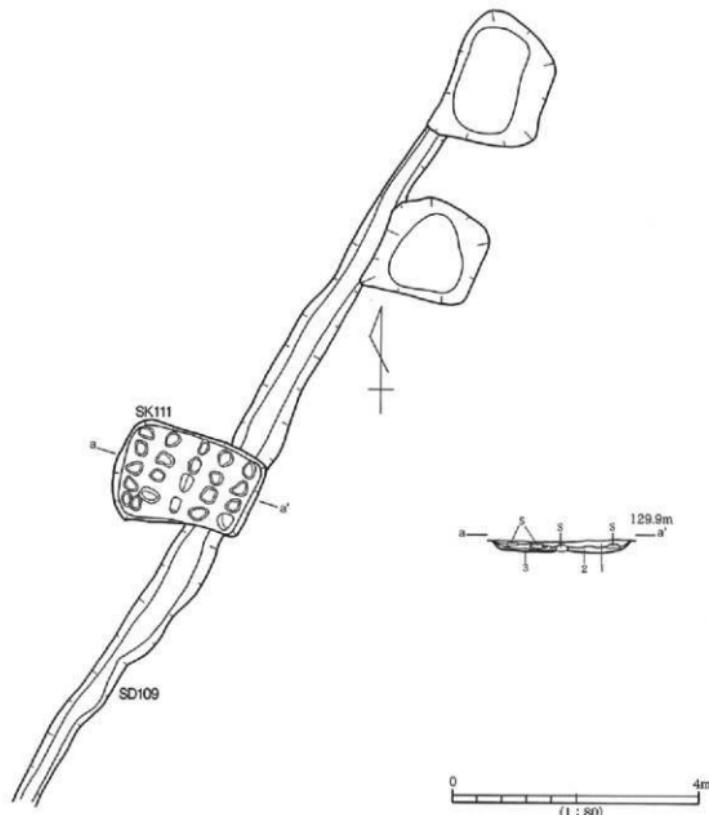
位 置 12-18~12-19 グリッド。

規 模 検出された長さ 13.8 m、幅 0.7 m 前後、検出面からの深さ 0.2 m 前後。

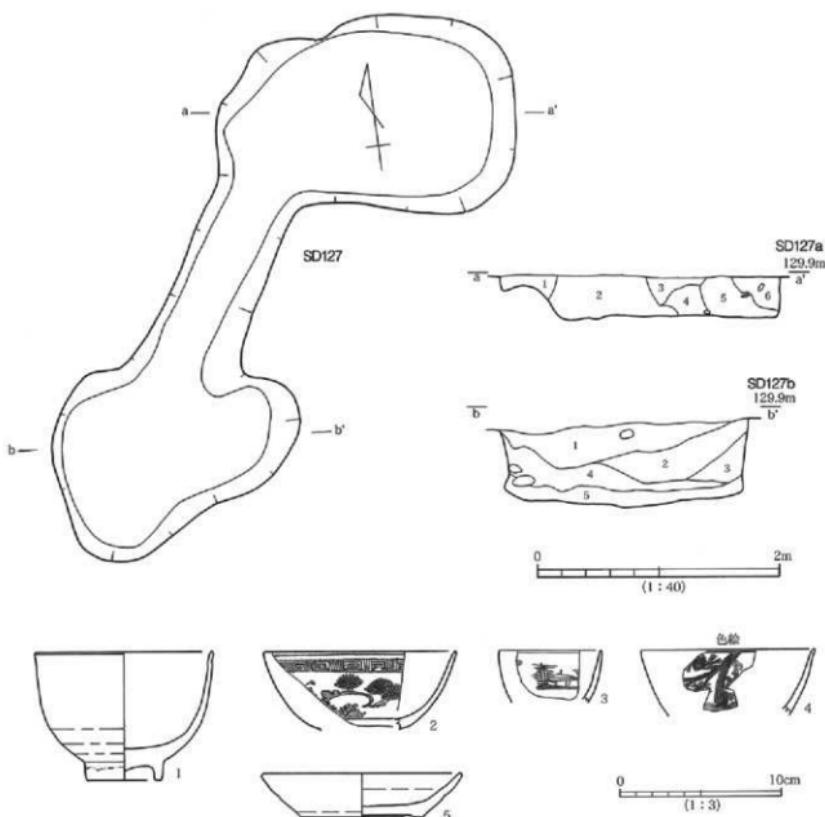
形 態 北東から南西に走る溝である。中央やや南よりの地点に 2.3 m × 1.6 m の方形の土坑である SK111 が付属する。この土坑には直径 30 cm ほどの砾が東西 5 列、南北 4 列にならべられている。

出土遺物 SD109、SK111 ともに出土遺物はない。

年 代 不明。



第141図 SD109



第142図 SD127

**SD127**

**位 置** 11 - 18 ~ 12 - 19 グリッド。

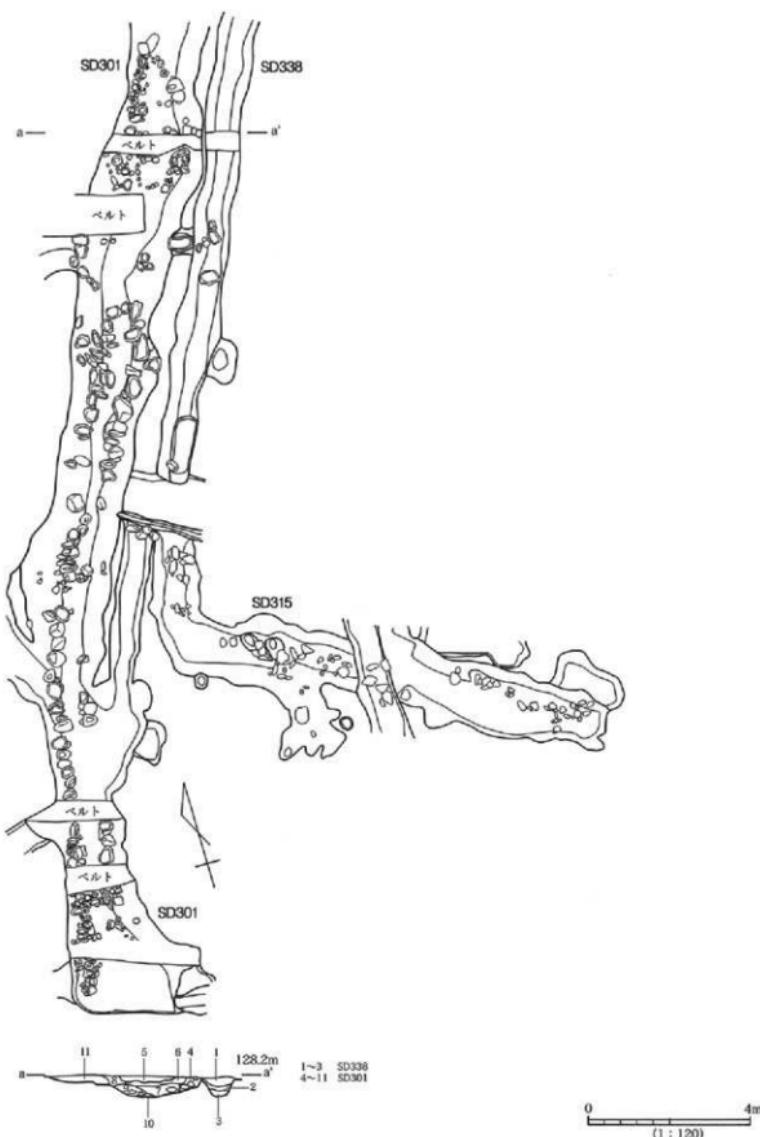
**規 模** 検出された長さ 2.6 m、幅 0.4 ~ 1.1 m、検出面からの深さ 0.4 m 前後。

**形 態** 南北に走る溝だが、北端、南端はともに梢円形の土坑のような形状を呈する。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。土層は地山由来のブロックや炭化物などの混入物を多く含むことから、一括埋土であると思われる。

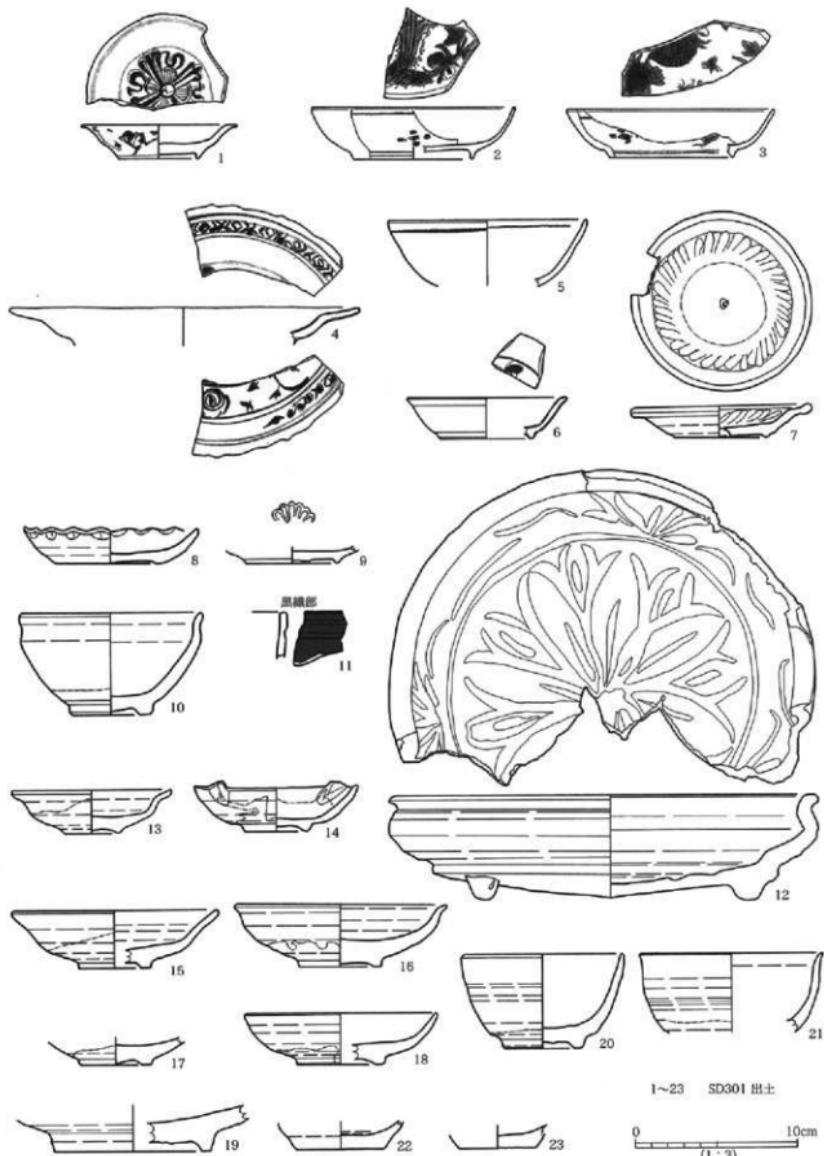
**出土遺物** 図化資料以外では、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

**年 代** 出土遺物が少ないが、2 などよりⅢ期であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第143図 SD301・SD315・SD338 (1)

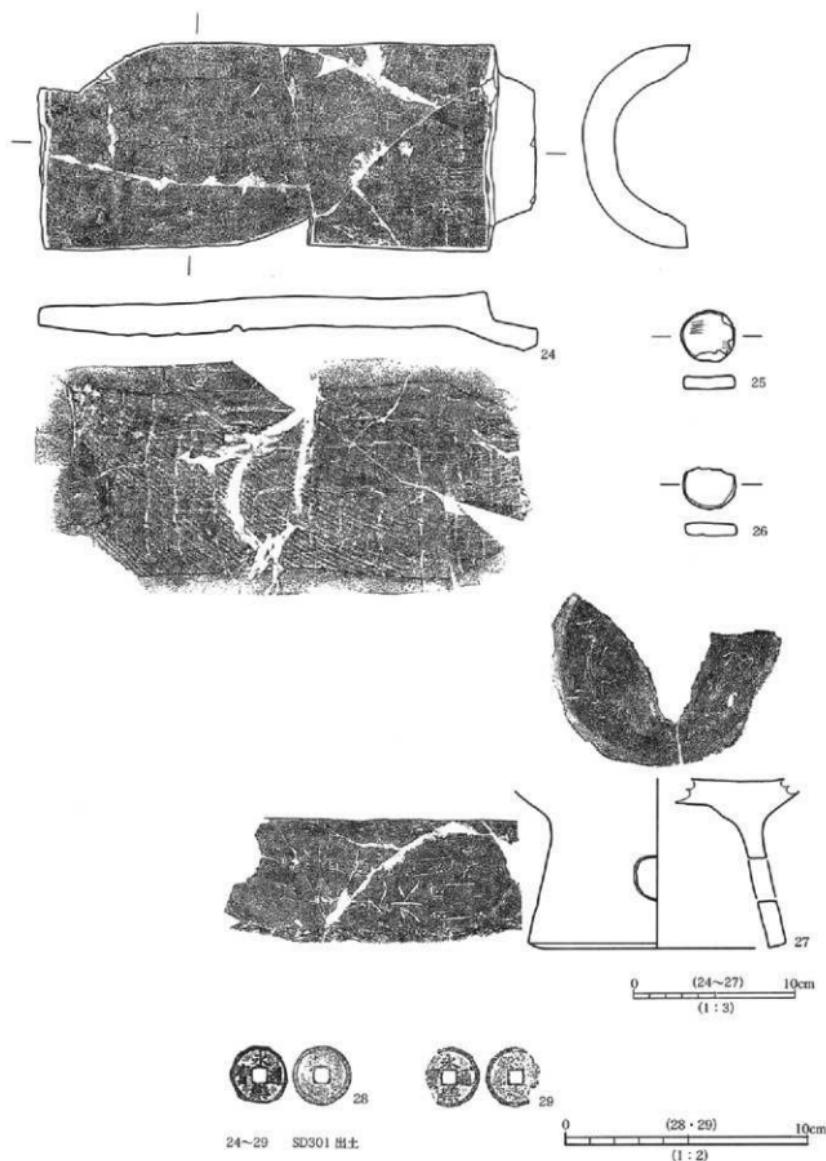


I~23 SD301 出土

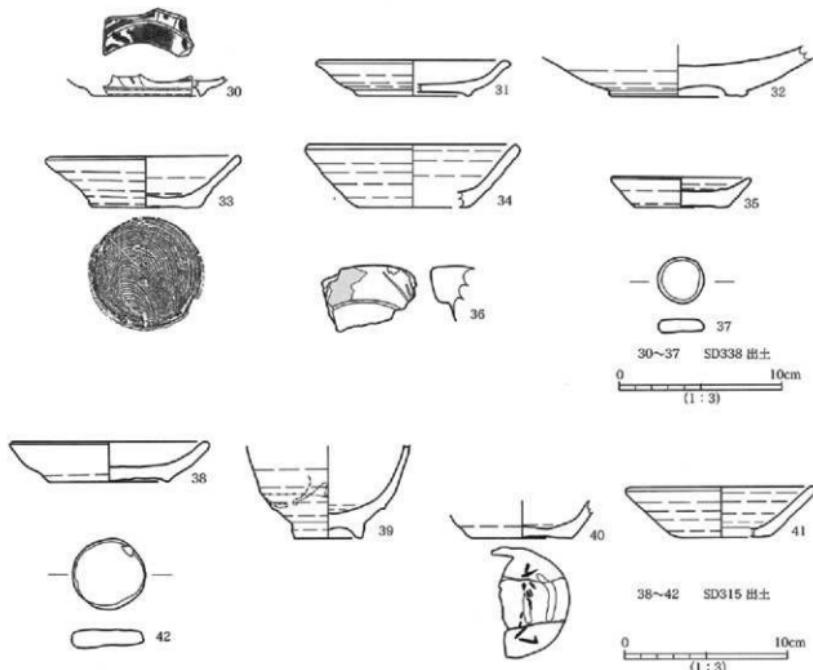
0  
(1 : 3) 10cm

第144図 SD301・SD315・SD338 (2)

IV 検出された造構と遺物



第145図 SD301・SD315・SD338 (3)



第146図 SD301・SD315・SD338 (4)

**SD301・SD315・SD338**

**位 置** SD301 6-5~6-6グリッド。

SD315 6-6グリッド。

SD338 6-5グリッド。

**規 模** SD301 検出された長さ 24.6m、幅 1.4~3.2m、検出面からの深さ 0.5m前後。

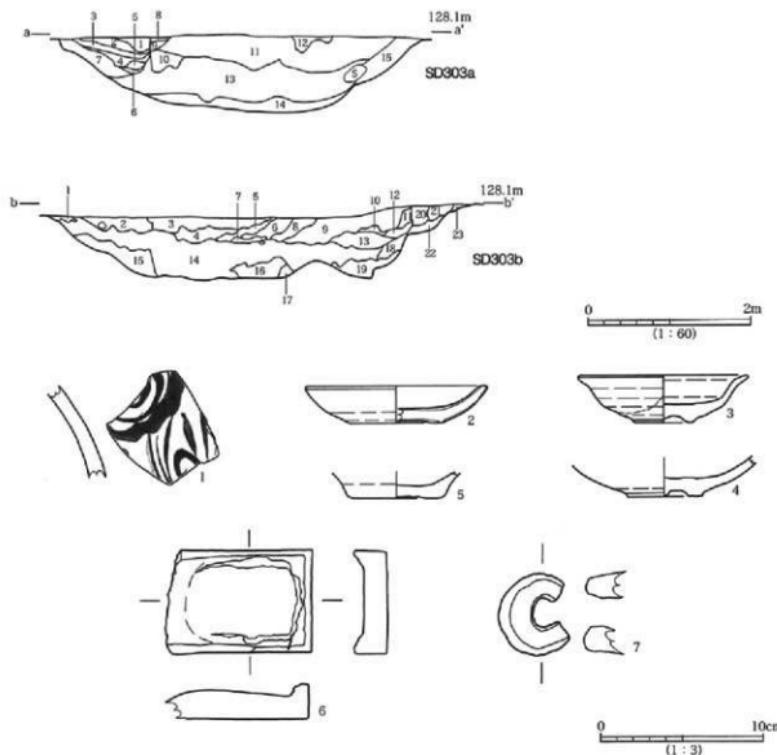
SD315 検出された長さ 南北 3.5×東西 10.5m、幅 1.4m前後、検出面からの深さ 0.5m前後。

SD338 検出された長さ 11.4m、幅 1.0m前後、検出面からの深さ 0.5m前後。

**形 態** SD301 は南北に直線的に走る溝である。底面は断面形状がやや丸みを帯び、東西に2列に5~30cmほどの縁が2段から3段積まれている。壁面は緩やかに立ち上がる。SD338 は SD301 と平行して南北に直線的に走る溝で底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。SD315 は SD338 から南に続くように伸び、途中で直角に東に曲がる。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。土層は SD301、SD338 とともに下層は砂粒を含むことから、水流を伴う自然堆積と考えられる。SD301 は調査期間の関係で完掘することができなかった。3 遺構の切り合いはない。

**出土遺物** 濑戸美濃の志野大皿や黒織部茶碗、金箔瓦などが出土しており、出土遺物からこの地域の居住者の階層は高いといえる。図化資料以外には、3 遺構ともに輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。肥前系陶器は胎土目積み段階の製品が大半を占めるが、SD301 に

#### IV 検出された遺構と遺物



第147図 SD303

砂目積みの灰釉皿が1点だけ出土している。

年 代 3遺構とも、肥前系磁器が出土していないのでⅠ期である。

#### SD303

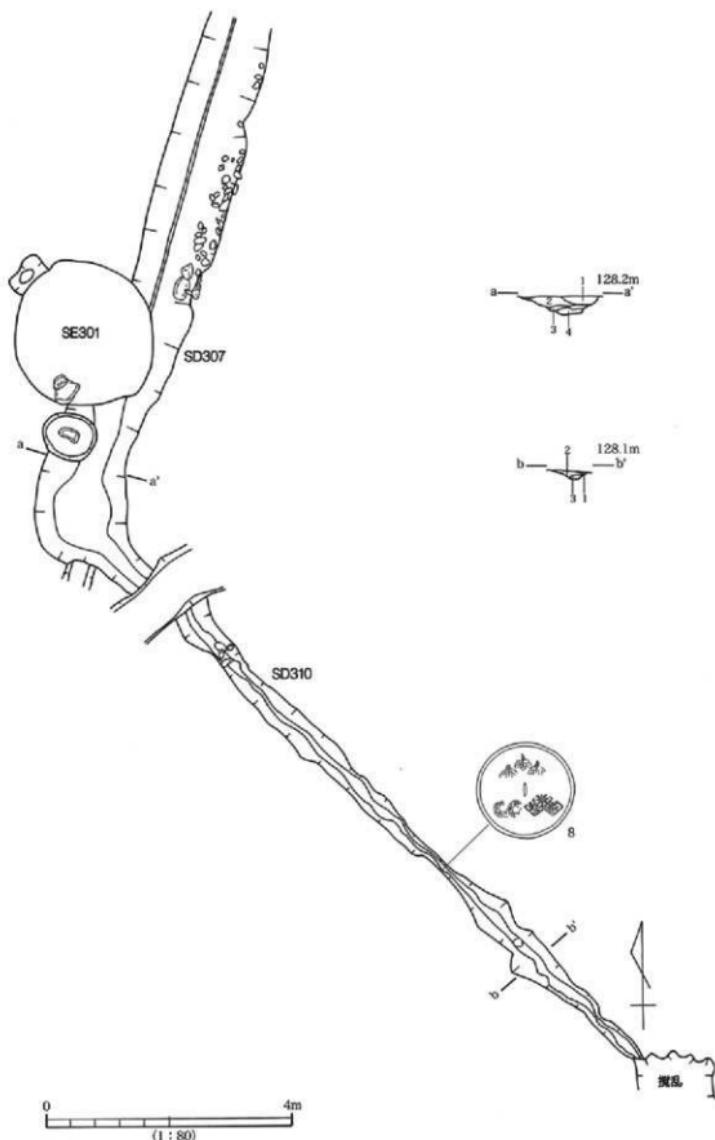
位 置 7-5~7-6グリッド。

規 模 検出された長さ7.4m、幅4.3m前後、検出面からの深さ0.7m前後。

形 態 南北に直線的に走る溝である。北端は調査区外となるため確認できなかった。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

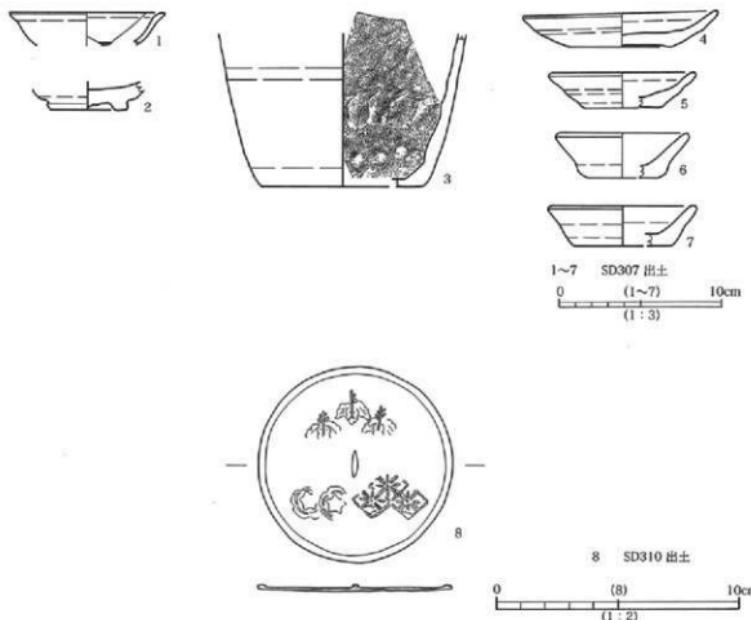
出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器が出土していないことからⅠ期であろう。



第148図 SD307・SD310 (1)

#### IV 検出された遺構と遺物



第149図 SD307・SD310 (2)

#### SD307・SD310

位置 SD307 6-5グリッド。

SD310 6-6グリッド。

規模 SD307 検出された長さ 9.2 m、幅 1.4 前後m、検出面からの深さ 0.3 m前後。

SD310 検出された長さ 10.6 m、幅 0.2 ~ 0.6 m、検出面からの深さ 0.2 m前後。

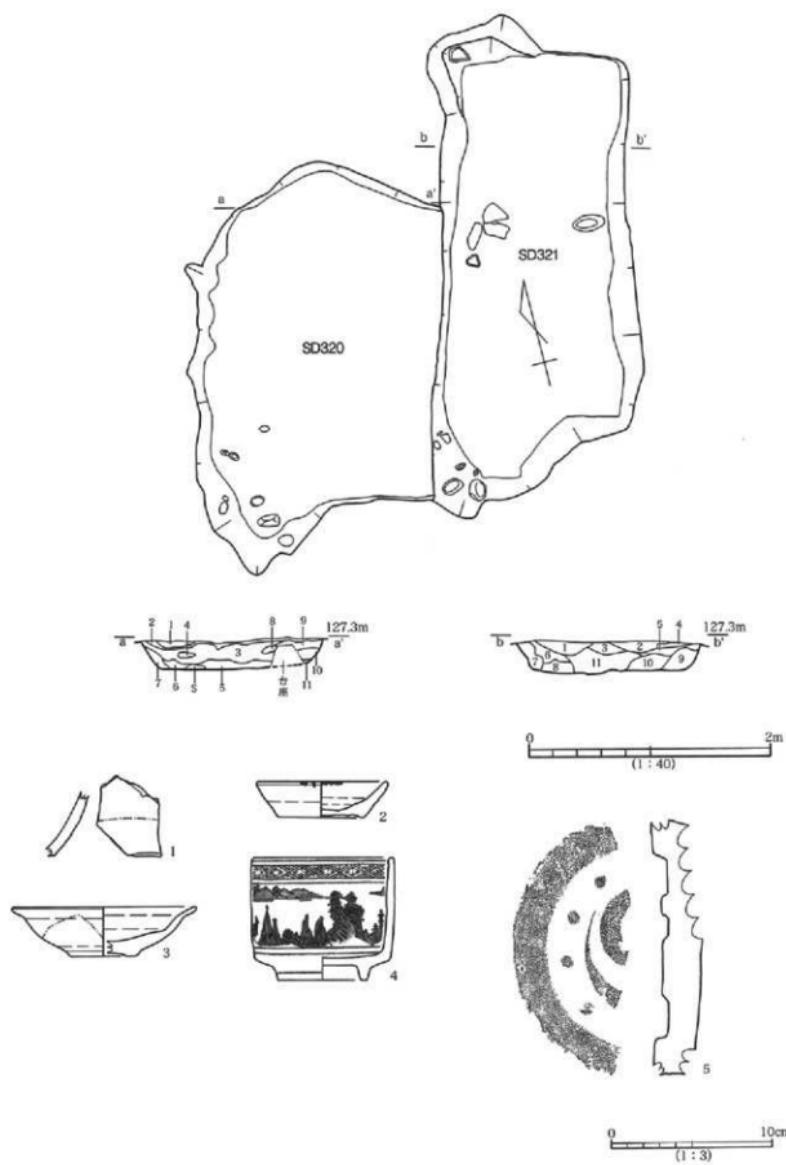
形態 SD307 は南北に直線的に走る溝である。断面形態は逆三角形を呈する。底面は非常に狭い。壁面は緩やかに立ち上がる。SD310 は SD307 と時期差はないが、SD307 の南端が 120°ほど曲がる位置にあり北西から南東に直線的に走る溝である。断面形態は逆三角形を呈し、底面は非常に狭く、壁面は緩やかに立ち上がる。土層はともに、下層に砂粒の堆積が認められることから水流を伴う自然堆積と考えられる。SD307 は SE301 に切られる。

出土遺物 SD310 から銅鏡が出土しており、地鎮などの祭祀が行われた可能性が指摘できる。図化資料以外では、肥前系陶器、ロクロかわらけなどが出土している。

年代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器が出土していないことからⅠ期であろう。

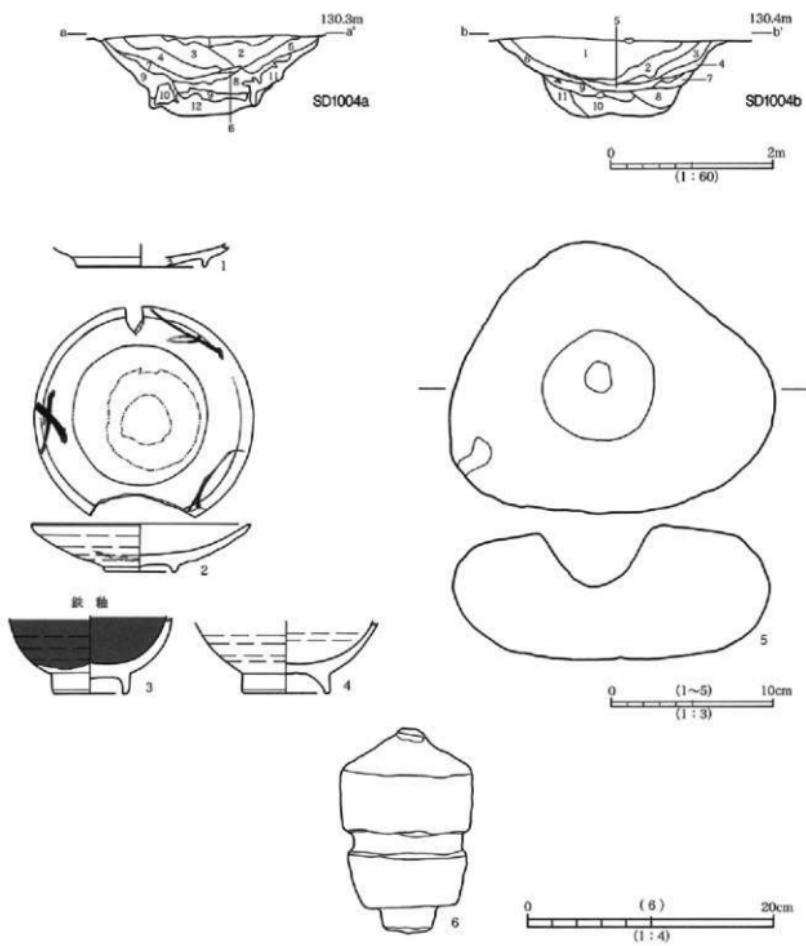
#### SD320・SD321

位置 6-6グリッド。

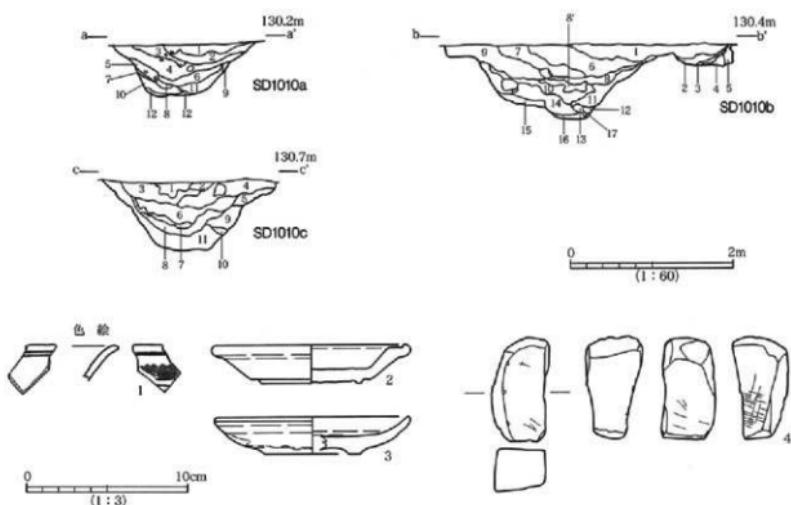


第150図 SD320・SD321

IV 検出された構造と遺物



第151図 SD1004



第152図 SD1010

**規 模** SD320 検出された長さ 2.9 m、幅 2.0 m 前後、検出面からの深さ 0.2 m 前後。

SD321 検出された長さ 4.0 m、幅 1.6 m 前後、検出面からの深さ 0.2 m 前後。

**形 態** 平面形態はともに南北に長い隅丸方形の土坑のような形態である。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。SD320 は SD321 に切られる。

**出土遺物** SD320 は出土遺物がない。SD321 は図化資料以外に、肥前系陶器、ロクロかわらけ、黒瓦が出土している。

**年 代** SD321 は出土遺物は少ないが、肥前系磁器は初期伊万里のみであるので II 期であろう。SD320 は切り合より SD321 より古い時期だが、出土遺物がないので正確な年代は不明である。

#### SD1004

**位 置** 10-10 ~ 10-11 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 12.5 m、幅 2.7 m 前後、検出面からの深さ 0.9 m 前後。

**形 態** 南北に直線的に走る溝である。南北両端は擾乱に切られ、全体像は不明である。底面はやや丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で先掘することができなかった。SD1014 を切る。

**出土遺物** 図化資料以外では、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器などが出土している。

**年 代** SD1014 との切り合より、埋没年代は 17 世紀半ば以降であろう。

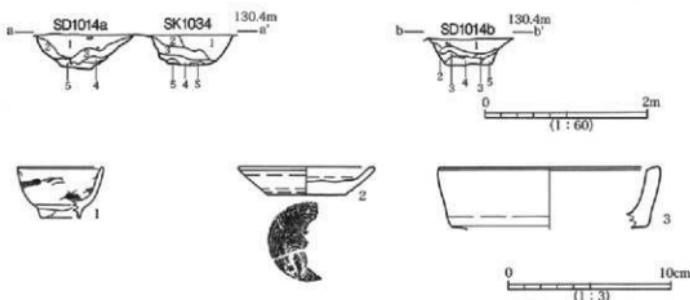
#### SD1010

**位 置** 10-11 ~ 12-11 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 南北 4.0 × 東西 43.7 m、幅 2.0 m 前後、検出面からの深さ 0.8 m 前後。

**形 態** 南北に走り、南端でほぼ直角に東に曲がり、ここから東西に直線的に走る溝である。北側と東側

#### IV 検出された遺構と遺物



第153図 SD1014

は搅乱に切られ、全体像は不明である。底面はやや丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

**出土遺物** 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦が出土している。また、イヌの骨がまとまって出土した。なお、この骨はSE9004出土のものと一部接合した。

**年代** 肥前系磁器はⅢ期に該当するものだが、完掘していないので時期の特定は避けたい。

#### SD1014

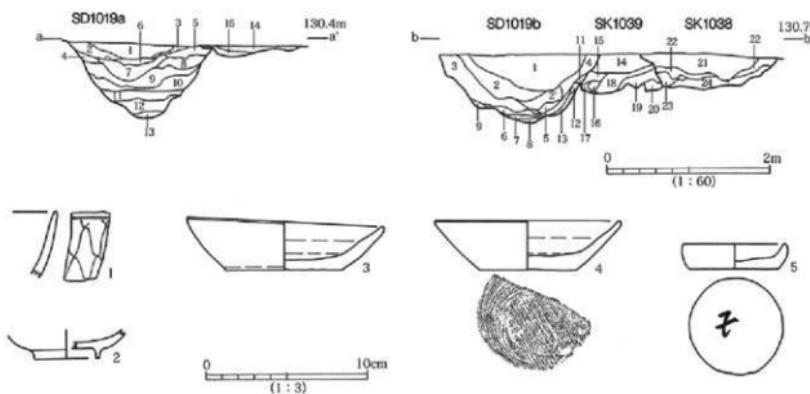
**位置** 9-11～10-11 グリッド。

**規模** 検出された長さ 21.3 m、幅 1.2 m 前後、検出面からの深さ 0.4 m 前後。

**形態** 東西に直線的に走る溝である。底面はほぼ平坦で壁面は急に立ち上がる。SD1004 に切られる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

**出土遺物** 固化資料以外には、肥前系陶磁器、黒瓦が出土している。なお、被熱したヒトの頭蓋骨および四肢骨が出土している。

**年代** 肥前系磁器はⅢ期に該当するものだが、完掘していないので時期の特定は避けたい。



第154図 SD1019

**SD1019**

**位置** 10-11～11-11 グリッド。

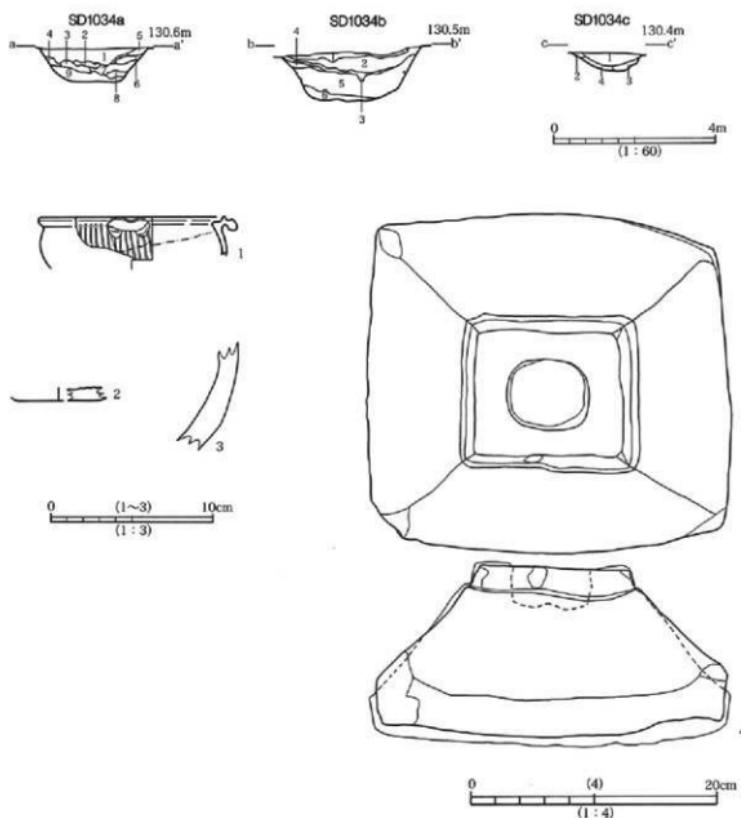
**規模** 検出された長さ 15.3 m、幅 1.8 m前後、検出面からの深さ 0.9 m前後。

**形態** 東西に直線的に走る溝である。底面は丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。土層は下層に均質な層が互層に堆積しており、自然堆積と思われる。SE1008 に切られる。調査期間の関係で完掘することができなかつた。

**出土遺物** 固化資料以外では、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけなどが出土している。

**年代** 肥前系磁器はⅢ期に該当するものだが、完掘していないので時期の特定は避けたい。

#### IV 検出された遺構と遺物



第155図 SD1034

#### SD1034

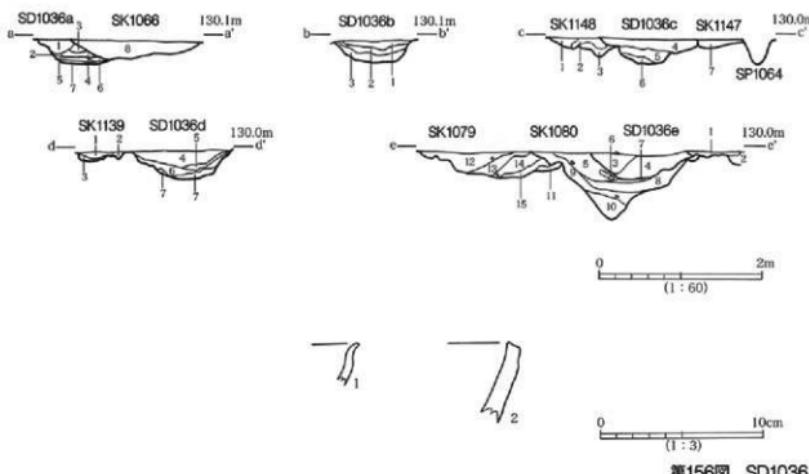
位置 12-11～11-13 グリッド。

規模 検出された長さ 43.3 m、幅 0.8 ～ 1.9 m、検出面からの深さ 0.2 ～ 0.6 m。

形態 南北に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。検出された部分の中央やや南よりで幅が急に狭くなっている箇所がある。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶器が出土している。

年代 不明。



第156図 SD1036

## SD1036

位 置 9-11~9-12グリッド。

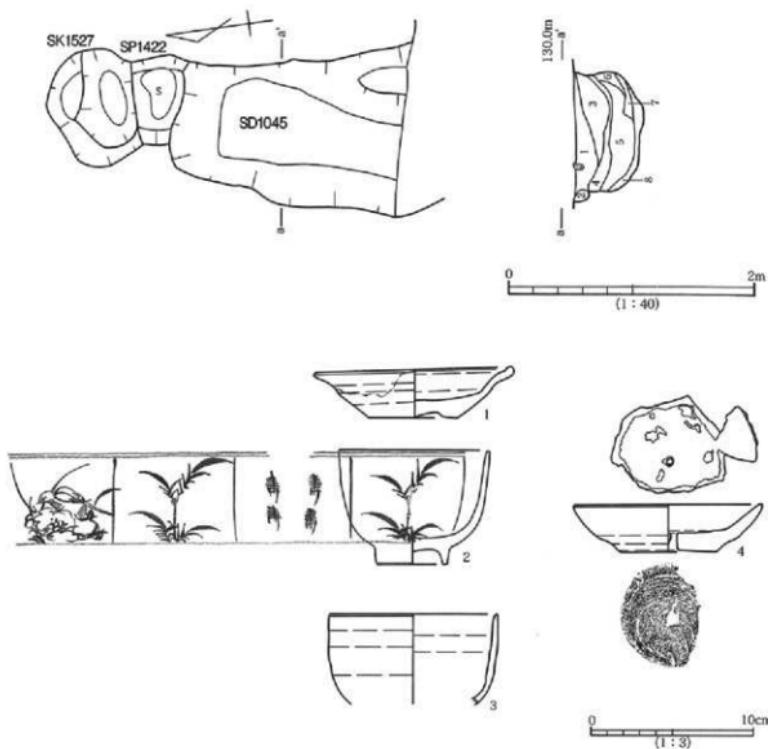
規 模 検出された長さ11.4m、幅0.9m前後、検出面からの深さ0.3m前後。

形 態 南北に直線的に走る溝である。底面はやや丸みを帯び壁面はやや急に立ち上がる。

出土遺物 図化資料以外では、古代の遺物が混入しているのみである。

年 代 1より17世紀前半以降である。

IV 検出された遺構と遺物



第157図 SD1045

**SD1045**

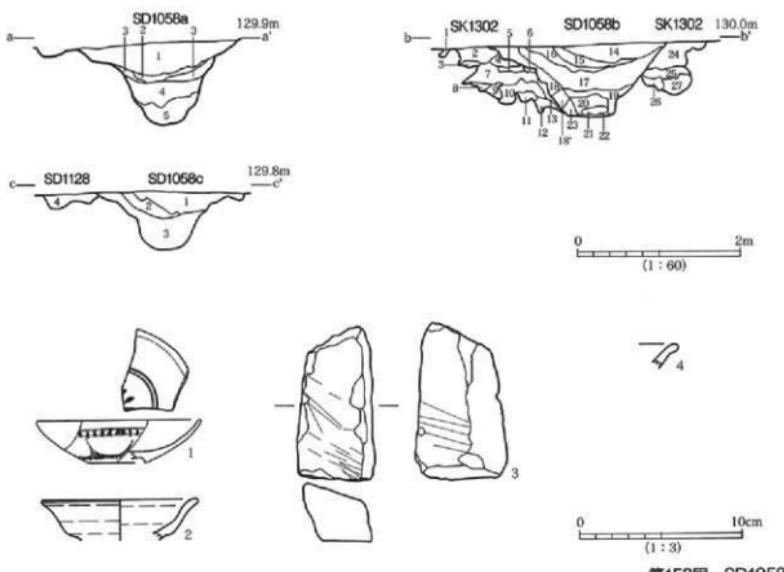
位 置 8 - 12 グリッド。

規 模 検出された長さ 1.9 m、幅 1.2 m、検出面からの深さ 0.6 m。

形 象 南北に長い方形の土坑のような形状を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。調査期間の関係で完掘することができなかった。SP1422 との切り合いは不明である。

出土遺物 固化資料以外では、輸入磁器、肥前系陶器・磁器の破片が各 1 点出土しているのみである。

年 代 肥前系磁器はⅢ期に該当するものだが、完掘していないので時期の特定は避けたい。



第158図 SD1058

## SD1058

位 置 9-13~9-14 グリッド。

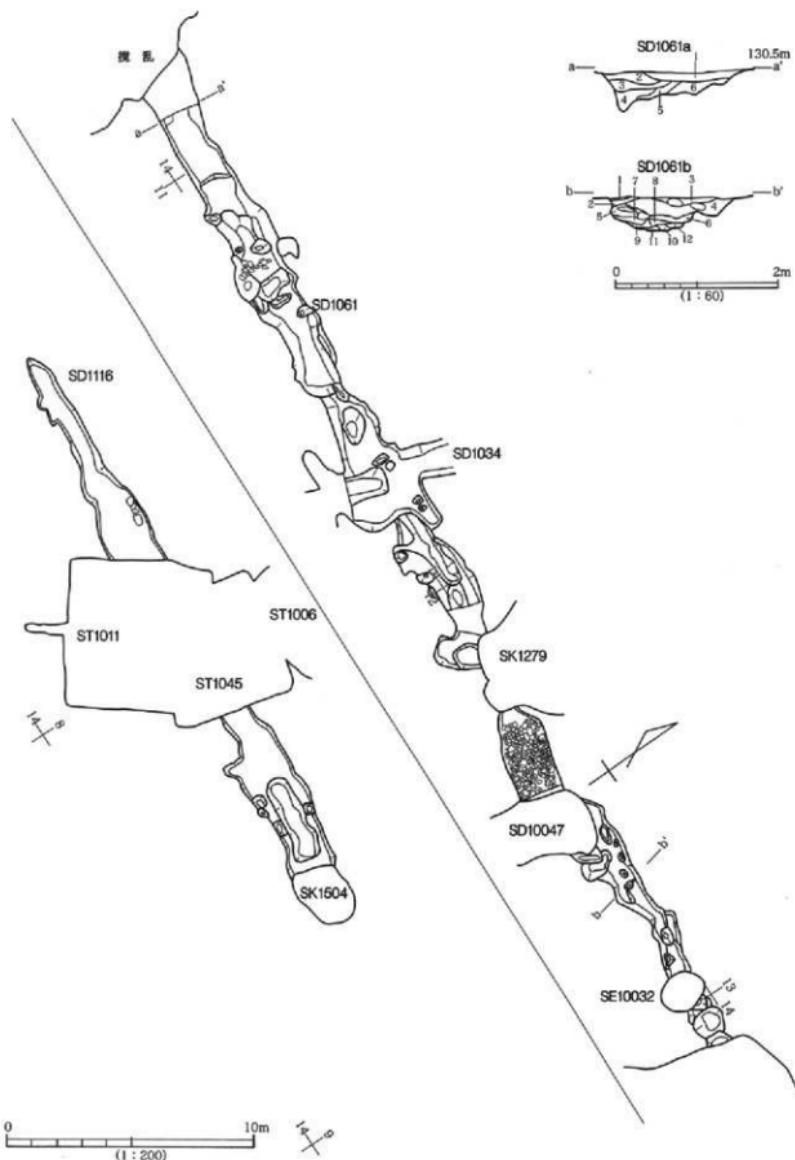
規 模 検出された長さ 61.2 m、幅 1.6 前後、検出面からの深さ 0.7 ~ 1.0 m。

形 態 南北に直線的に走る溝である。底面は丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。土層は下層は自然堆積、上層は一括埋土と思われる。

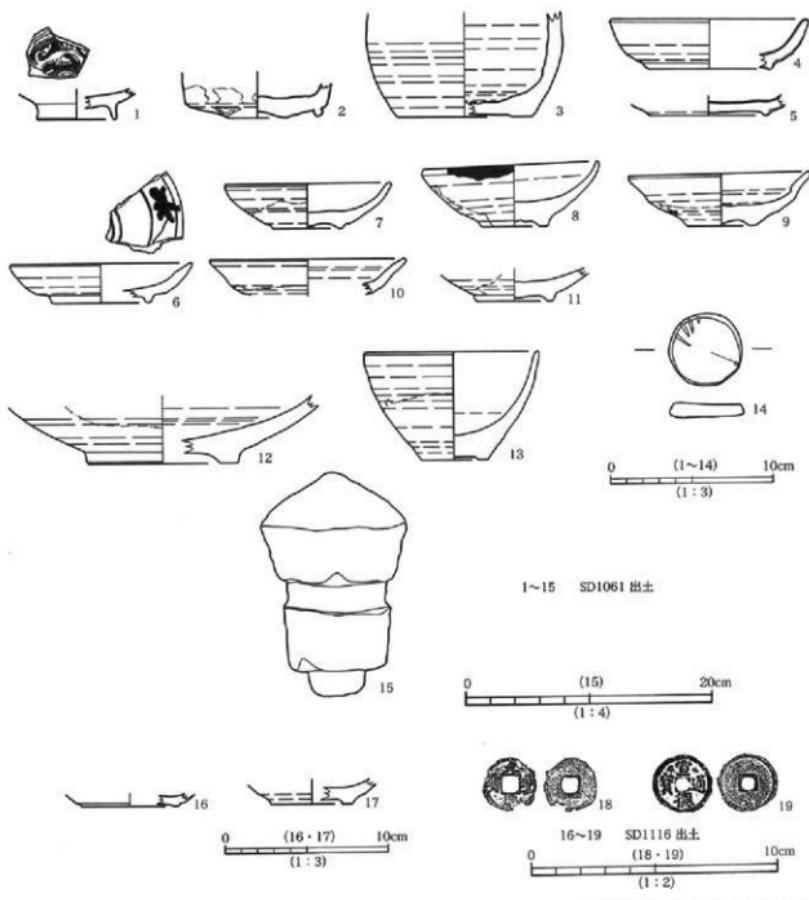
出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物が少なく、かつ年代に幅がある。埋没年代はおおよそ 17 世紀前半から半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第159図 SD1061・SD1116 (1)



第160図 SD1061・SD1116 (2)

## SD1061・SD1116

位 置 SD1061 10 - 13 ~ 13 - 13 グリッド。

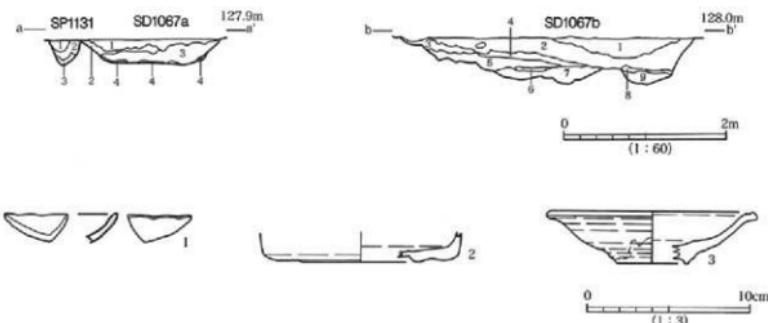
SD1116 7 - 13 ~ 8 - 13 グリッド。

規 模 SD1061 検出された長さ 45.9 m、幅 1.7 m 前後、検出面からの深さ 0.5 m 前後。

SD1116 検出された長さ 24.1 m、幅 1.8 m 前後、検出面からの深さ 0.5 m 前後。

形 態 ともに東西に走る溝である。SD1061 と SD1116 は間隔があるが、互いに延長線上に位置し形態が類似しているので、同じ性格をもつ溝である可能性が高いと判断した。底面は起伏が多く一部拳大ほどの礫が散乱している場所がある。壁面は全体的に急に立ち上がる。土層は砂粒を含む層が互層に堆積しており、

#### IV 検出された遺構と遺物



第161図 SD1067

水流をともなった自然堆積と思われる。SK1279、SK1504、SD10047、SE10032に切られる。ST1011、ST1045を切る。SD1061は東西を搅乱によって切られ全体は不明である。

**出土遺物** 固化資料以外には、とともに輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。なお、固化していないが SD1061 から岸岳系の肥前系陶器が 2 点出土している。

**年 代** 肥前系磁器が出土していないことから、I 期である。

#### SD1067

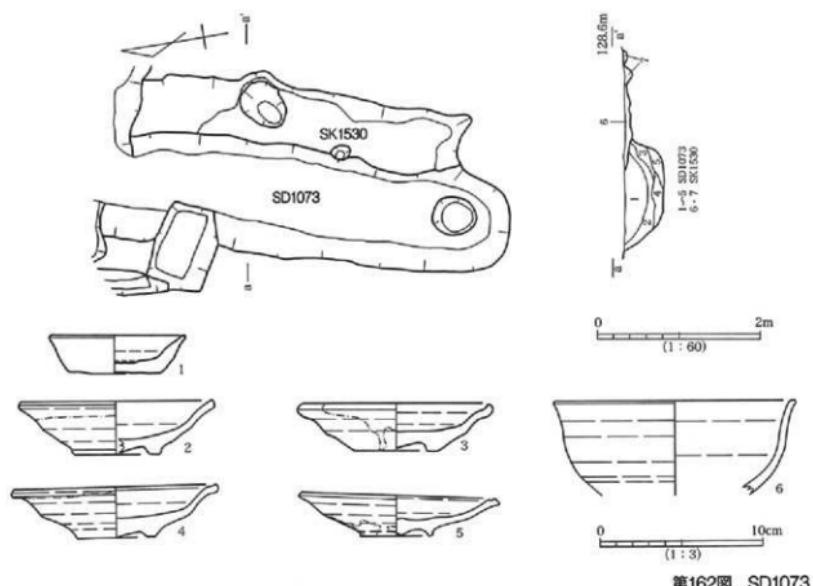
**位 置** 6 - 12 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 18.8 m、幅 2.0 m 前後、検出面からの深さ 0.3 ~ 0.6 m。

**形 態** 東西に直線的に走る構である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

**出土遺物** 固化資料以外には、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

**年 代** 出土遺物が少なく、かつ完掘していないので時期の特定は避けたい。



第162図 SD1073

**SD1073**

**位 置** 7-12 グリッド。

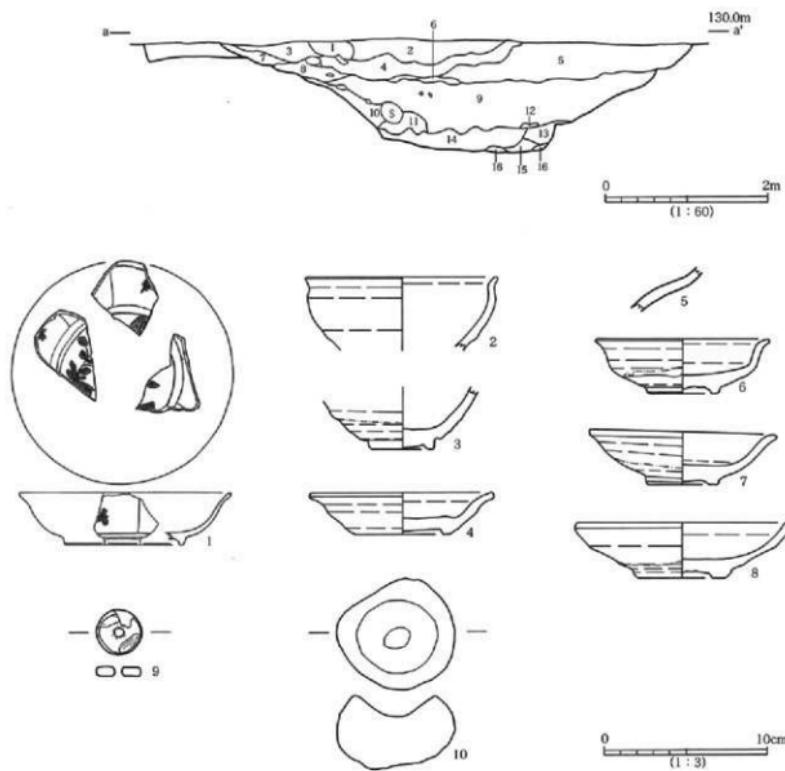
**規 模** 検出された長さ 4.9 m、幅 1.4 m 前後、検出面からの深さ 0.5 m 前後。

**形 態** 南北に走る溝である。東側の SK1530 に切られる。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックや焼土などの混入物があることから、一括埋土と思われる。黒瓦が 114 点と多量に出土しているので、瓦や土器・陶磁器を廃棄するための溝であると思われる。

**出土遺物** 固化資料以外では、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。

**年 代** 肥前系磁器が出土していないことから、I 期である。

IV 検出された造構と遺物



第163図 SD1077

SD1077

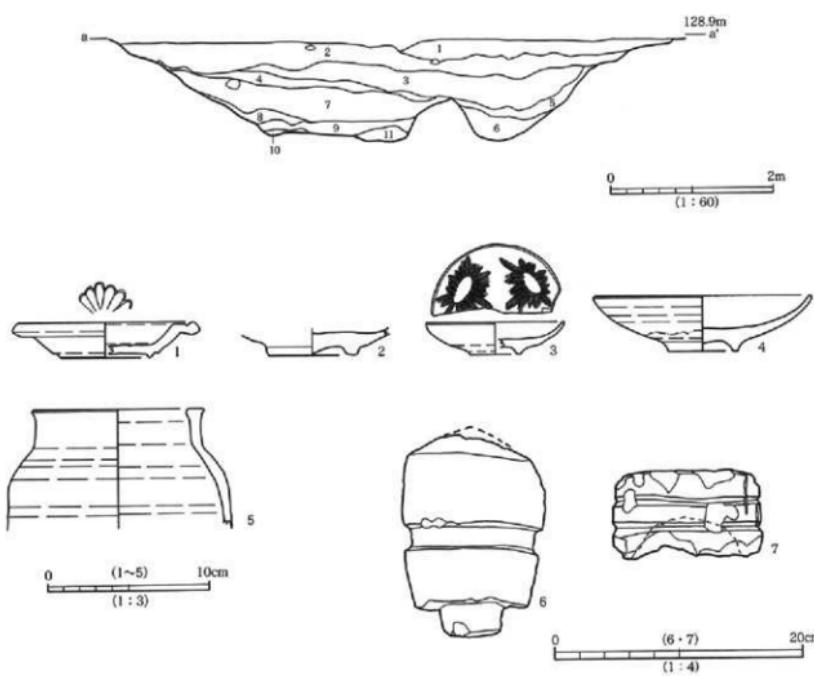
位 置 5-12～5-13 グリッド。

規 模 検出された長さ 13.8 m、幅 6.2 m 前後、検出面からの深さ 0.4 m 前後。

形 態 南北に直線的に走る溝である。北側は調査区外で全体は不明である。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

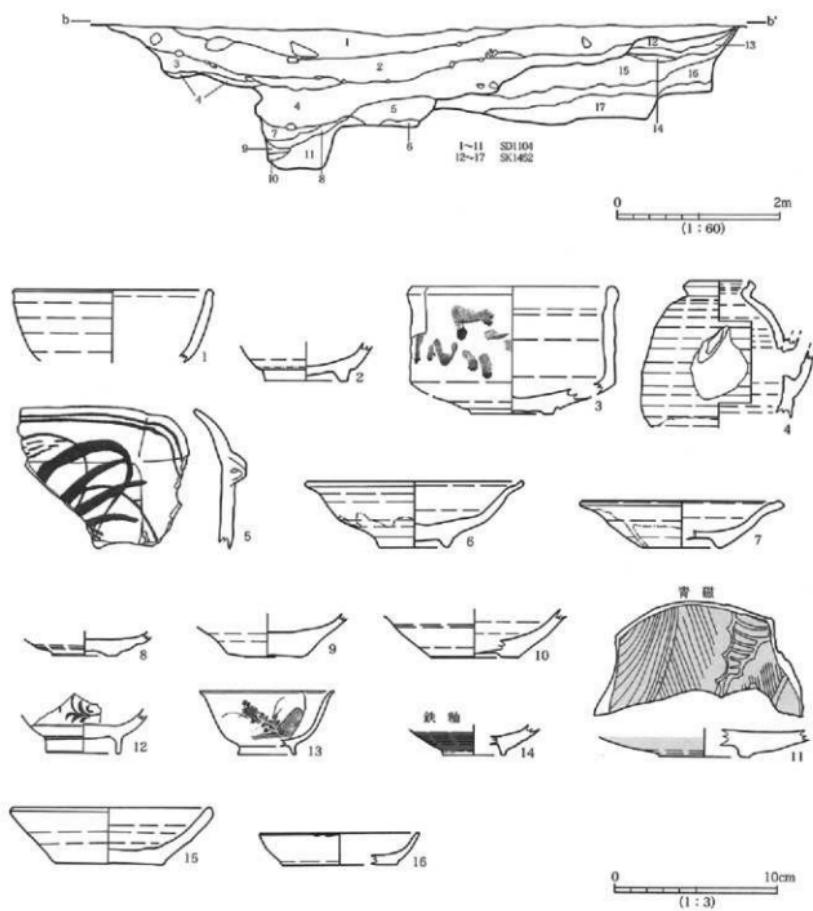
出土遺物 図化資料以外では、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、黒瓦などが出土している。他にイルカやイヌの骨が出土している。

年 代 2 が瀬戸美濃の登窯第 3～4 小期であり 17 世紀半ばから後半の年代が与えられるが、完掘していないので年代の特定は避けたい。

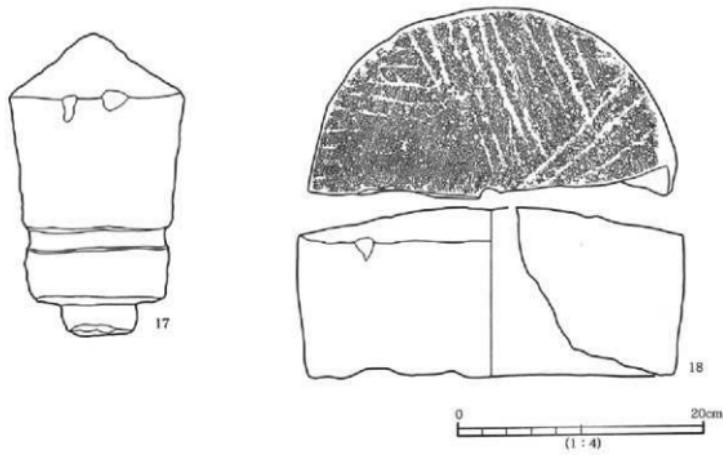


第164図 SD1104①

IV 検出された遺構と遺物



第165図 SD1104② (1)



第166図 SD1104② (2)

## SD1104

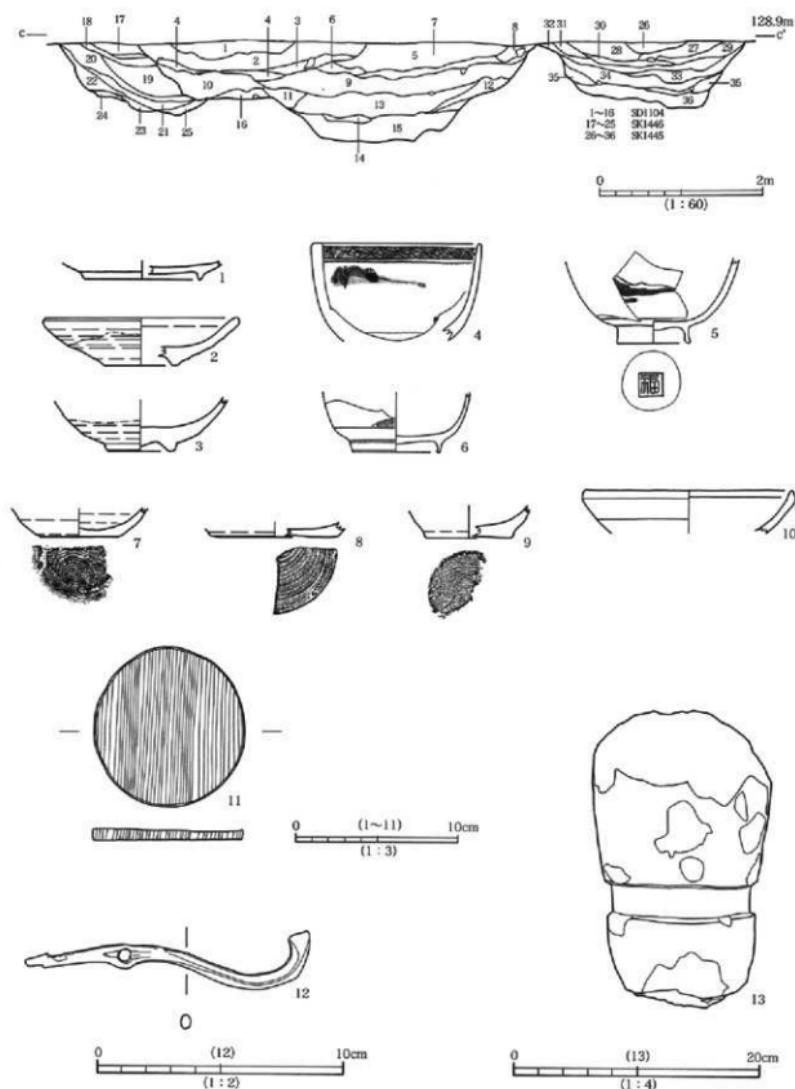
位 置 5-12 ~ 6-15 グリッド。

規 模 検出された長さ 南北 54.1 m × 東西 31.5 m、幅 2.2 ~ 4.6 m、検出面からの深さ 1.2 ~ 1.7 m。

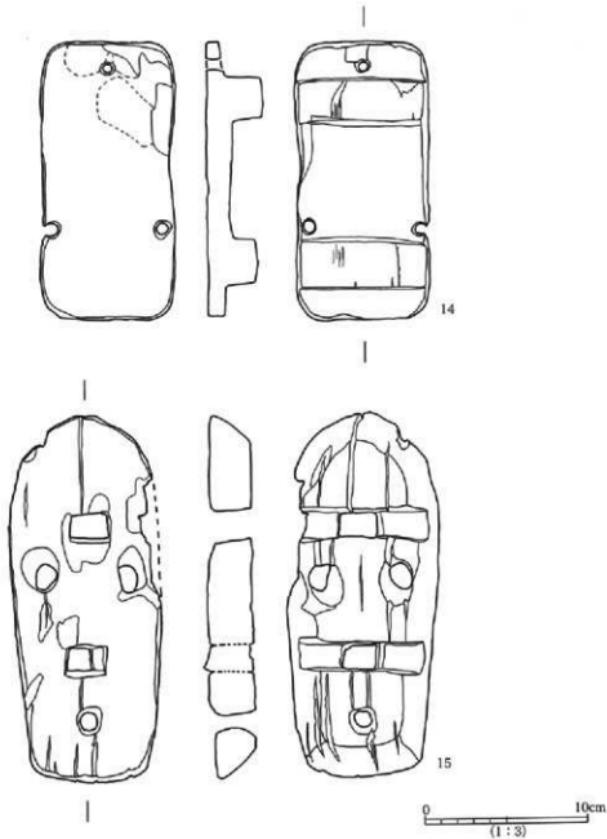
形 態 5-12 グリッドから南へ直線的に走り、南端で東に曲がり直線的に走る溝である。北端は調査区外である。調査期間の関係で完掘することができずトレンチ状に精査したのみで、切り合い関係のある他の遺構との遺物の帰属を分けることもできなかった。そのため、遺構の性格や年代も把握できなかった。本報告書では、各トレンチごとの土層断面と出土遺物のみを掲載した。

出土遺物 このトレンチも図化資料のほかに、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

IV 検出された遺構と遺物

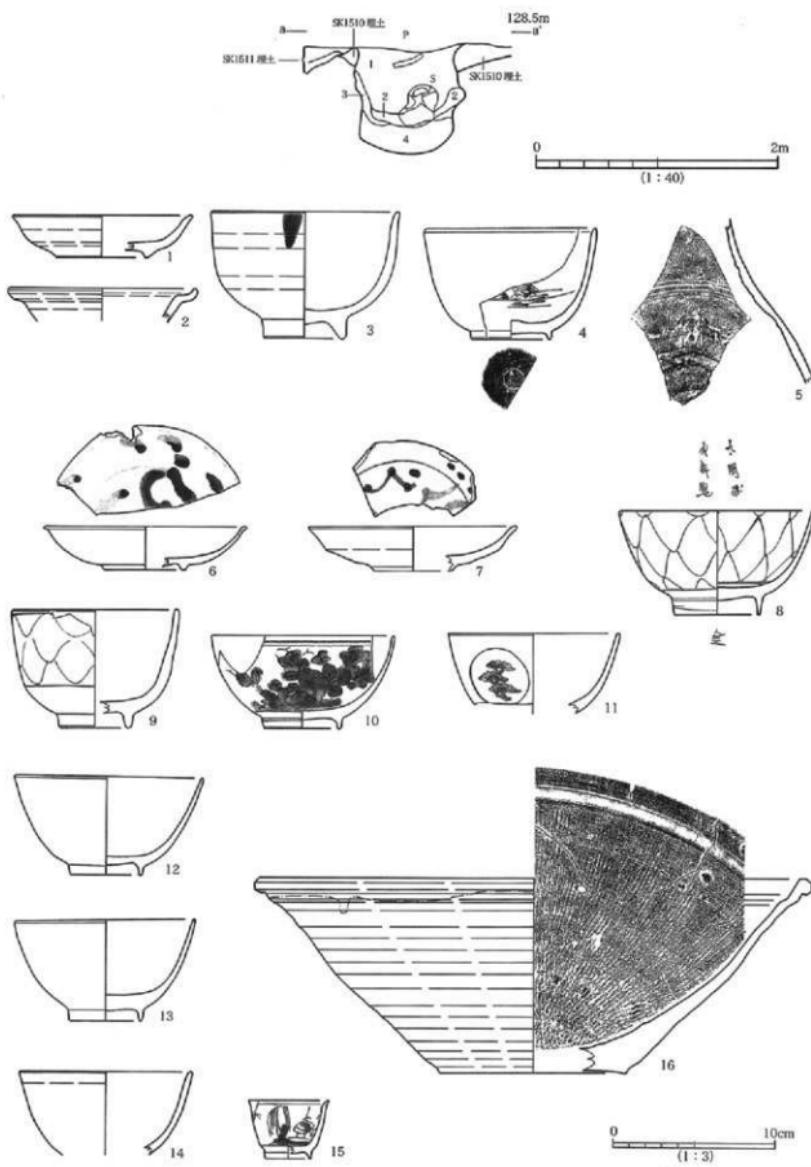


第167図 SD1104③ (1)

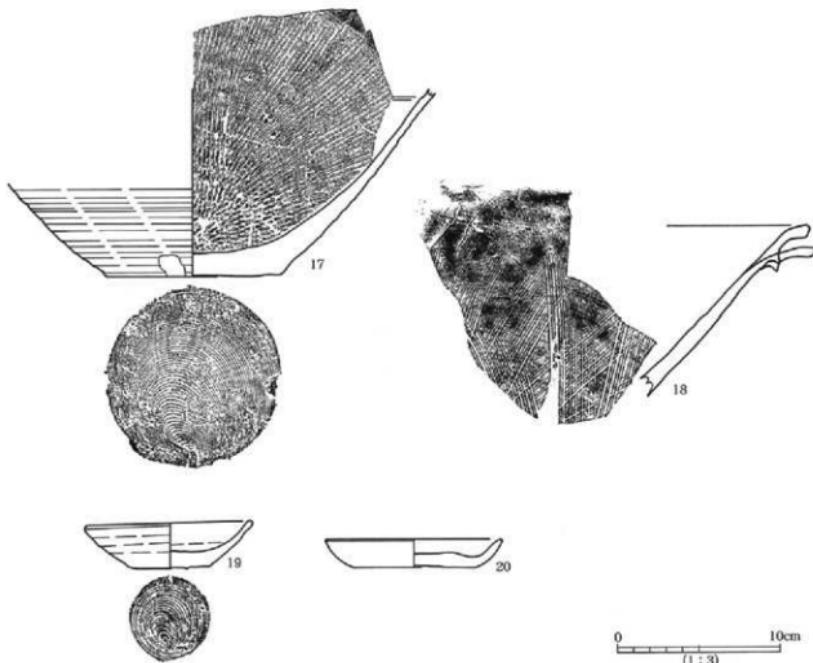


第168図 SD1104③ (2)

IV 検出された遺構と遺物



第169図 SD1119 (1)



第170図 SD1119 (2)

## SD1119

位 置 7-14~8-14 グリッド。

規 模 検出された長さ 37.9 m、幅 1.1 m 前後、検出面からの深さ 0.8 m 前後。

形 態 東西に直線的に走る溝である。底面はやや丸みを帯び、西側が深く東側は段を形成しながら浅くなる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。1層より多量の土器・陶磁器が出土した。SK1510、SD1118、SD1122、SD1129、ST1049 を切る。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里の皿が若干出土しているが、主体は高台断面三角形の製品と高台断面U字状の製品であるので、Ⅲ期の後半であろう。

#### IV 検出された造構と遺物



第171図 SD1129

#### SD1129

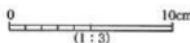
位置 7-14~8-14 グリッド。

規模 検出された長さ 10.1 m、幅 1.1 m 前後、検出面からの深さ 0.2 m 前後。

形態 東西に直線的に走る溝である。SD1119 に切られ全体はわからない。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層を観察することができなかつた。

出土遺物 固化資料以外では、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。

年代 出土遺物は少ないが、1より 17 世紀前半から半ばであろう。



第172図 SD1130

#### SD1130

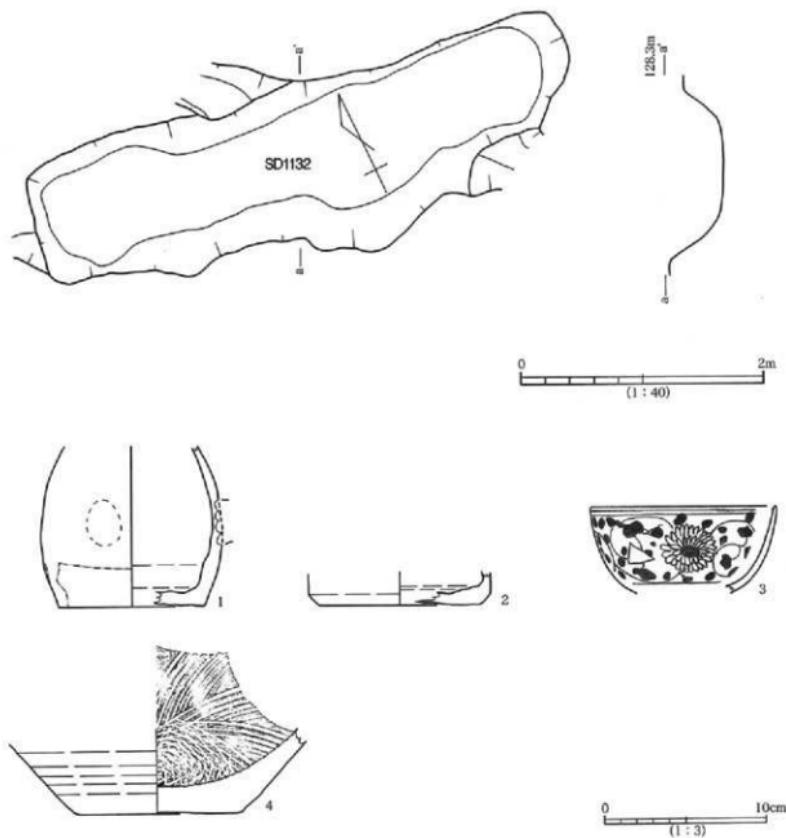
位置 9-14 グリッド。

規模 検出された長さ 16.8 m、幅 0.7 m 前後、検出面からの深さ 0.1 m 前後。

形態 南北に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面は直線的に立ち上がる。調査期間の関係で土層を観察することができなかつた。

出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器が 1 点出土しているのみである。

年代 1 は 16 世紀の年代が与えられるが、SD1058 などの他の近世の溝と平行に走っているので、さらに年代は下る可能性がある。



第173図 SD1132

**SD1132**

**位 置** 7-14~8-14 グリッド。

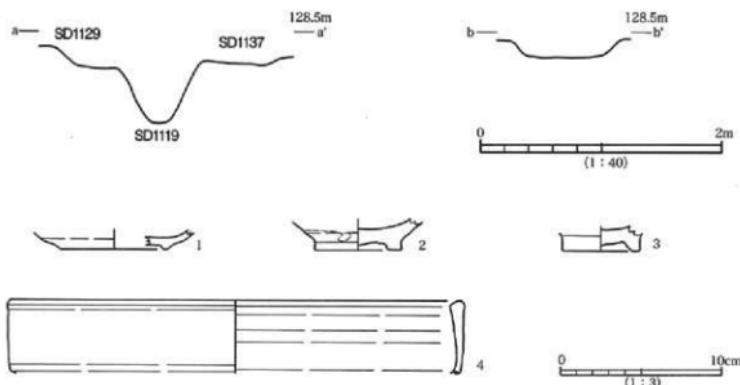
**規 模** 検出された長さ 4.6 m、幅 1.2 m 前後、検出面からの深さ 0.4 m 前後。

**形 态** 東西に直線的に走る構である。底面は平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。古代の構である SD1122 を切る。調査期間の関係で土層を観察することができなかった。

**出土遺物** 図化資料以外では、肥前系磁器がある。

**年 代** 出土遺物は少ないが、3より 17世紀半ばであろう。

IV 検出された造構と遺物



第174図 SD1137

**SD1137**

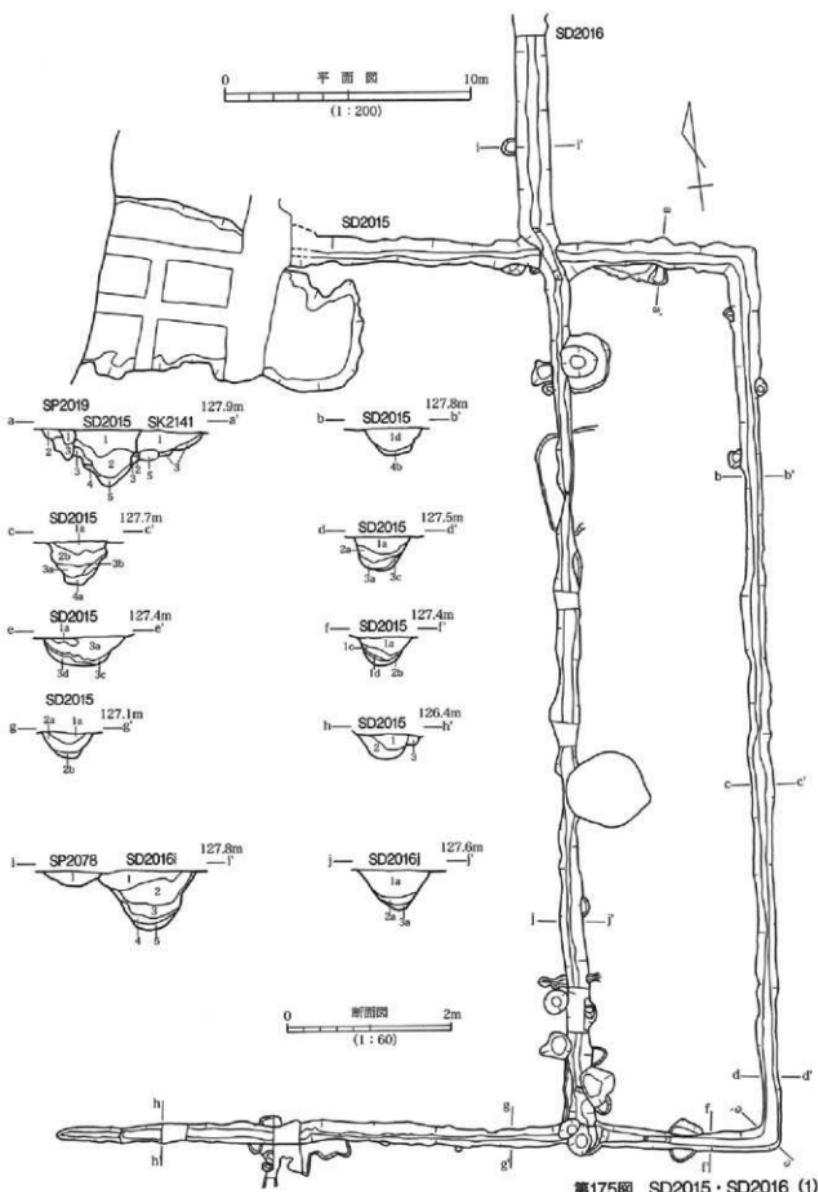
位 置 7-14~8-14 グリッド。

規 模 検出された長さ 6.0 m、幅 0.8 m前後、検出面からの深さ 0.1 m前後。

形 態 東西に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。SD1119 に切られる。調査期間の関係で土層を観察することができなかった。

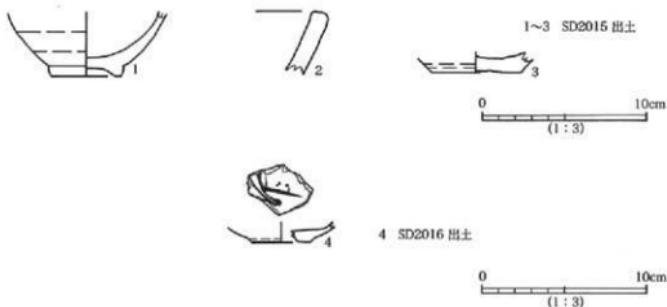
出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶器、黒瓦が出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、3より 17世紀半ばであろう。



第175図 SD2015・SD2016 (1)

#### IV 検出された遺構と遺物



第176図 SD2015・SD2016 (2)

#### SD2015・SD2016

位 置 SD2015 2-19~3-21 グリッド。  
SD2016 3-18~2-21 グリッド。

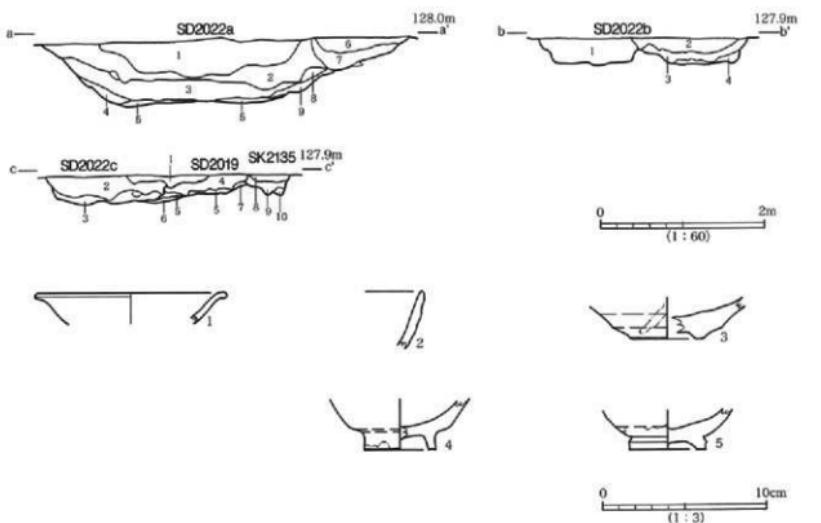
規 模 SD2015 検出された長さ 北辺 25.9 × 東辺 37.1 × 南辺 29.8 m 幅 0.6 ~ 1.3 m、検出面からの深さ 0.3 ~ 0.7 m。  
SD2016 検出された長さ 51.2 m、幅 0.4 ~ 1.4 m、検出面からの深さ 0.6 m 前後。

形 態 SD2015 は西側が調査区外で全体はわからないが、方形にめぐる溝であろう。底面はやや丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。SD2016 は南北に直線的に走る溝である。SD2015 の南辺に T 字に交わり北辺には十字に交わる。底面はやや丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。SD2015 と SD2016 の切り合いは無いものと思われた。

出土遺物 SD2015 は図化資料以外に肥前系陶磁器、黒瓦が出土している。SD2016 は図化資料以外に被熱したヒトの四肢骨が出土している。

年 代 出土遺物は少なく年代幅も広いが、4より埋没年代は 17 世紀半ば以降であろう。

#### IV 検出された遺構と遺物



第177図 SD2022

#### SD2022

位 置 2-18~2-19 グリッド。

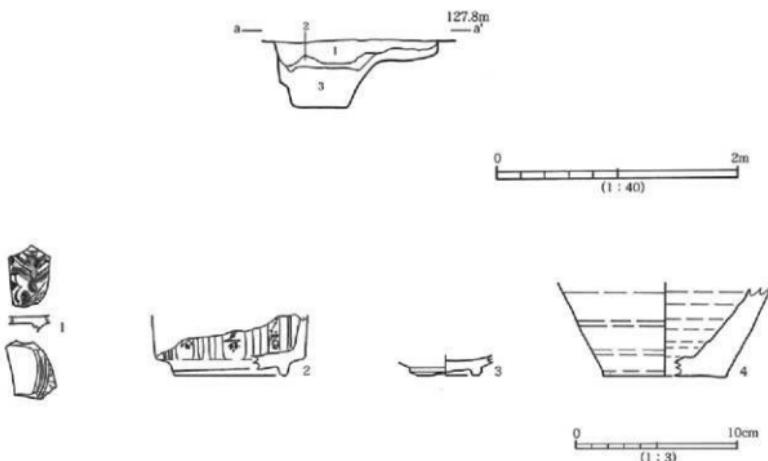
規 模 検出された長さ 18.2 m、幅 2.9 ~ 4.7 m、検出面からの深さ 0.3 ~ 0.8 m。

形 態 南北に直線的に走る溝である。北側は擾乱に切られ、また調査区外となるため全体の様相はわからない。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 固化資料以外では、輸入磁器、肥前系陶器などが出土している。

年 代 出土遺物より 17世紀前半ころであろうが、完掘していないので時期の特定は避けたい。

IV 検出された遺構と遺物



第178図 SD6004

SD6004

位置 9-7~10-7 グリッド。

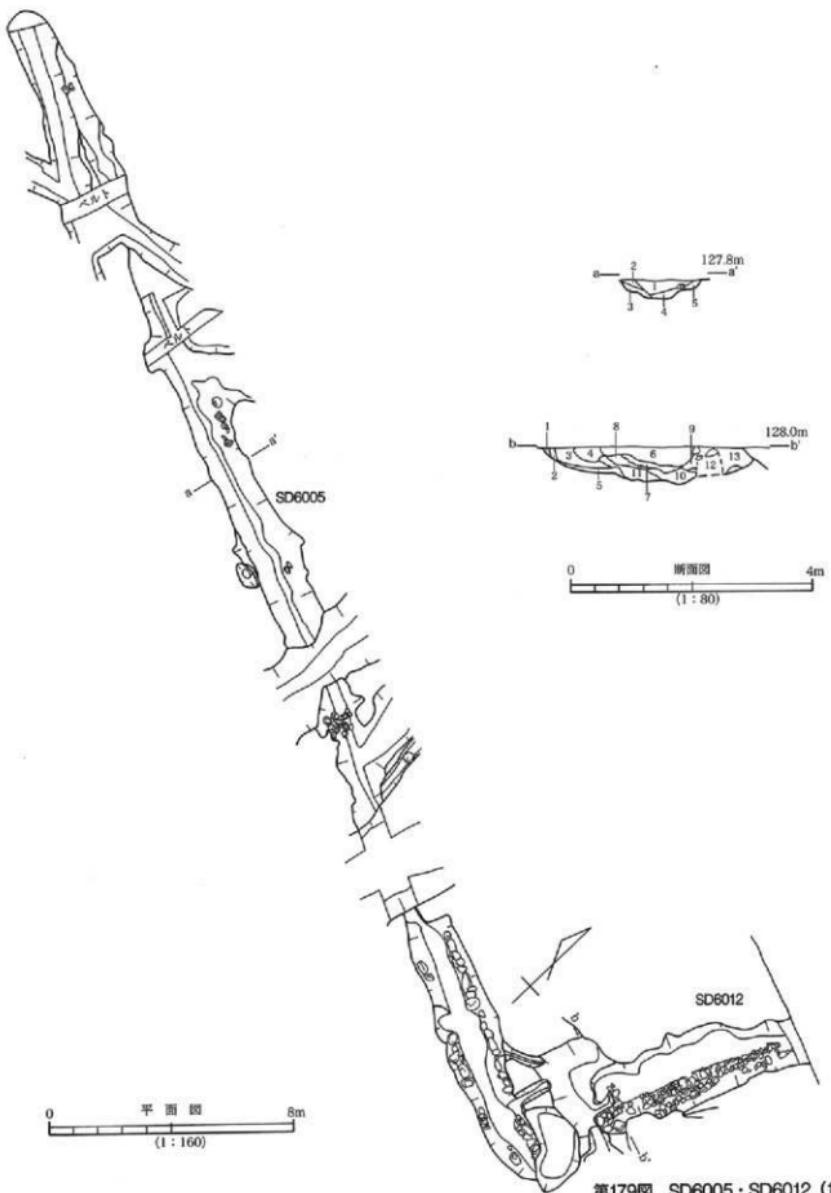
規模 検出された長さ 14.3 m、幅 0.8 m 前後、検出面からの深さ 0.5 m 前後。

形態 東西に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。SD6006 に切られる。土層は地山由来のブロックを含むことから一括埋土と思われる。

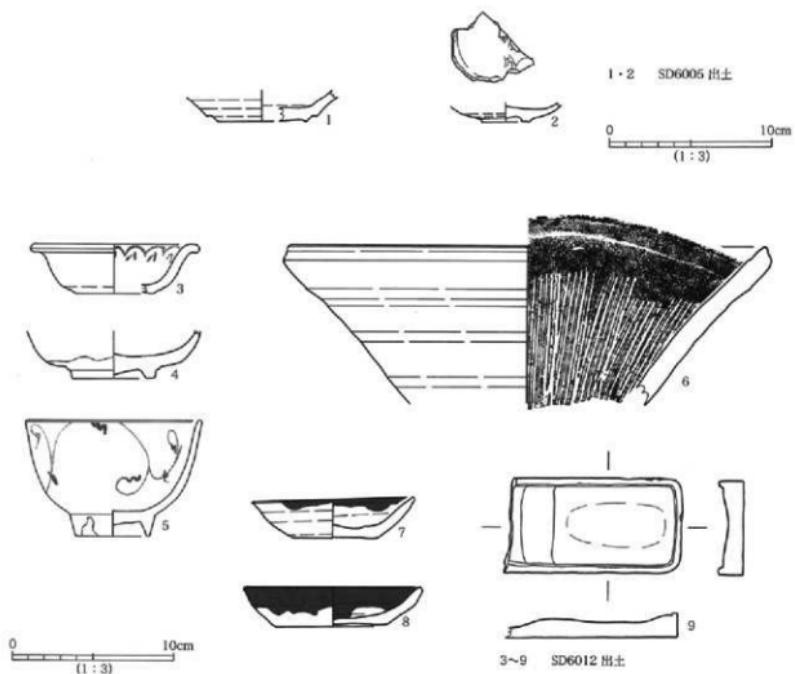
出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶器などが出土している。なお、3、4 など中世の遺物が若干混入している。

年代 2 が初期伊万里であるので、II期であると思われる。

IV 検出された遺構と遺物



#### IV 検出された遺構と遺物



第180図 SD6005・SD6012 (2)

#### SD6005・SD6012

位 置 10-7~11-7 グリッド。

規 模 SD6005 検出された長さ 41.5 m、幅 0.4 ~ 0.9 m、検出面からの深さ 0.3 m 前後。

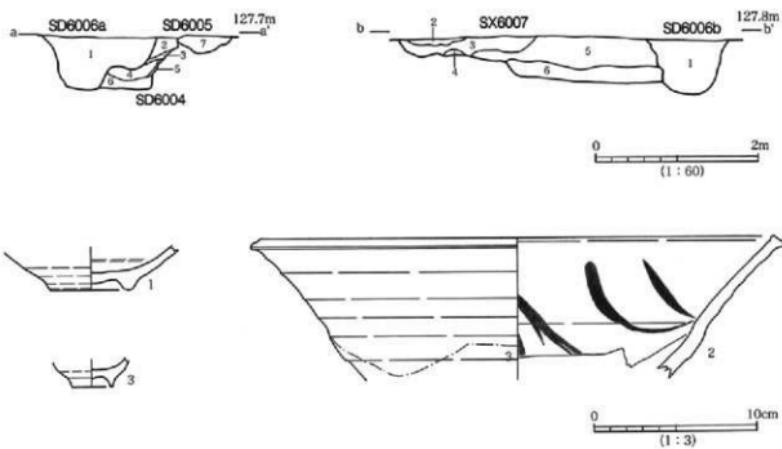
SD6012 検出された長さ 8.4 m、幅 1.1 m 前後、検出面からの深さ 0.6 m 前後。

形 態 SD6005 は東西に直線的に走る溝である。底面はやや丸みを帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。東部に底面から壁面への立ち上がりに 2 列に直径 30 cm ほどの縦を積んでいた箇所がある。SD6005 に切られる。

SD6012 は南北に直線的に走る溝である。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。SD6005 と同様に 2 列の石組があったようだが、東側にしか残存していない。SD6005 と SD6012 は間の土坑により切り合はわからないが、互いに直角の位置にあり形態が類似していることから、同時期に同じような性格を有する溝として存在していた可能性が高い。

出土遺物 SD6005 は図化資料以外には、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。同様に SD6012 は輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 ともに、出土遺物は少ないが肥前系磁器は初期伊万里のみで構成されるので、II 期であろう。



第181図 SD6006

## SD6006

位置 9-7~10-7グリッド。

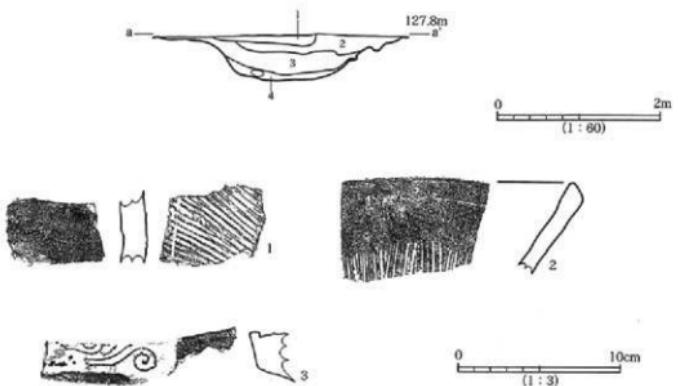
規模 検出された長さ 29.3 m、幅 1.2 m 前後、検出面からの深さ 0.7 m 前後。

形態 南西から北東に直線的に走る構である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。SD6004、SD6005、SX6007 を切る。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出士している。なお、図化していない資料の中に津洲窯系磁器の大皿の破片が 1 点出土している。

年代 出土遺物は少ないが肥前系磁器は初期伊万里のみで構成されるので、II 期であろう。

#### IV 検出された遺構と遺物



第182図 SD6007

#### SD6007

位 置 10-7~10-8 グリッド。

規 模 検出された長さ 16.7 m、幅 3.1 m 前後、検出面からの深さ 0.6 m 前後。

形 態 南北に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 図化資料以外では、輸入磁器、肥前系磁器、黒瓦が出土している。なお、Iなどの中世の遺物が混入している。

年 代 肥前系磁器を含むことから II 期以降だろうが、完掘していないので時期の特定は避けたい。

#### SD6059

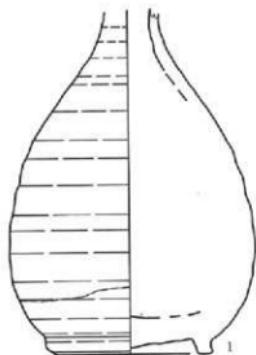
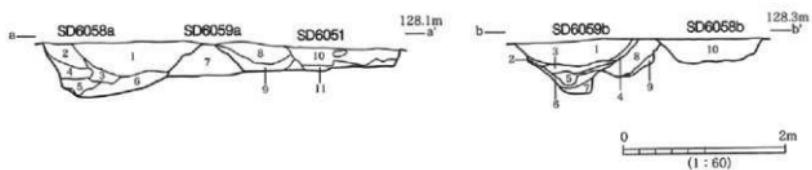
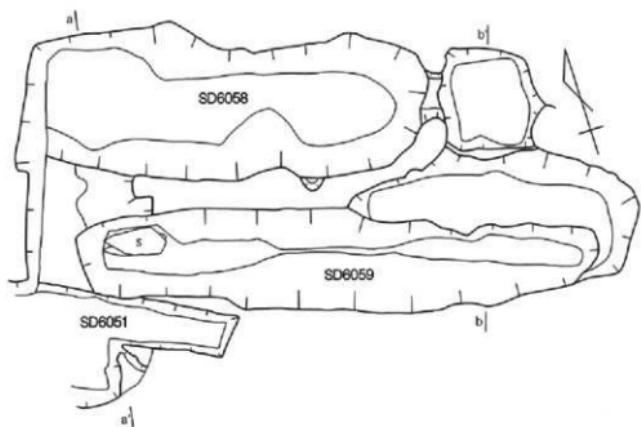
位 置 10-9 グリッド。

規 模 検出された長さ 6.9 m、幅 1.3 m 前後、検出面からの深さ 0.4 ~ 0.7 m。

形 態 東西に直線的に走る溝である。底面は狭く壁面は急に立ち上がる。北東側に一段高いテラスが付属する。土層は地山由来のブロックや炭化物を含むので、一括埋土と思われる。SD6058、SD6051 に切られる。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系磁器の初期色絵、ロクロかわらけが各 1 点と黒瓦 22 点が出土している。

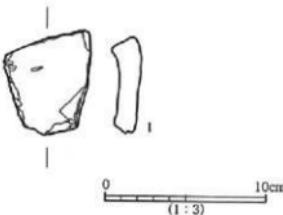
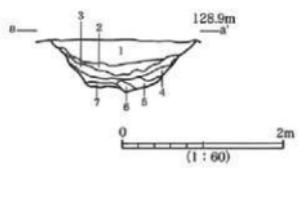
年 代 出土遺物が非常に少なく年代特定は困難だが、初期色絵が出土していることから 17 世紀半ば以後であろう。



0 10cm  
(1 : 3)

第183図 SD6059

#### IV 検出された造構と遺物



第184図 SD6080

#### SD6080

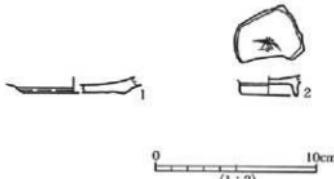
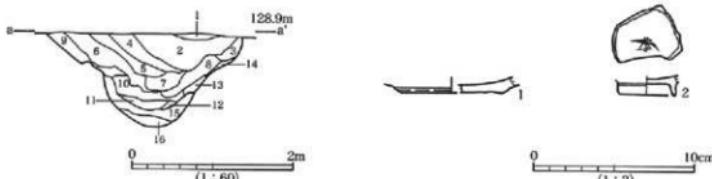
位置 15-9～15-10 グリッド。

規模 検出された長さ 20.1 m、幅 2.2 m 前後、検出面からの深さ 0.6 m 前後。

形態 南北に直線的に走る溝である。底面はほぼ平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むので、一括埋土と思われる。南側で近代の塹壕のような溝である SD6084 に切られる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年代 不明。



第185図 SD6081

#### SD6081

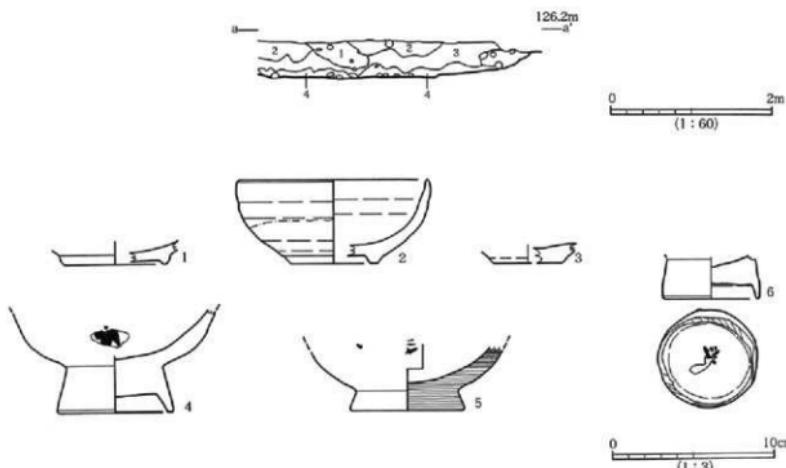
位置 15-10～14-11 グリッド。

規模 検出された長さ 16.4 m、幅 2.6 m 前後、検出面からの深さ 1.2 m 前後。

形態 南北に直線的に走る溝である。南側は搅乱に切られ全体はわからない。底面は丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。北側で東に走る SD9025 とつながるが、切り合いは不明である。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器が出土している。

年代 2より最終的な埋没年代は 19 世紀であろう。



第186図 SD7007

**SD7007**

**位 置** 3-22~4-23 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 27.2 m、幅 4.3 m 前後、検出面からの深さ 0.5 m 前後。

**形 態** 東西に直線的に走る溝である。西側は調査区外で、東側は検出面が低く遺構を検出することができなかつたため、全体の様相は不明である。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

**出土遺物** 固化資料以外では、輸入磁器が出土している。

**年 代** 出土遺物は少ないが、1 や 2 より 17 世紀前半であろう。

**SD8002**

**位 置** 17-19 グリッド。

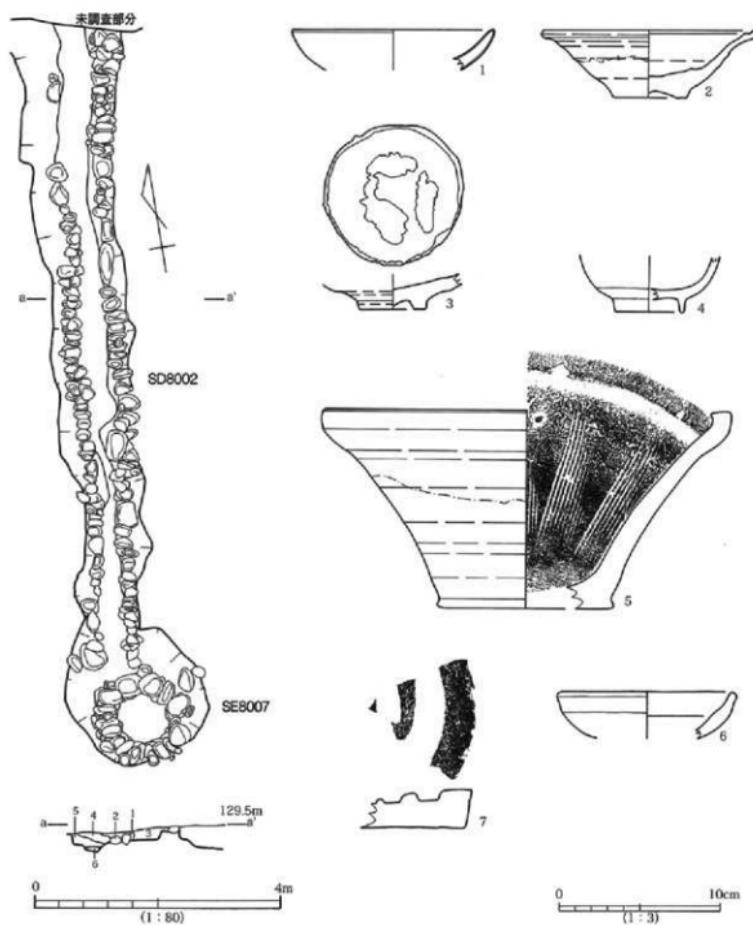
**規 模** 検出された長さ 10.8 m、幅 1.3 m、検出面からの深さ 0.3 m 前後。

**形 態** 南北に直線的に走る溝である。北側は未調査部分であるため、全体の様相は不明である。底面は平坦で両脇に 10 ~ 50 cm ほどの礫を 2 列に組み合わせ並べられている。南端で SE8007 と交わるが切り合は確認できず、同時期であると思われる。遺物は石組の内部からの出土である。なお、中世遺物を含むため、中世の遺構を破壊して構築されていると考えられる。

**出土遺物** 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

**年 代** 瀬戸美濃の大窯第4段階の製品から肥前系磁器のⅢ期に該当する製品と、出土遺物の年代幅は広い。埋没年代は 17 世紀半ばであろう。

IV 検出された造構と遺物



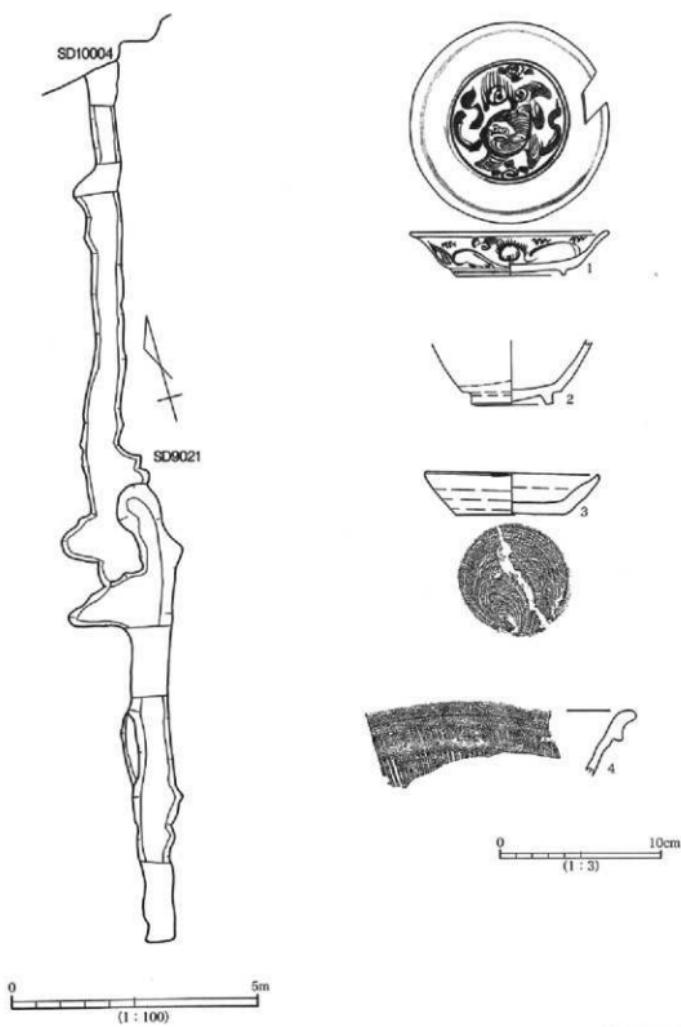
第187図 SD8002

SD9021

位 置 18-17~18-18 グリッド。

規 模 検出された長さ 18.1 m、幅 0.7 ~ 2.2 m。

形 態 南北に直線的に走る溝である。北側は搅乱によって切られ全体は不明である。底面はほぼ平坦であるが、中央より南側が一段高くなっている。壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層観察および完掘することができなかった。SD10004 に切られる。

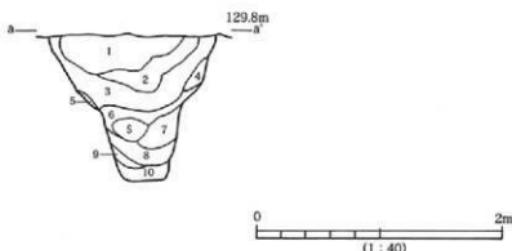


第188図 SD9021

**出土遺物** 図化資料以外では、肥前系磁器、黒瓦などが出土している。

**年 代** 16世紀代の青花から肥前系磁器と年代幅も広く、完掘していないので時期の特定は避けたい。

#### IV 検出された遺構と遺物



第189図 SD9025

#### SD9025

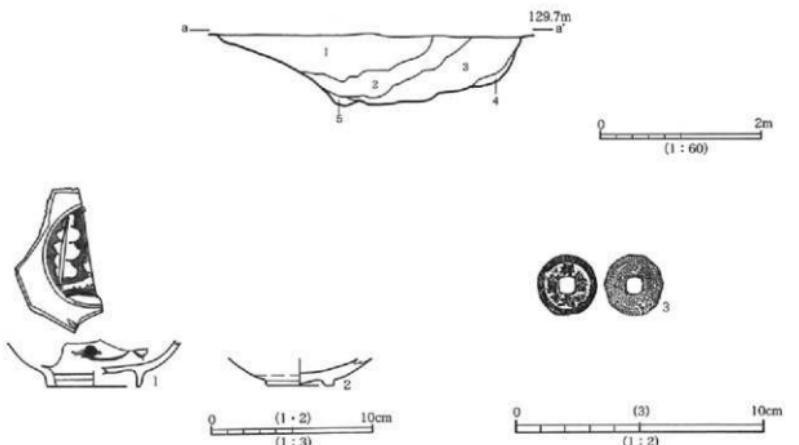
位置 17-11~16-11 グリッド。

規模 検出された長さ 東辺 3.0 × 南辺 25.0 m、幅 1.4 m 前後、検出面からの深さ 1.2 m 前後。

形態 東西に直線的に走り、東端で北側に 3.0 m ほど直角に曲がる溝である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。近代の塁壕のような溝である SD9026、SD9033 に切られる。調査期間の関係で完掘することができず、西端の石組のような遺構との切り合いを把握することができなかった。

出土遺物 輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器が出土している。

年代 出土遺物より 17 世紀前半と思われるが、完掘することができなかつたので時期の特定は避けたい。



第190図 SD9028

## SD9028

位 置 18-11 グリッド。

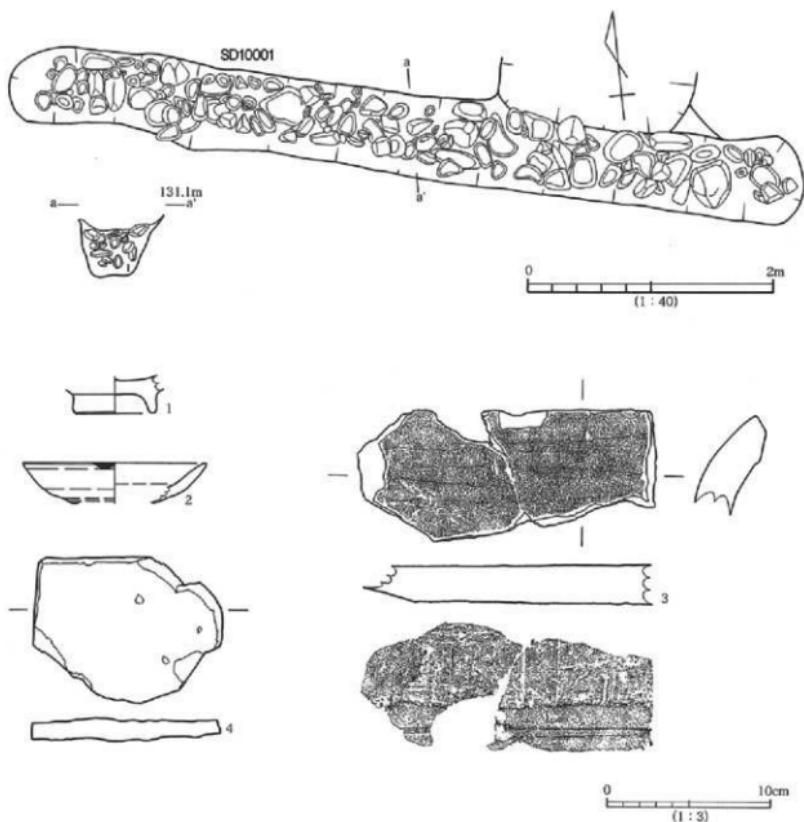
規 模 検出された長さ 4.9 m、幅 3.5 m 前後、検出面からの深さ 0.8 m 前後。

形 態 南北に直線的に走る溝である。北は擾乱に切られ全体は不明である。底面はほぼ平坦で壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶磁器などが出土している。

年 代 出土遺物は 16 世紀末から 17 世紀半ばと年代幅が広く、かつ完掘することができなかつたので時期の特定は避けたい。

IV 検出された遺構と遺物



第191図 SD10001

**SD10001**

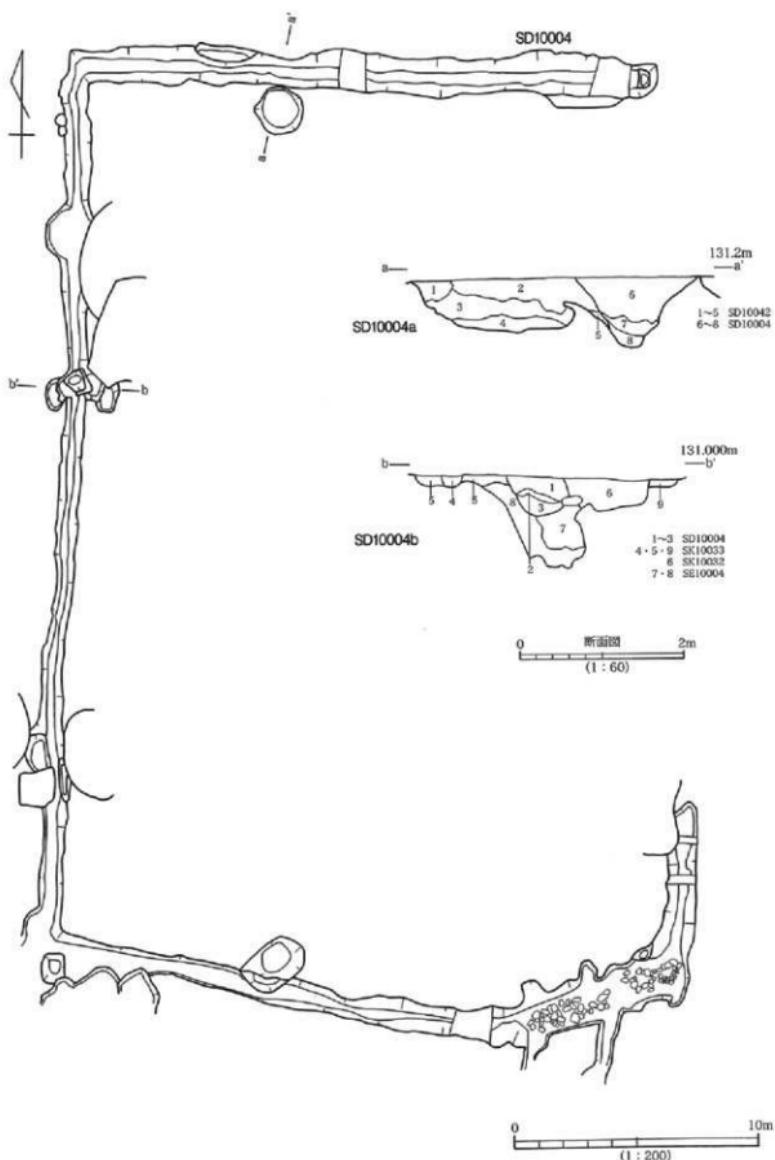
位 置 17 - 16 グリッド。

規 模 検出された長さ 6.8 m、幅 0.8 m前後、検出面からの深さ 0.4 m前後。

形 態 東西に直線的に走る溝である。土層は1層で 10 ~ 35 cmほどの礫を多量に含む。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

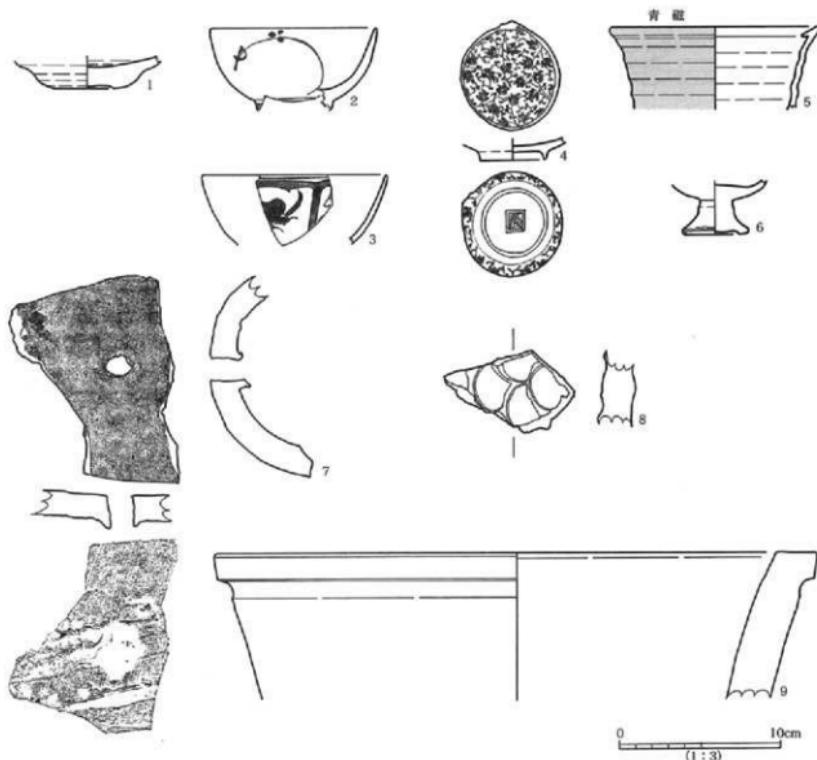
出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系磁器、黒瓦、赤瓦などが出土している。

年 代 出土遺物の年代幅が広くはつきりしない。しかし、赤瓦を含むことから最終的な埋没年代はIV期以降であろう。



第192図 SD10004 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第193図 SD10004 (2)

SD10004

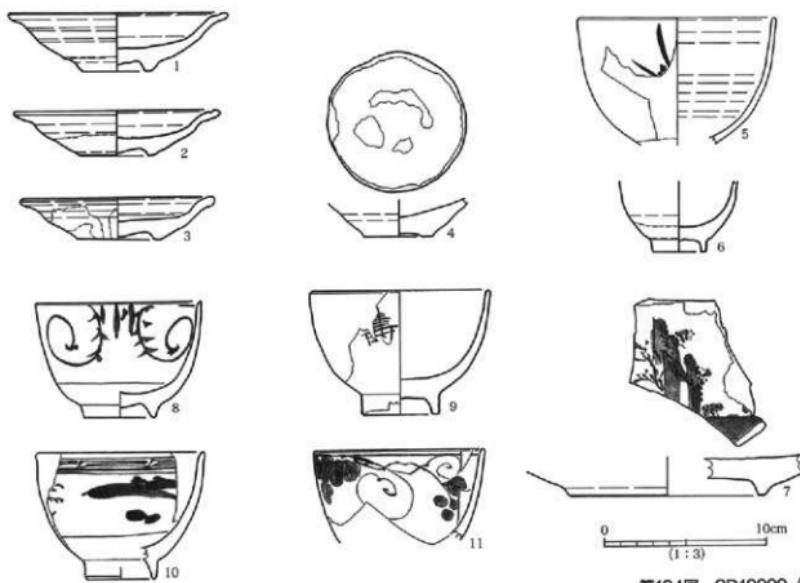
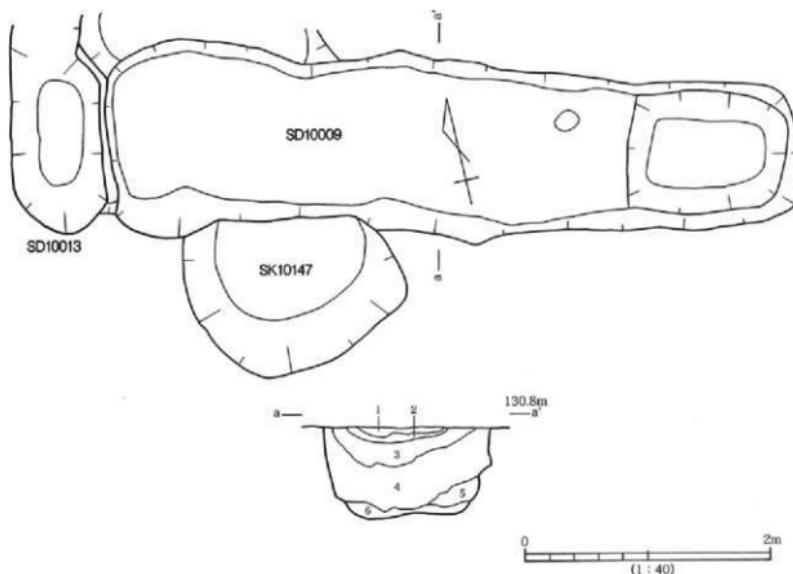
位 置 17-15~18-17 グリッド。

規 模 検出された長さ 北辺 24.4 × 西辺 37.6 × 南辺 27.2 m、幅 0.7 ~ 1.8 m、検出面からの深さ 1.0 m前後。

形 態 軸がほぼ真北を向く方形の区画溝であるが、東側は溝がめぐらない。南辺の東側には拳大ほどの塊が底面に散乱している。底面は丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。SE10004、SK10032、SK10033、SK10042を切る。

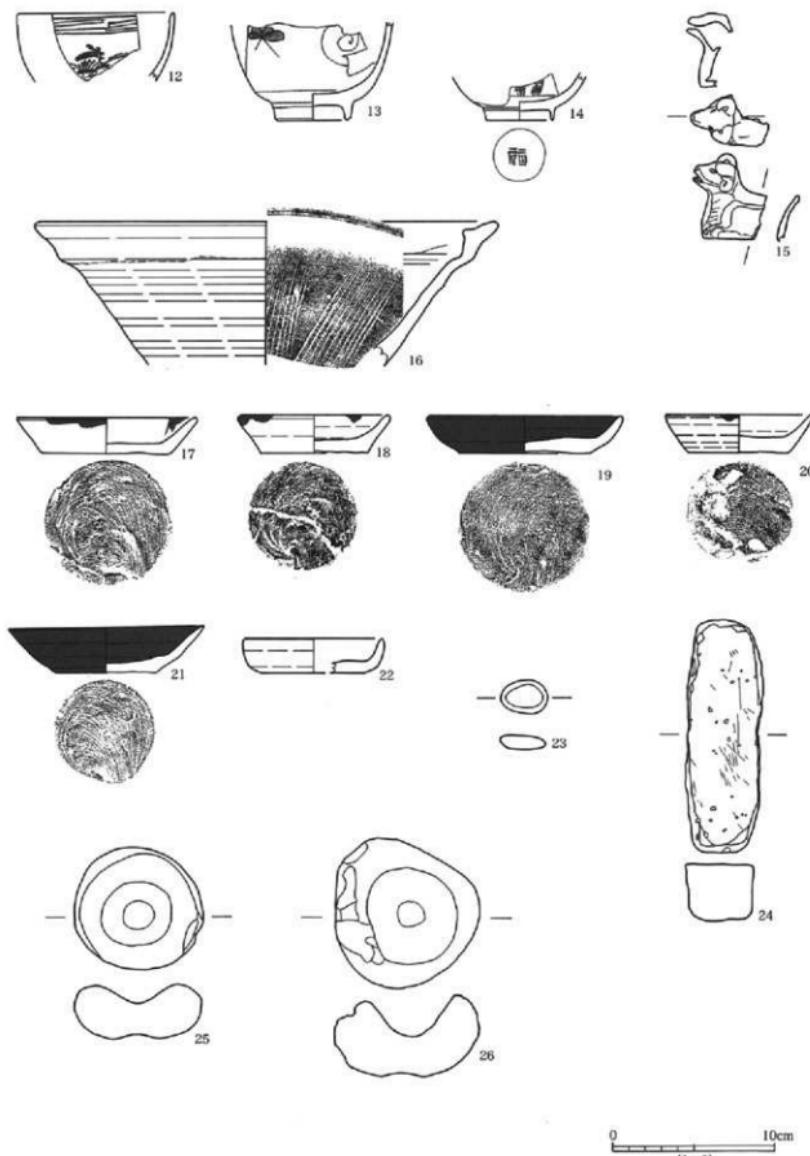
出土遺物 固化資料以外には、肥前系磁器、黒瓦、赤瓦などが出土している。

年 代 出土遺物の年代幅があるが、2や4より最終的な埋没年代はV期であろう。



第194図 SD10009 (1)

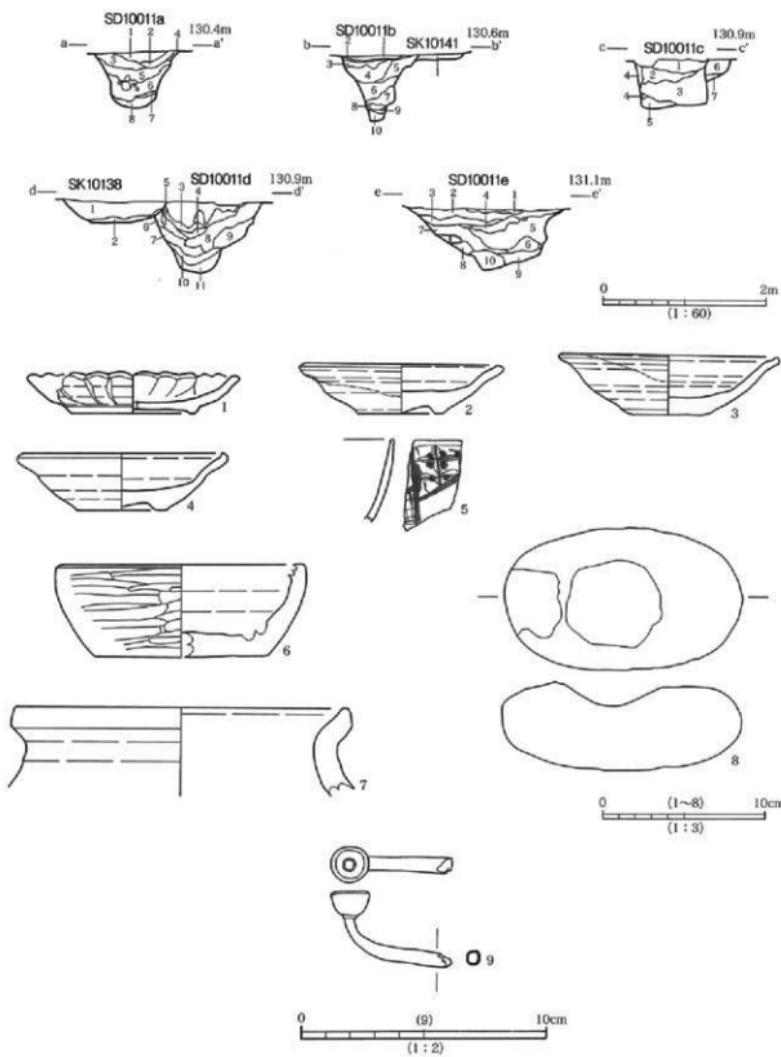
IV 検出された遺構と遺物



0 10cm  
(1 : 3)

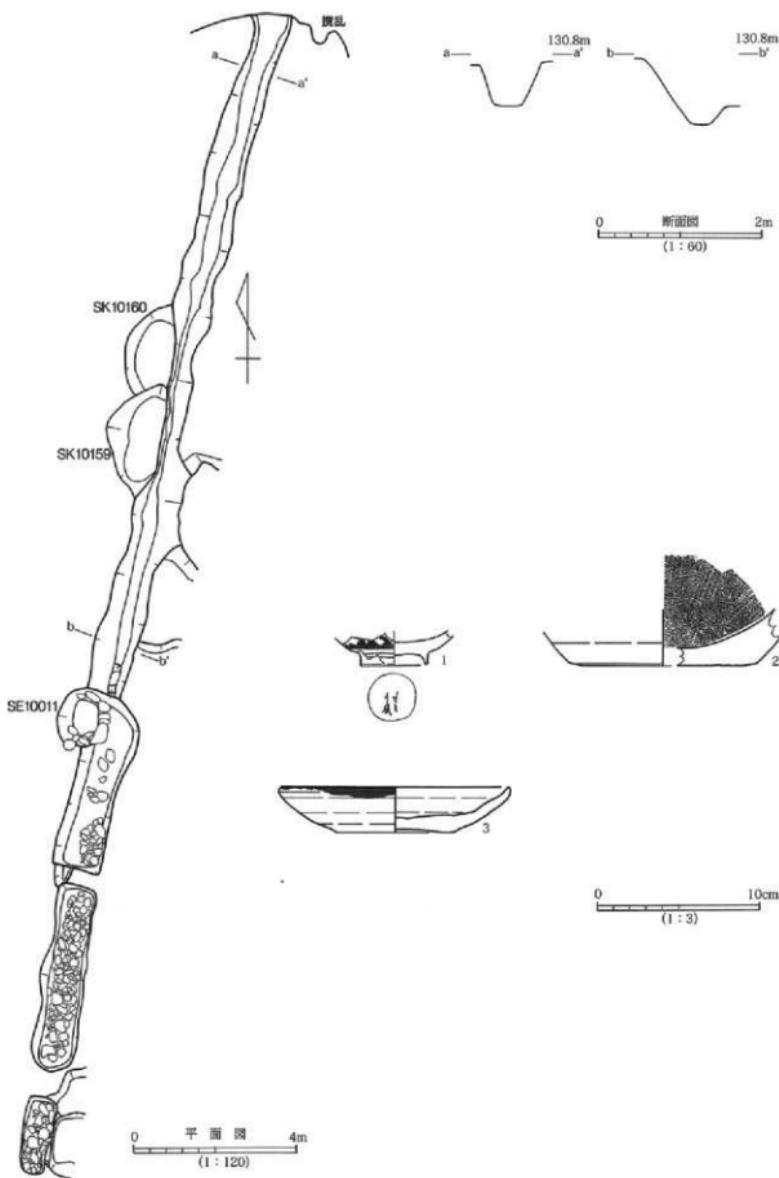
第195図 SD10009 (2)

IV 検出された遺構と遺物

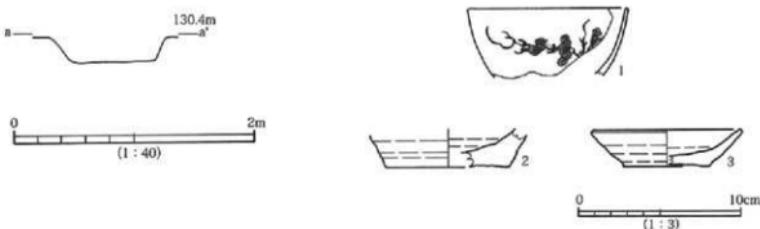


第196図 SD10011

IV 検出された遺構と遺物



第197図 SD10013



第198図 SD10014

**SD10009**

**位 置** 15-16 ~ 16-16 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 5.7 m、幅 1.4 m 前後、検出面からの深さ 0.7 m 前後。

**形 態** 東西に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。底面は東側がさらに 15 cmほど落ち込んでいる。土層は地山由来のブロックを含むことから一括埋土と思われる。出土遺物も多いことから、SDで登録したが土器・陶磁器の廃棄土坑であると考えられる。遺物はほとんどが 1~3 層で出土した。SD10013 に切られる。

**出土遺物** 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

**年 代** 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品が主体を占めるので、Ⅲ期である。

**SD10011**

**位 置** 13-16 ~ 16-17 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 東部 26.0 m 西部 34.1 m、幅 1.2 m 前後、検出面からの深さ 0.6 ~ 0.9 m。

**形 態** 東西に直線的に走る溝である。15-16 グリッド付近で搅乱に切られる。底面はやや丸みを帯びる。場所によって幅が変化する。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。SK10136、SX10007 に切られる。ST10021 を切る。

**出土遺物** 固化資料以外には、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

**年 代** 出土遺物が少なくかつ年代幅も広いが、最終的な埋没年代は 5 より 17 世紀半ばであろう。

**SD10013**

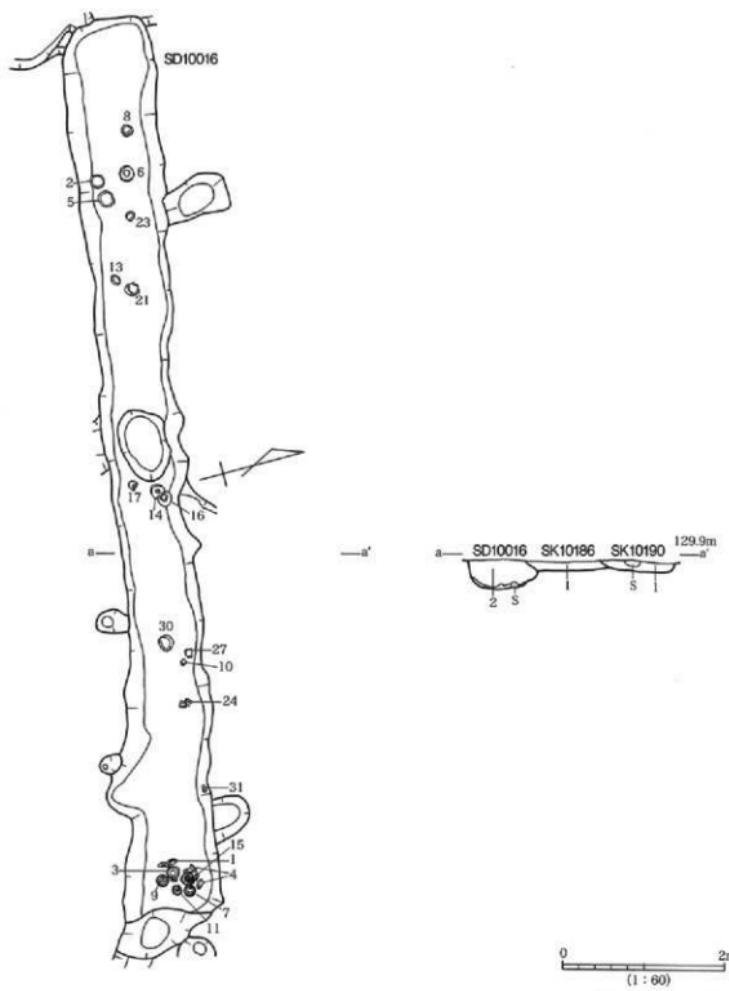
**位 置** 16-14 ~ 15-16 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 29.0 m、幅 0.9 ~ 1.3 m、検出面からの深さ 0.5 ~ 0.8 m。

**形 態** 南北に直線的に走る溝である。北側は搅乱に切られ全体は不明である。中央から北側は底面が平坦であり変化のない溝であるが、南側は長さ約 5 m、幅約 1.2 m の 2 つの溝状の掘り込みと、南端に長さ 1 m 幅 0.8 m の 1 つの掘り込みがあり、覆土中に 5 ~ 30 cm 程が多量埋没している。これらは切り合いがなかったため同一遺構として扱った。調査期間の関係で土層観察することができなかった。SD10009、ST10010 を切る。

**出土遺物** 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦、赤瓦などが出土している。

IV 検出された遺構と遺物



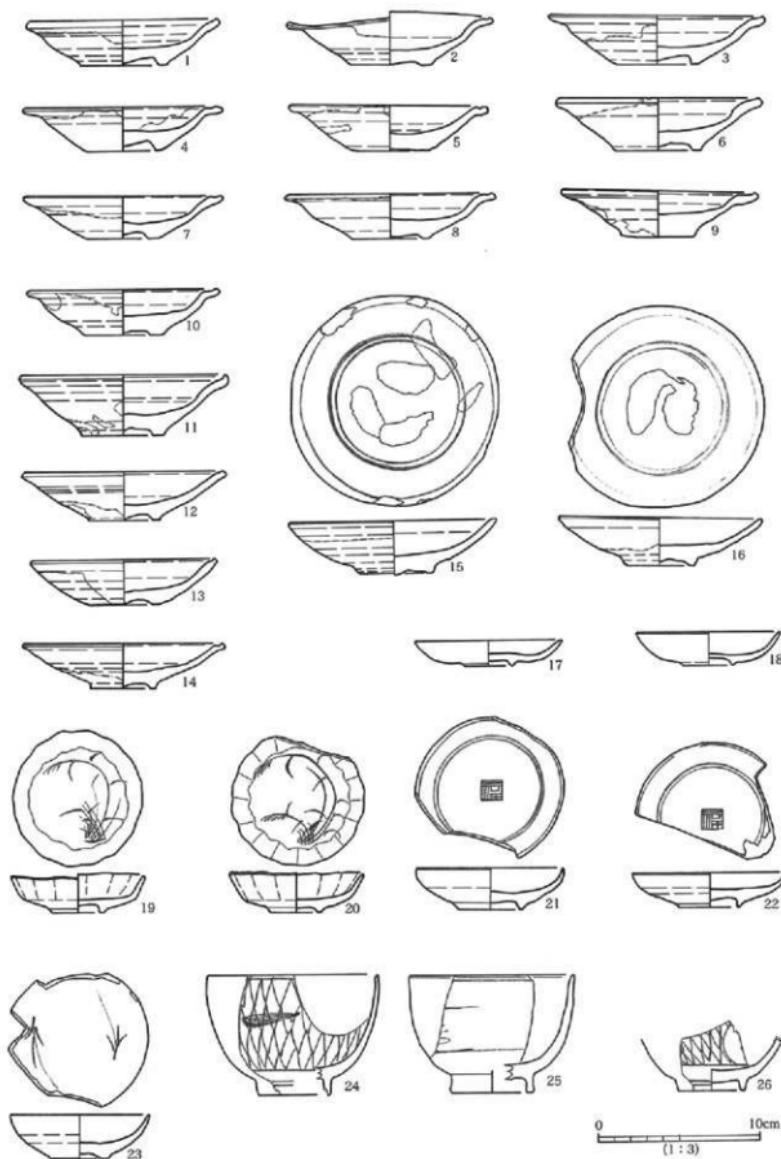
第199図 SD10016 (1)

年 代 出土遺物は少ないが、1や図化資料以外の肥前系磁器に見込に五弁花文をもつ皿があることから、埋没年代はV期であろう。

**SD10014**

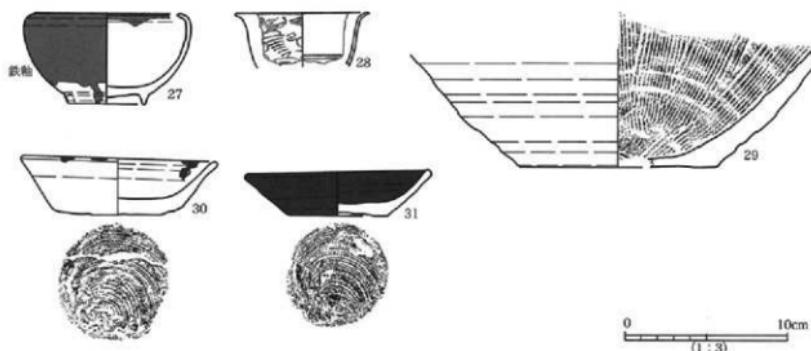
位 置 15-15 ~ 15-16 グリッド。

IV 検出された遺構と遺物



第200図 SD10016 (2)

#### IV 検出された遺構と遺物



第201図 SD10016 (3)

**規 模** 検出された長さ 20.5 m、幅 0.8 ~ 1.9 m、検出面からの深さ 0.2 m。

**形 態** 南北に直線的に走る溝である。南端は攪乱に切られ全体はわからない。底面はほぼ平坦だが、南側は一段高くなっている。壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層を観察することができなかった。

**出土遺物** 図化資料以外には、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

**年 代** 出土遺物が少ないが、1より 17世紀後半であろう。

#### SD10016

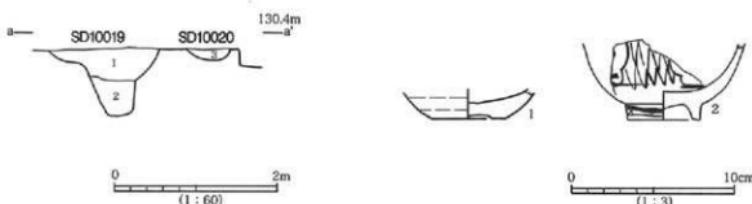
**位 置** 12 - 17 グリッド。

**規 模** 検出された長さ 11.3 m、幅 1.0 m 前後、検出面からの深さ 0.4 m 前後。

**形 態** 東西に直線的に走る溝である。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。溝の底面には、完形もしくは略完形の陶磁器が置かれた状況で埋没していた。土層は一括埋土と思われる。地鎮あるいはその他なんらかの祭祀を執り行つた遺構の可能性がある。

**出土遺物** 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

**年 代** 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品が主体を占めるので、III期であろう。



第202図 SD10020

#### SD10020

**位 置** 13 - 14 ~ 13 - 16 グリッド。

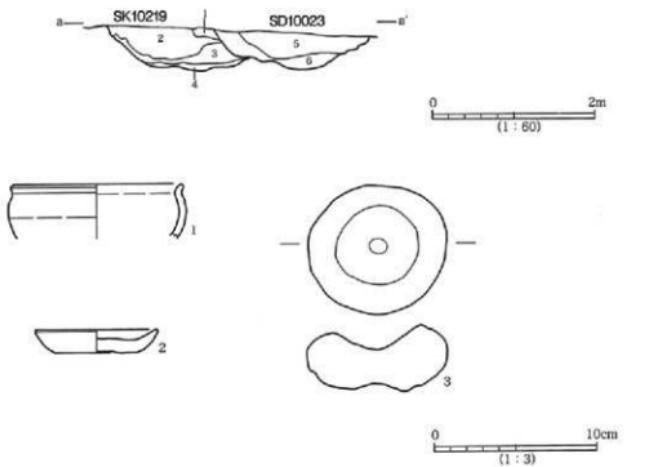
#### IV 検出された遺構と遺物

**規 模** 検出された長さ 30.4 m、幅 0.7 m 前後、検出面からの深さ 0.15 m 前後。

**形 态** 南北に直線的に走る溝である。南端は搅乱に切られ全体は不明である。底面は丸みを帯び壁面は緩やかに立ち上がる。

**出土遺物** 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器が出土している。

**年 代** 出土遺物が少ないが、2 より 17 世紀半ばであろう。



第203図 SD10023

#### SD10023

**位 置** 11 - 16 ~ 13 - 16 グリッド。

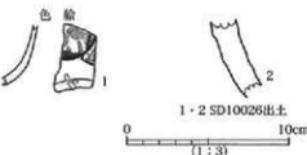
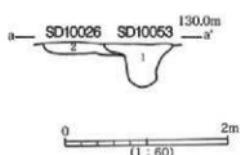
**規 模** 検出された長さ 25.8 m、幅 1.0 ~ 1.8 m、検出面からの深さ 0.5 m 前後。

**形 性** 東西に直線的に走る溝である。西端は未調査部分であるため全体は不明である。底面はやや丸みを帯び壁面は緩やかに立ち上がる。SK10219 を切る。

**出土遺物** 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、内耳と思われる土鍋などが出土している。

**年 代** 肥前系磁器が出土しているので II 期以降だろうが、出土遺物が少なく正確な年代は不明である。

#### IV 検出された遺構と遺物



第204図 SD10026・SD10053

#### SD10026・SD10053

位置 13-14～13-15グリッド。

規模 SD10026 検出された長さ 18.8m、幅 1.2m、検出面からの深さ 0.15m 前後。

SD10053 検出された長さ 19.0m、幅 0.9～1.5m、検出面からの深さ 0.6m 前後。

形態 両遺構とも南北に直線的に走る溝である。北端は擾乱に切られ全体は不明である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。SD10026 は SD10053 に切られる。

出土遺物 SD10026 は図化資料以外に出土遺物はない。SD10053 は古代の土師器や須恵器が混入しているのみである。

年代 SD10026 は 1 より最終的な埋没年代は 17 世紀半ばであろう。SD10053 は切り合いより SD10026 より新しいが遺物がなく年代はわからない。

#### SD10035

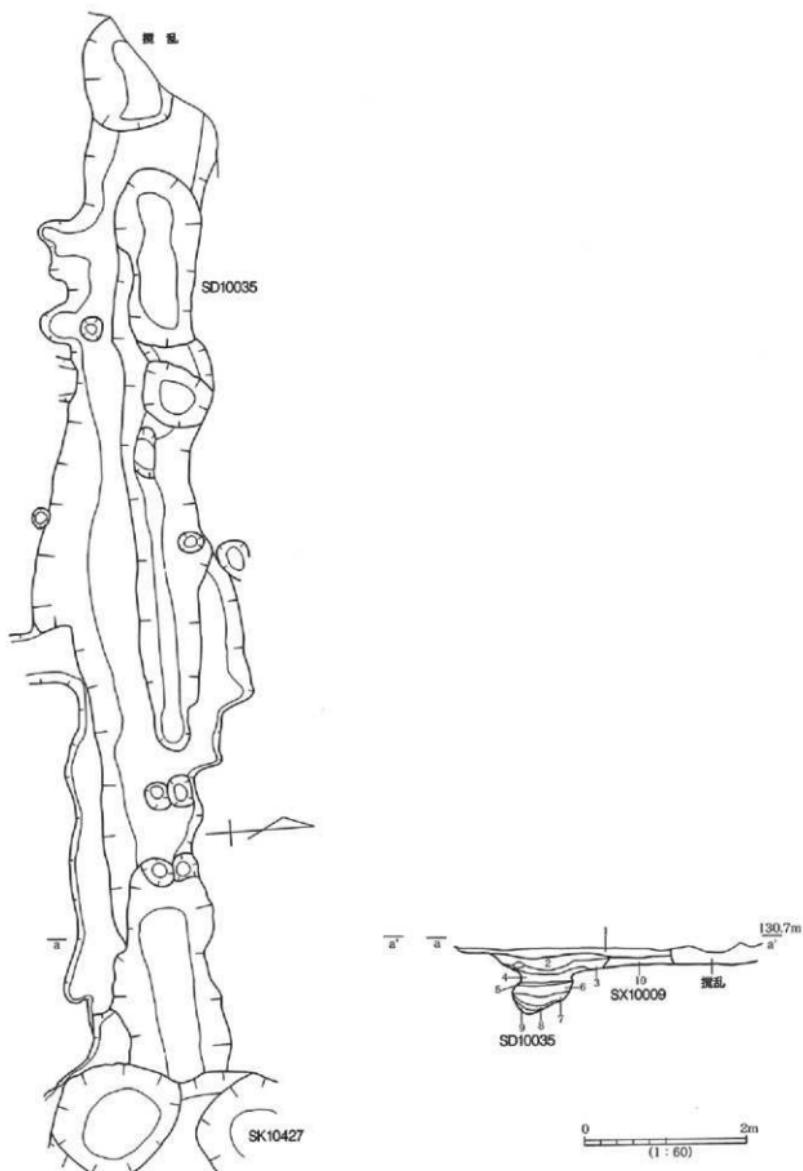
位置 14-14グリッド。

規模 検出された長さ 12.6m、幅 1.1～2.2m、検出面からの深さ 0.4～0.8m。

形態 東西に直線的に走る溝である。西端は擾乱に切られ全体は不明である。底面はかなり起伏を帯びる。土層は砂粒を含むので、水流を伴う自然堆積であると思われる。

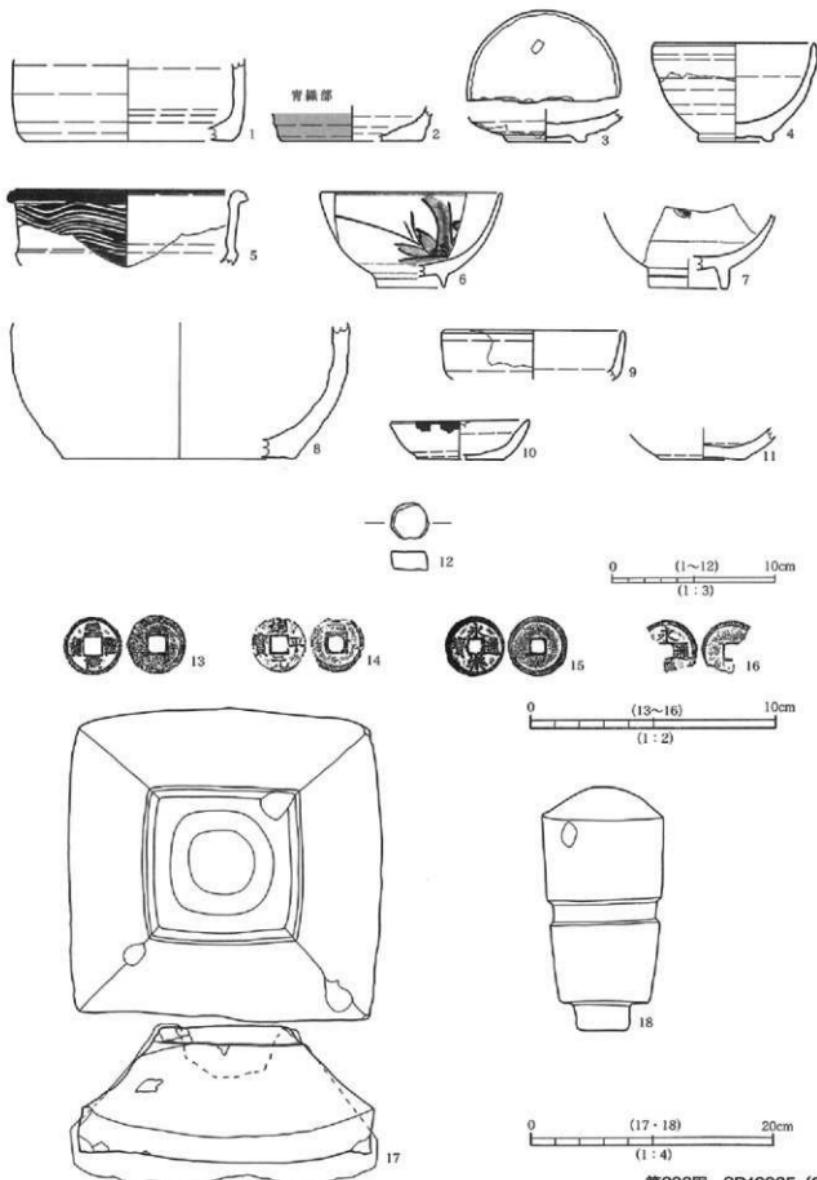
出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出士している。なお、図化していない肥前系陶器のなかに岸岳系の製品がある。

年代 出土遺物の年代幅が広いが、最終的な埋没年代は 5 や 6 より 17 世紀半ばであろう。

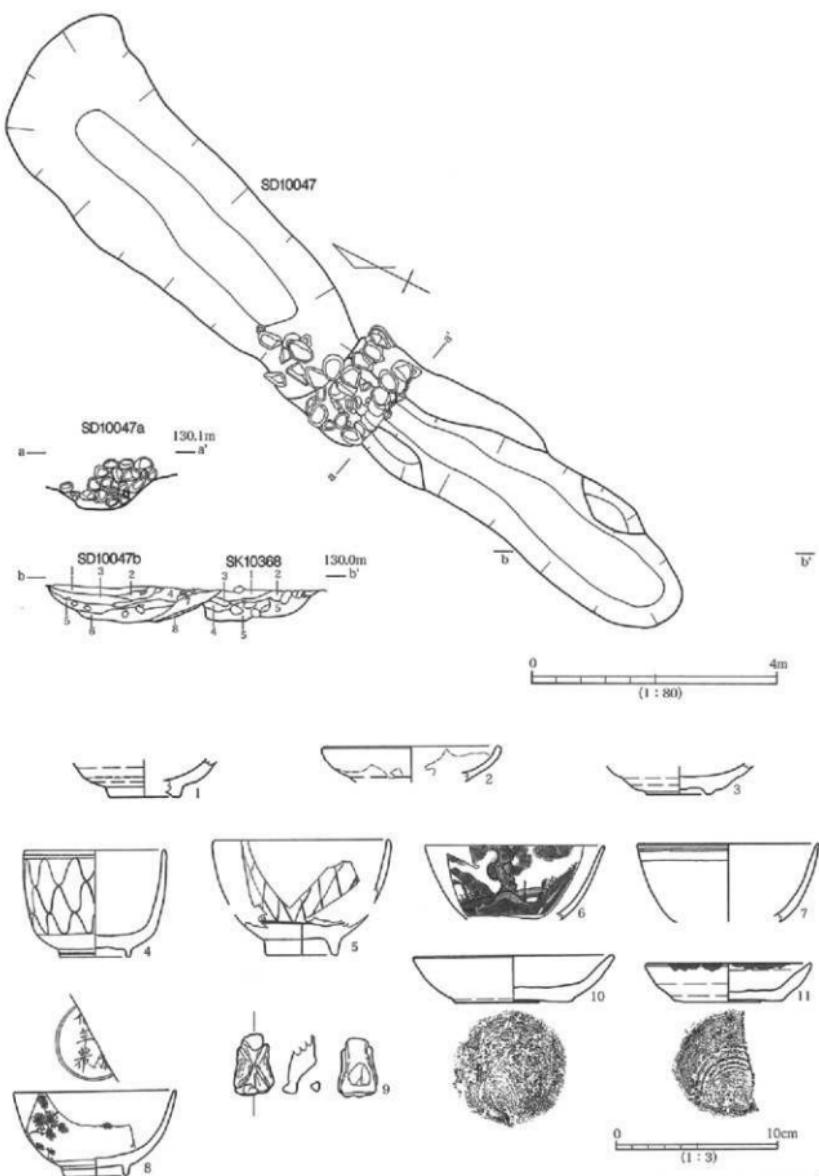


第205図 SD10035 (1)

IV 検出された遺構と遺物

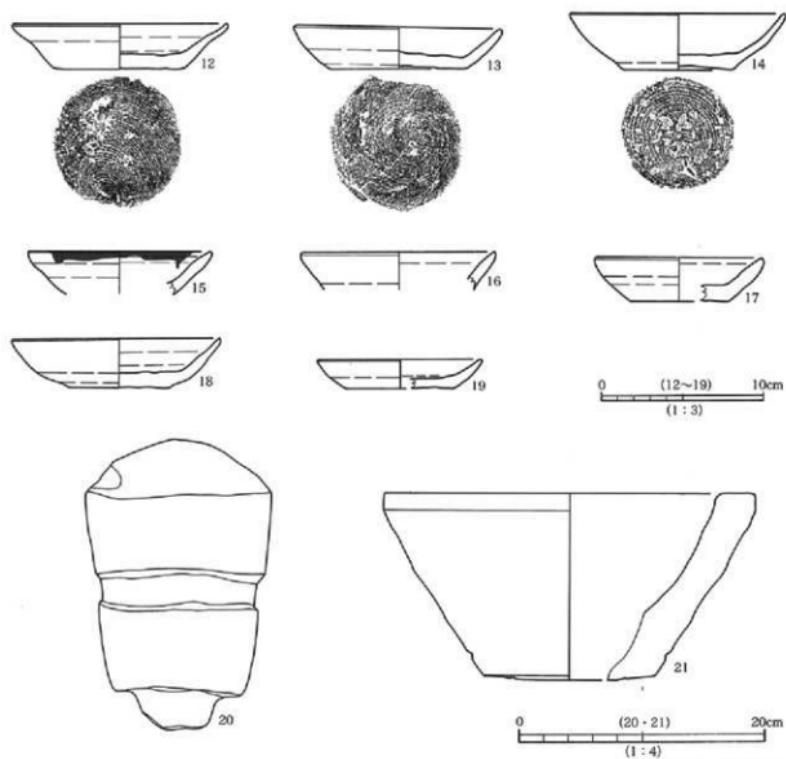


第206図 SD10035 (2)



第207図 SD10047 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第208図 SD10047 (2)

SD10047

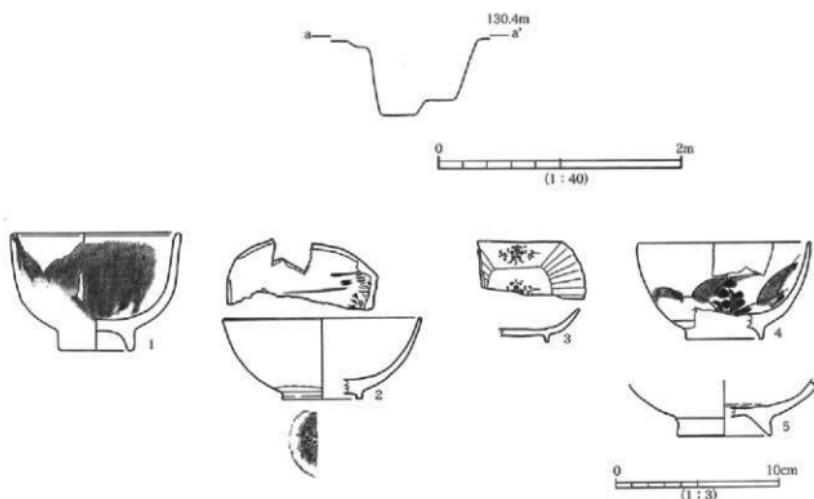
位 置 12 - 14 グリッド。

規 模 検出された長さ 13.5 m、幅 2.0 m 前後、検出面からの深さ 0.4 ~ 1.0 m。

形 態 南北に直線的に走る溝である。底面は北側が深く南側が浅い。中央部には 5 ~ 30 cm の礫が底面から検出面まで組まれていた。土層は地山由来のブロックや焼土、炭化物を含むので、一括埋土と思われる。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出士している。なお、種類は不明だが被熱したサカナの骨が出土している。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品が主体を占めるので、Ⅲ期であろう。



第209図 SD10052

## SD10052

位 置 14-15~14-16グリッド。

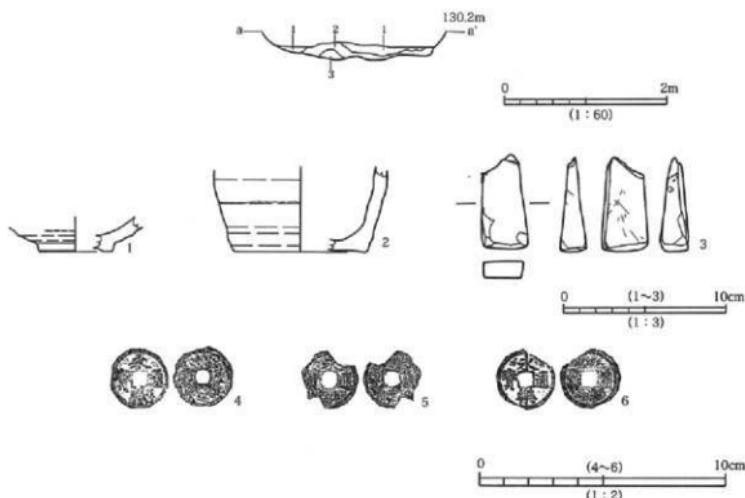
規 模 検出された長さ12.0m、幅1.0m前後、検出面からの深さ0.6m前後。

形 様 ほぼ南北に直線的に走る溝である。北端はSD10056に切られ全体は不明である。底面はほぼ平坦で壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系磁器、黒瓦が出土している。

年 代 津洲系磁器の出土など17世紀初頭の製品も含まれるが、肥前系磁器で3の型紙摺りの製品や4のくらわんかが出土しているので、最終的な埋没年代は18世紀前半以降であろう。

#### IV 検出された遺構と遺物



第210図 SD10061

#### SD10061

位 置 12-14-14-14 グリッド。

規 模 検出された長さ 32.5 m、幅 0.9 ~ 2.2 m、検出面からの深さ 0.3 m 前後。

形 態 東西に直線的に走る溝である。東端を SD10026 に西端を SK10368 に切られ、全体は不明である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが肥前系磁器が出土していないことや、SD10026、SK10368 に切られることから、I期であろう。

#### SD10071

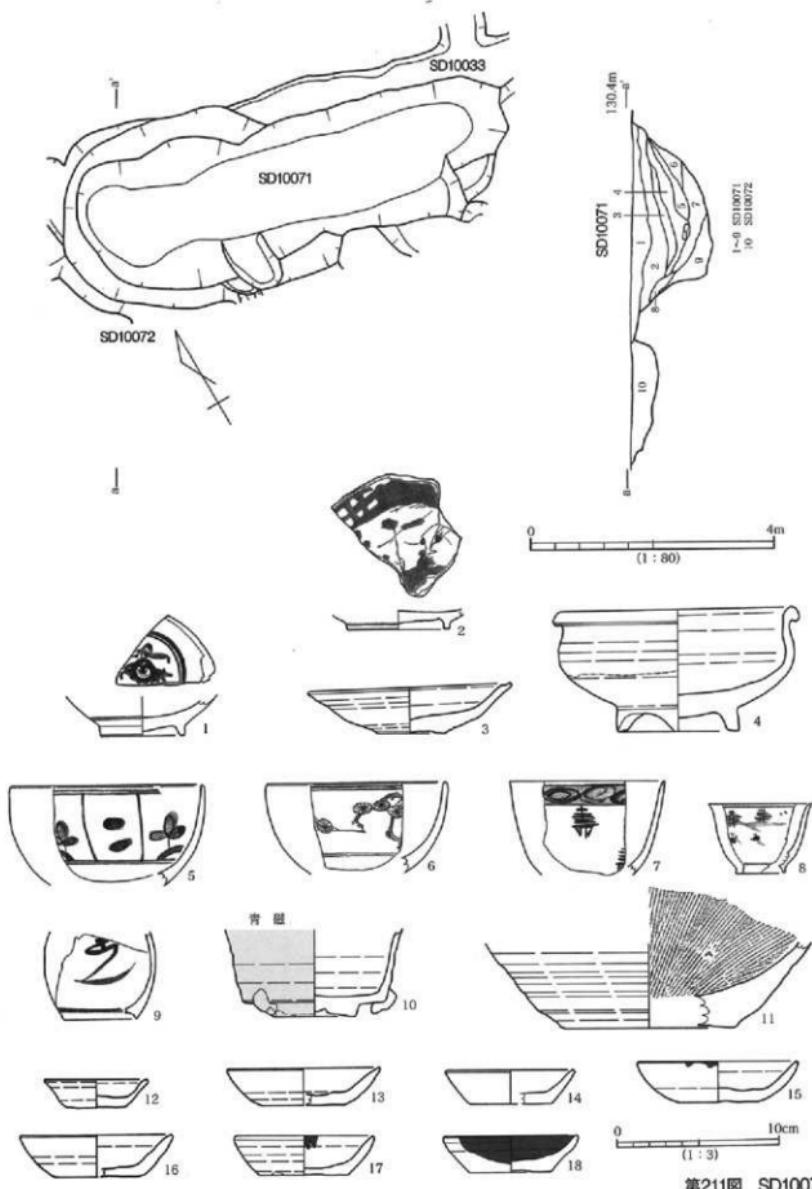
位 置 14-12 グリッド。

規 模 検出された長さ 7.6 m、幅 3.0 m 前後、検出面からの深さ 0.7 m 前後。

形 態 東西に長く梢円形を呈した溝である。底面はやや丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから一括埋土と思われる。遺物を多く出土しているので、SD で登録したが土器・陶磁器の廃棄土坑であろう。SD10072 を切る。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけなどが出土している。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、III期であろう。



#### IV 検出された遺構と遺物



第212図 SD11003

#### SD11003

位 置 5-9グリッド。

規 模 検出された長さ 11.3 m、幅 1.3 m前後、検出面からの深さ 0.5 m前後。

形 態 南北に直線的に走る溝である。北端が攪乱によって切られるので全体は不明である。底面は丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むので、一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年 代 不明。

#### SD11009

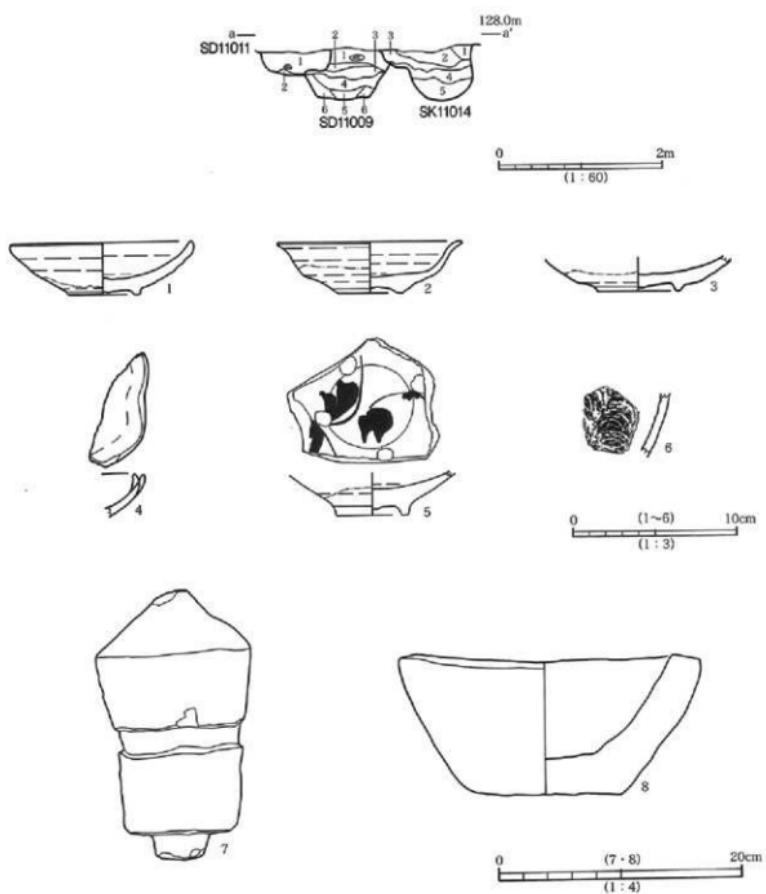
位 置 4-9グリッド。

規 模 検出された長さ 9.6 m、幅 1.0 m、検出面からの深さ 0.6 m前後。

形 態 南北に直線的に走る溝である。北端は攪乱に切られ南端は調査区外であるので、全体は不明である。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、黒瓦が各 1 点出土している。

年 代 出土遺物は少ないが肥前系磁器の出土がなく、また出土している肥前系陶器に最初期の岸岳系の製品があり砂目積み段階の製品がないことから、I 期でも早い段階であろう。



第213図 SD11009

#### IV 検出された遺構と遺物

##### 4 井戸跡

井戸は調査期間の関係で、断面観察が行えた遺構は非常に少なく、また石組井戸の掘り方を精査することもできなかった。年代は井戸内の覆土から出土した遺物で判断しているため、埋没年代を示している。

##### SE101・SE102

位置 12-18 グリッド。

規模 SE101 掘方径不明、内径 0.92 m、検出面からの深さ 2.68 m、底面標高 127.11 m。

SE102 掘方径 2.61 m、内径 0.73 m、検出面からの深さ 1.51 m、底面標高 128.27 m。

形態 ともに石組の井戸である。平面形態はほぼ円形を呈する。石組は検出面直下で検出された。SE101 が SE102 を切る。

出土遺物 SE101 は図化資料以外に、産地不明の陶磁器が出土しているのみである。SE102 は図化資料以外に瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

年代 出土遺物は少ないが、SE102 は 4 より 17 世紀半ばころであろう。SE101 は SE102 を切っているので 17 世紀半ば以降である。

##### SE104

位置 11-20 グリッド。

規模 掘方径 2.39 m、内径 0.80 m、検出面からの深さ 1.45 m、底面標高 128.23 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形に近い梢円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で検出された。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 壺器陶器や手づくねかわらけなど中世の遺物が出土しているが、年代は不明である。

##### SE105

位置 11-20 グリッド。

規模 掘方径 2.29 m、内径 0.75 m、検出面からの深さ 1.73 m、底面標高 128.04 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が梢円形を石組が梢円形を呈する。検出面の約 10 cm 下より石組が検出された。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 中世と思われる五輪塔が出土しているが、年代は不明である。

##### SE108

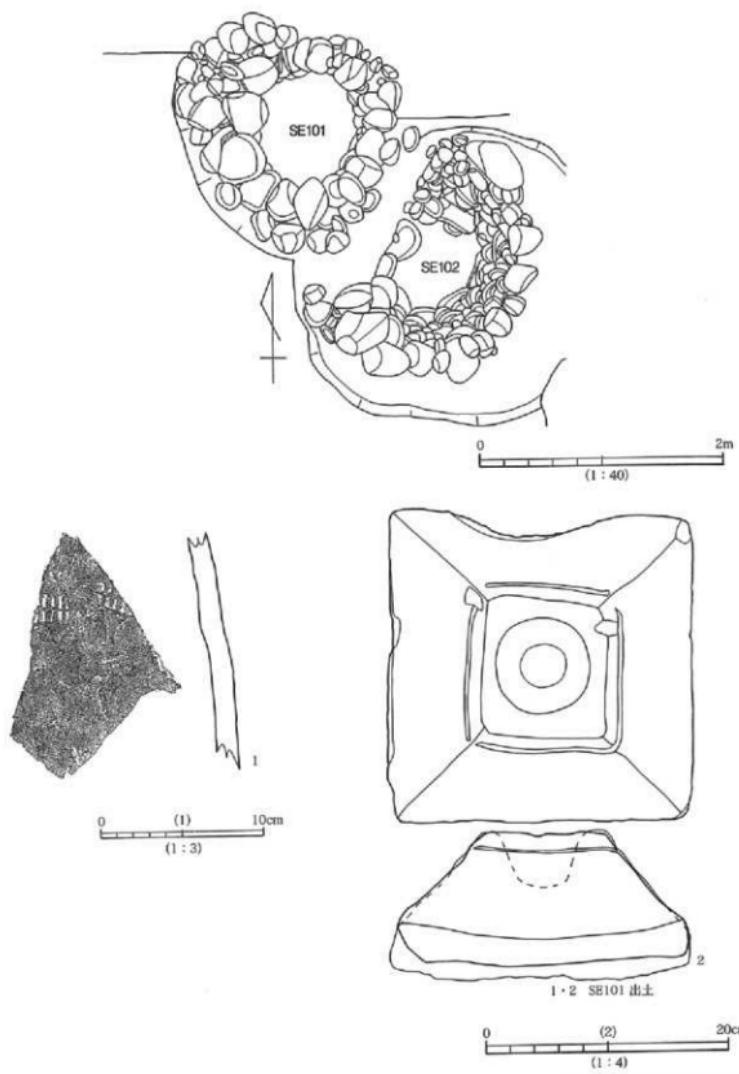
位置 11-21 グリッド。

規模 掘方径 3.37 m、内径 0.94 m、検出面からの深さ 1.97 m、底面標高 127.70 m。

形態 石組の井戸である。平面形態はほぼ円形を呈する。石組は検出面で確認された。

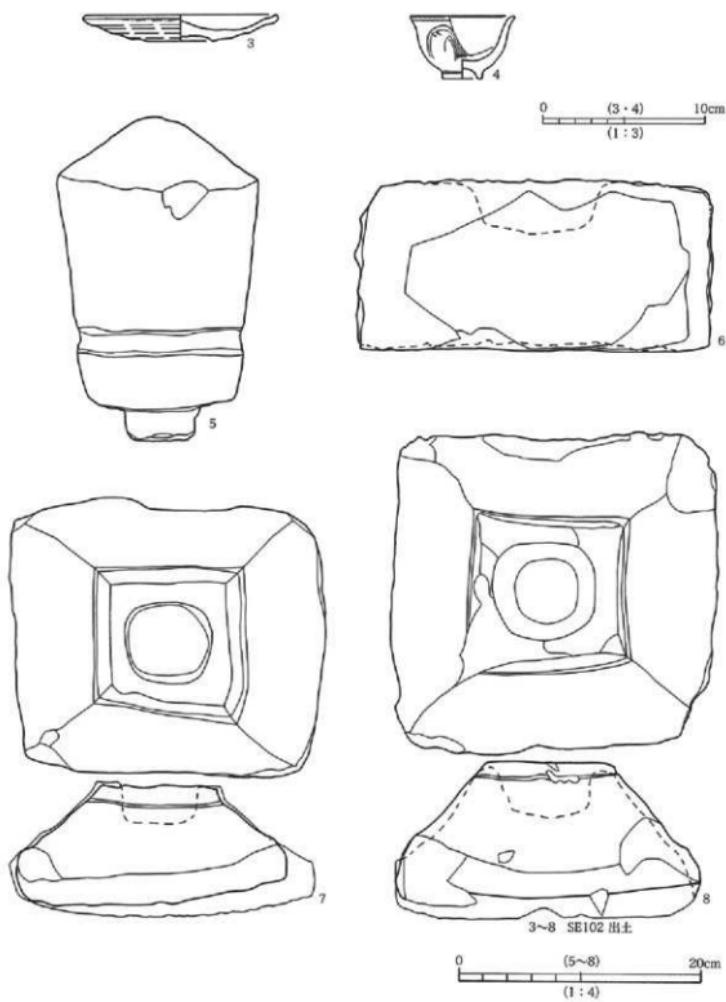
出土遺物 図化資料以外には、黒瓦が 1 点出土しているのみである。

年代 黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。



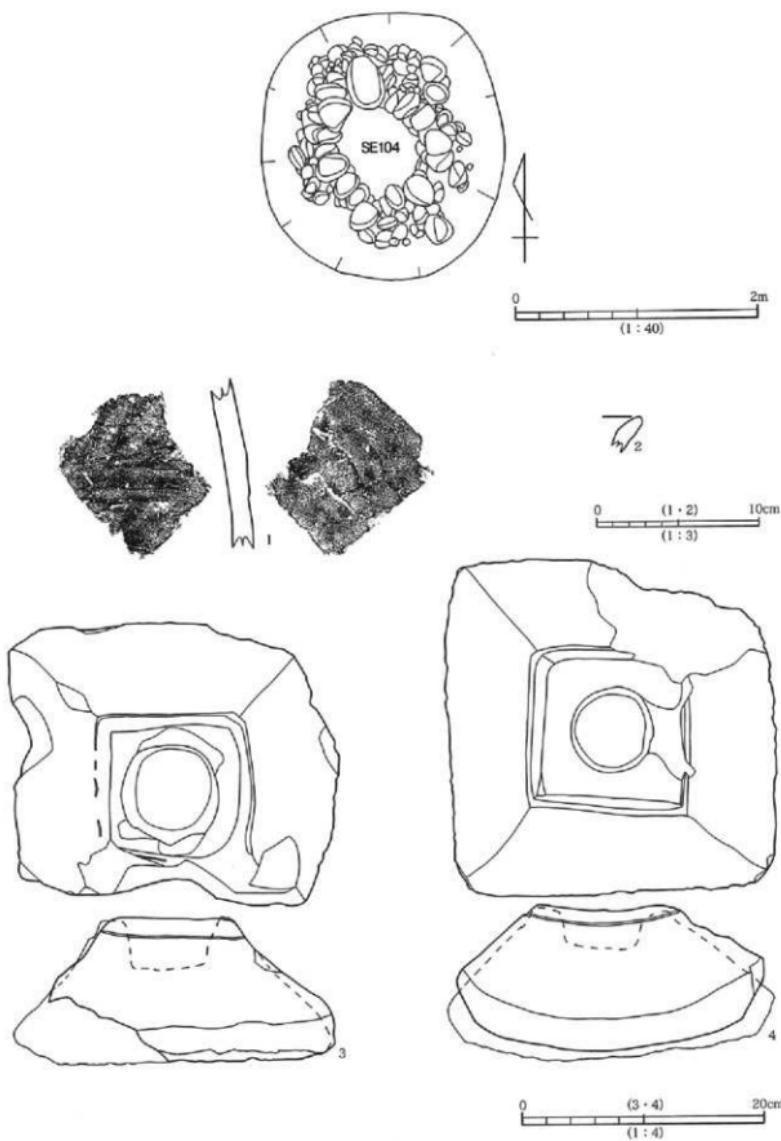
第214図 SE101・SE102 (1)

IV 検出された遺構と遺物



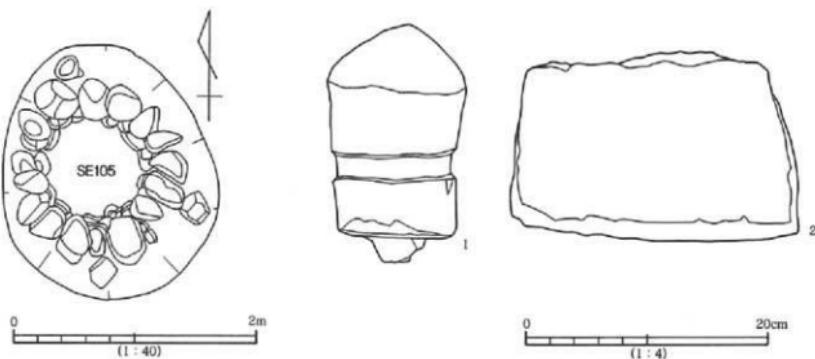
第215図 SE101・SE102 (2)

IV 検出された遺構と遺物

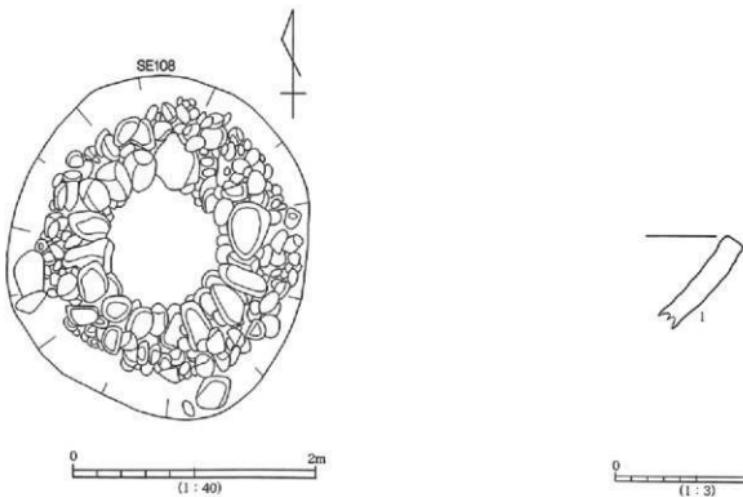


第216図 SE104

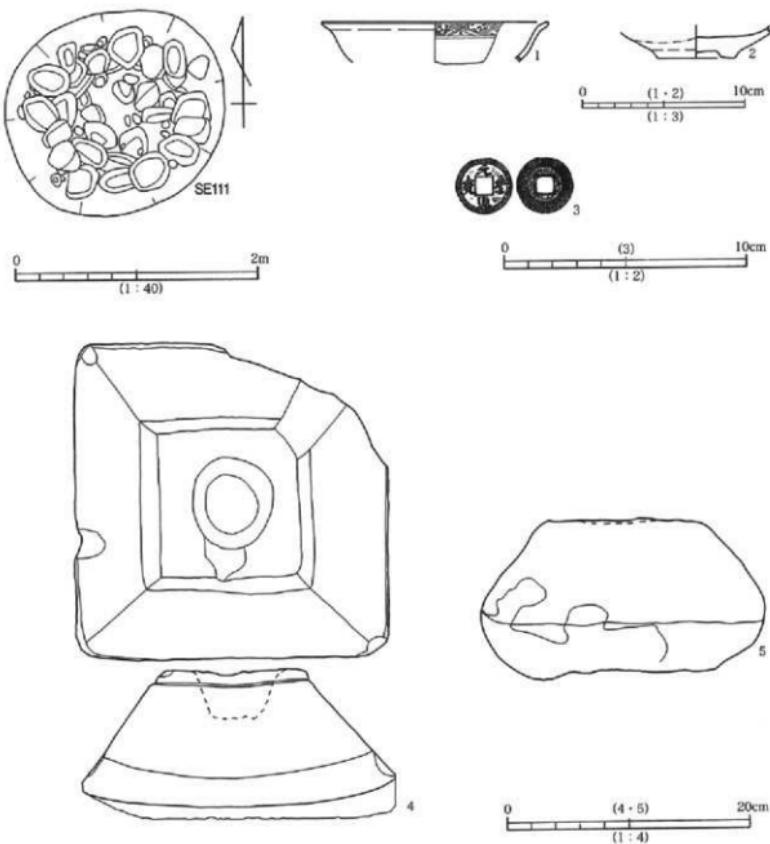
IV 検出された遺構と遺物



第217図 SE105



第218図 SE108



第219図 SE111

**S E 1 1 1**

**位 置** 10 - 17 グリッド。

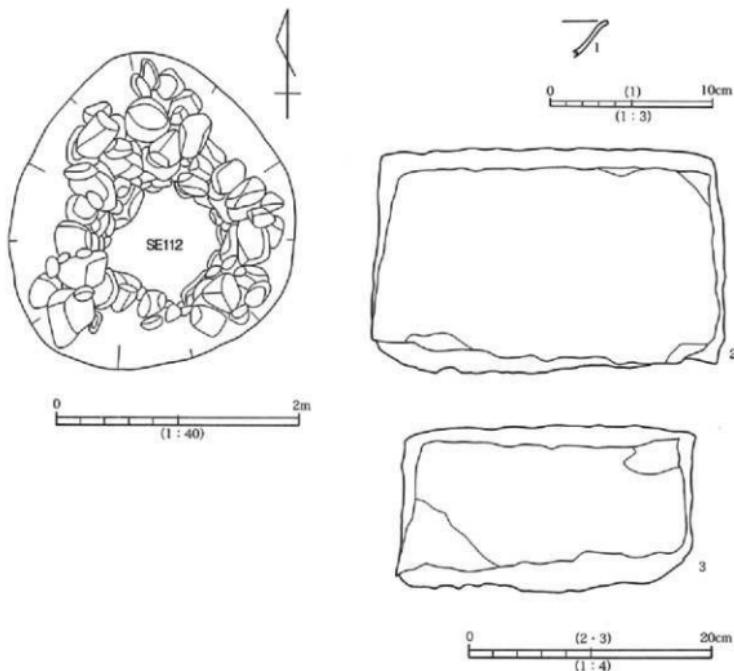
**規 模** 挖方径 1.86 m、内径 0.9 m、検出面からの深さ 0.32 m、底面標高 126.28 m。

**形 態** 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。搅乱の下から検出されたので、検出面からの深さは浅く、石組も検出面で確認された。

**出土遺物** 固化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶器、黒瓦が出土している。

**年 代** 出土遺物は少ないが肥前系磁器はない。17世紀前半であろう。

#### IV 検出された遺構と遺物



第220図 SE112

#### SE112

位 置 10 - 19 グリッド。

規 模 挖方径 2.54 m、内径 0.96 m、検出面からの深さ 1.11 m、底面標高 128.29 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がくずれた楕円形を、石組は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年 代 不明。

#### SE113

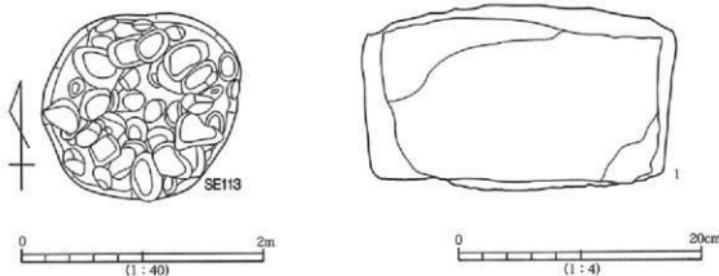
位 置 9 - 17 グリッド。

規 模 挖方径 1.67 m、内径 0.70 m、検出面からの深さ 0.48 m、底面標高 127.72 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。搅乱の下から検出されたので、検出面からの深さは浅く、石組は検出面で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年 代 不明。



第221図 SE113

**S E 1 1 4**

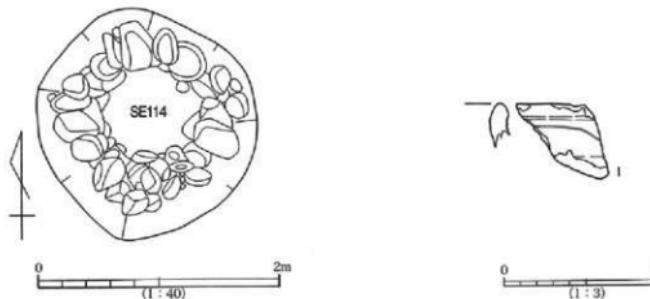
位 置 12 - 17 グリッド。

規 模 挖方径 1.87 m、内径 0.85 m、検出面からの深さ 0.38 m、底面標高 129.240 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年 代 1 のような中世の遺物が出土しているが、年代は不明である。



第222図 SE114

**S E 1 0 3**

位 置 12 - 19 グリッド。

規 模 挖方径 2.22 m、内径 0.82 m、検出面からの深さ 1.75 m、底面標高 128.29 m。

形 態 石組の井戸である。底部に曲げ物が設置されている痕跡があった。平面形態は円形を呈する。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

#### IV 検出された遺構と遺物

##### S E 106

位置 11 - 21 グリッド。

規模 堀方径 4.12 m、内径 0.91 m、検出面からの深さ 1.45 m、底面標高 128.24 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。掘り方は他の井戸と比べて大きいが、それに比して石組はやや小さい。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

##### S E 107

位置 13 - 22 グリッド。

規模 堀方径 2.45 m、内径 0.80 m、検出面からの深さ 1.06 m、底面標高 128.48 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が梢円形を、石組は円形を呈する。

出土遺物 出土遺物は、古代の土師器、須恵器のみである。

年代 不明。

##### S E 109

位置 10 - 19 グリッド。

規模 堀方径 2.96 m、内径 1.35 m、検出面からの深さ 1.16 m、底面標高 128.39 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が梢円形を呈する。石組はやや崩れていますが円形を呈していたと思われる。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

##### S E 115

位置 8 - 17 ~ 9 - 17 グリッド。

規模 堀方径 2.70 m、内径 1.40 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は梢円形を呈する。石組内に、崩落したと思われる礫が石組が検出された高さまで堆積していた。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

##### S E 116

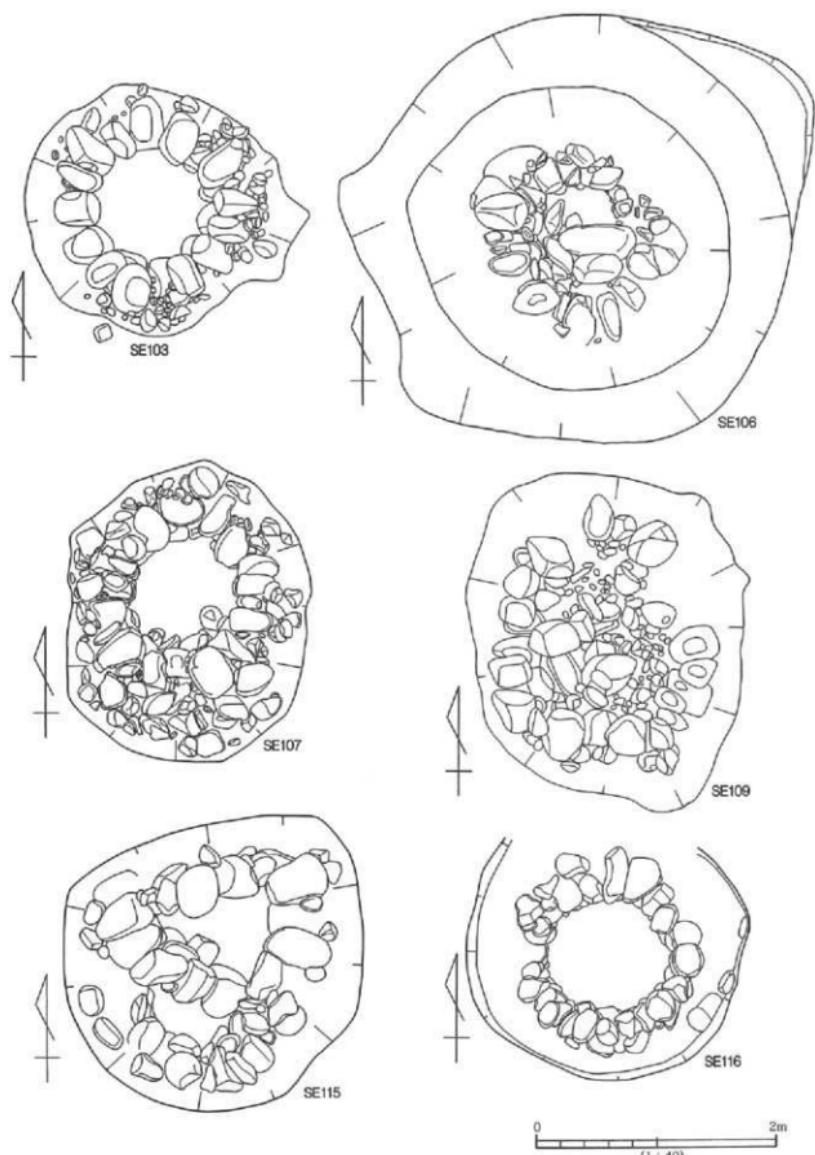
位置 8 - 18 グリッド。

規模 堀方径 2.36 m、内径 0.99 m、検出面からの深さ 1.48 m、底面標高 127.02 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。

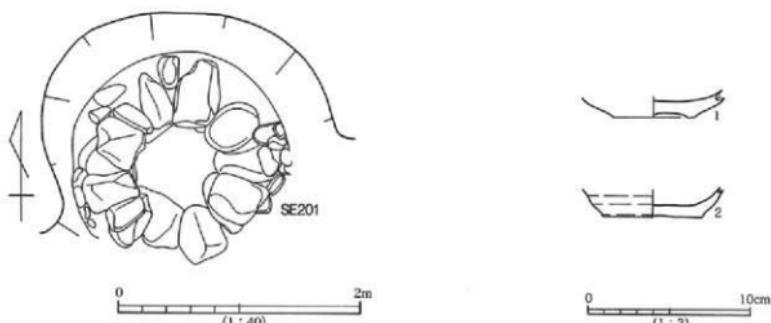
出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。



第223図 SE103・SE106・SE107・SE109・SE115・SE116

#### IV 検出された遺構と遺物



第224図 SE201

##### S E 2 0 1

位 置 14 - 18 グリッド。

規 模 堀方径 2.38 m、内径 0.70 m、検出面からの深さ 1.05 m、底面標高 128.61 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年 代 1 より 17 世紀前半であろう。

##### S E 3 0 1

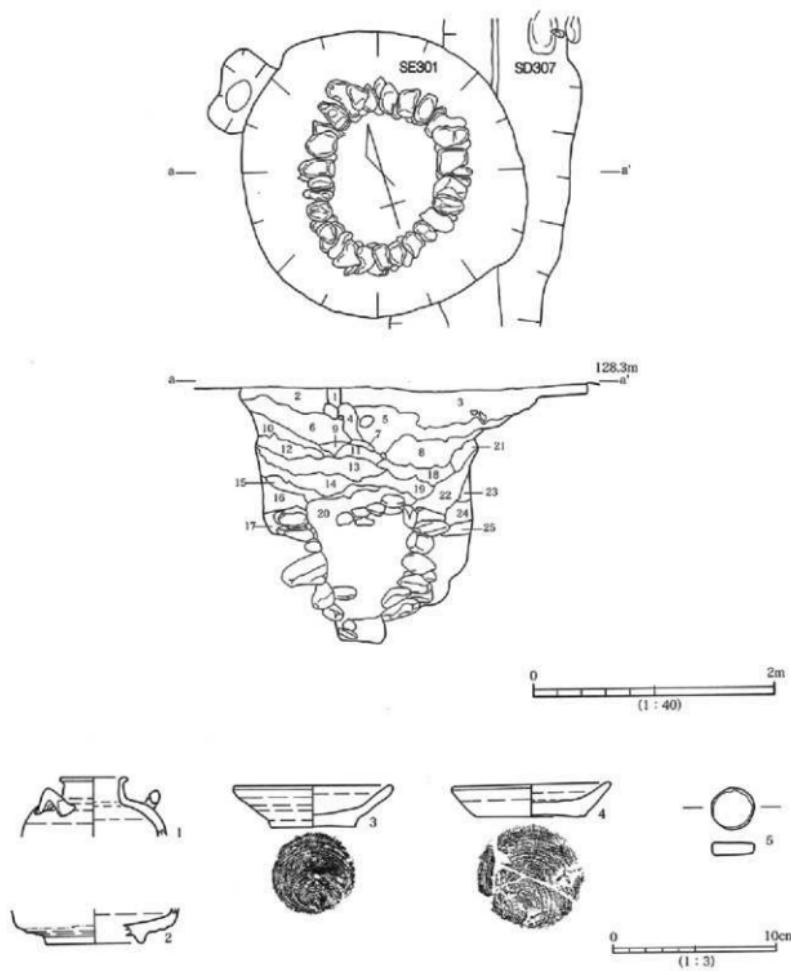
位 置 6 - 5 グリッド。

規 模 堀方径 2.47 m、内径 1.07 m、検出面からの深さ 2.06 m、底面標高 126.24 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 1 m 下で確認された。SD307 を切る。

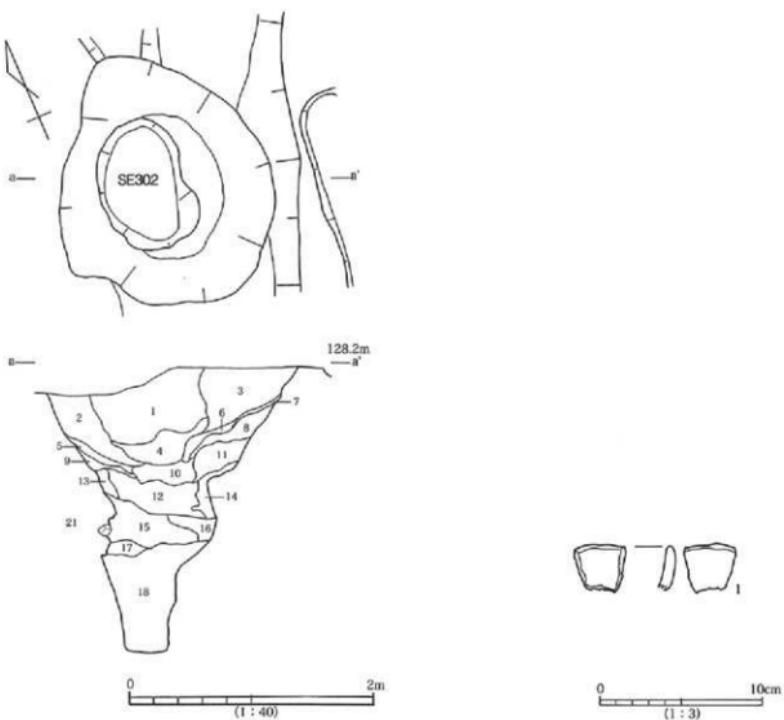
出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、黒瓦が出土している。なお、イヌの脛骨などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが肥前系磁器が出土していないので、I 期であろう。



第225図 SE301

IV 検出された遺構と遺物



第226図 SE302

**SE302**

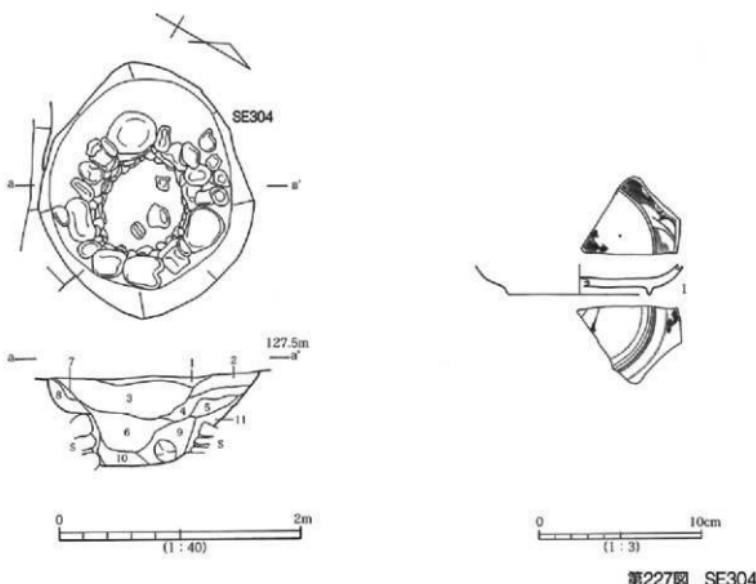
位置 5-5~6-5グリッド。

規模 長軸 2.17 m、短軸 1.80 m、検出面からの深さ 2.10 m、底面標高 125.825 m。

形態 素掘りの井戸である。平面形態はややくずれた楕円形を呈する。土層は18層が自然堆積で、1~17層が一括埋土である。

出土遺物 図化資料以外には、黒瓦が出土している。

年代 黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。



第227図 SE304

**SE304**

**位 置** 6-6グリッド。

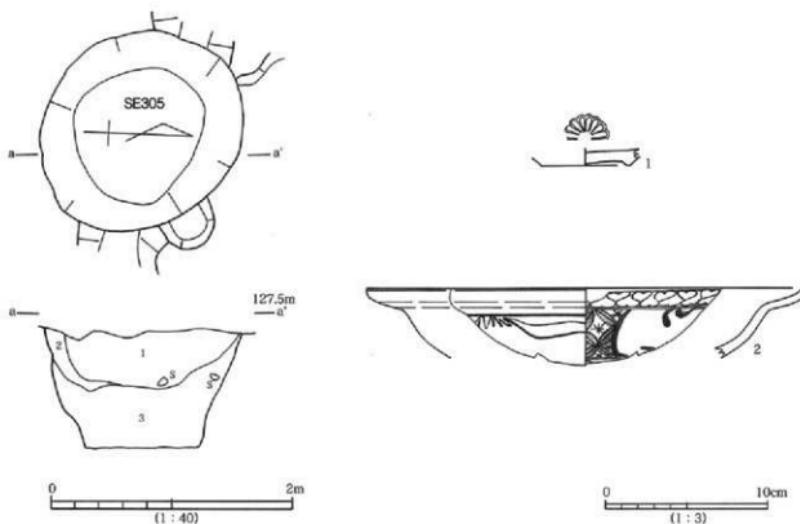
**規 模** 堀方径 2.09m、内径 0.85m、検出面からの深さ 1.09m、底面標高 126.30m。

**形 態** 石組の井戸である。平面形態は掘り方が楕円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。

**出土遺物** 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶器が出土している。

**年 代** 出土遺物の年代幅が広いが、埋没年代は 1 より 18 世紀前半であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第228図 SE305

**SE305**

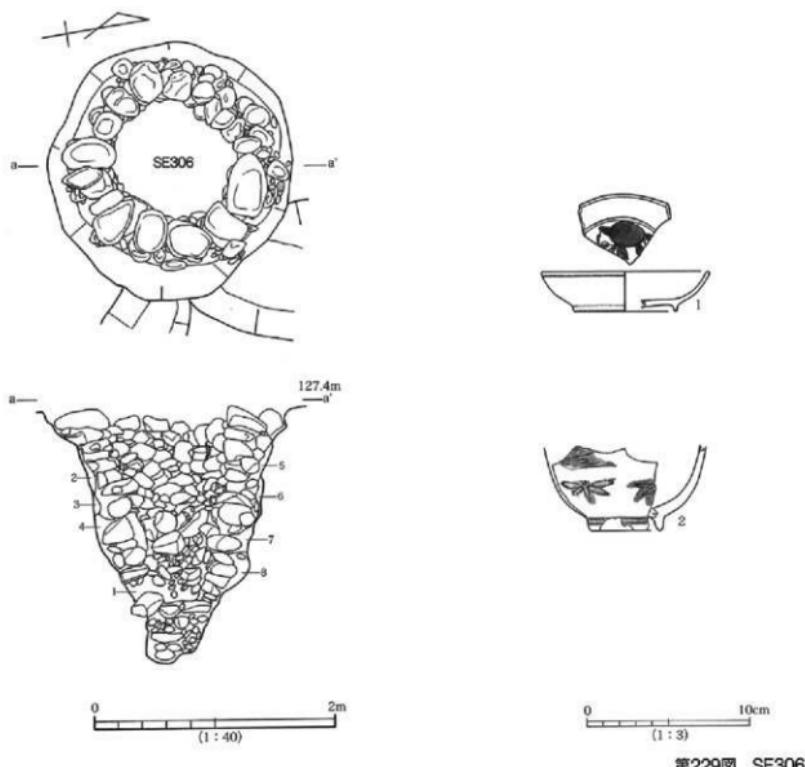
位 置 6-6グリッド。

規 模 直径 1.74 m、検出面からの深さ 0.90 m、底面標高 126.50 m。

形 態 素掘りの井戸である。平面形態は円形を呈する。土層は一括埋土である。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器、黒瓦が出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、2より17世紀半ばころであろう。



第229図 SE306

**SE306**

**位置** 5-6グリッド。

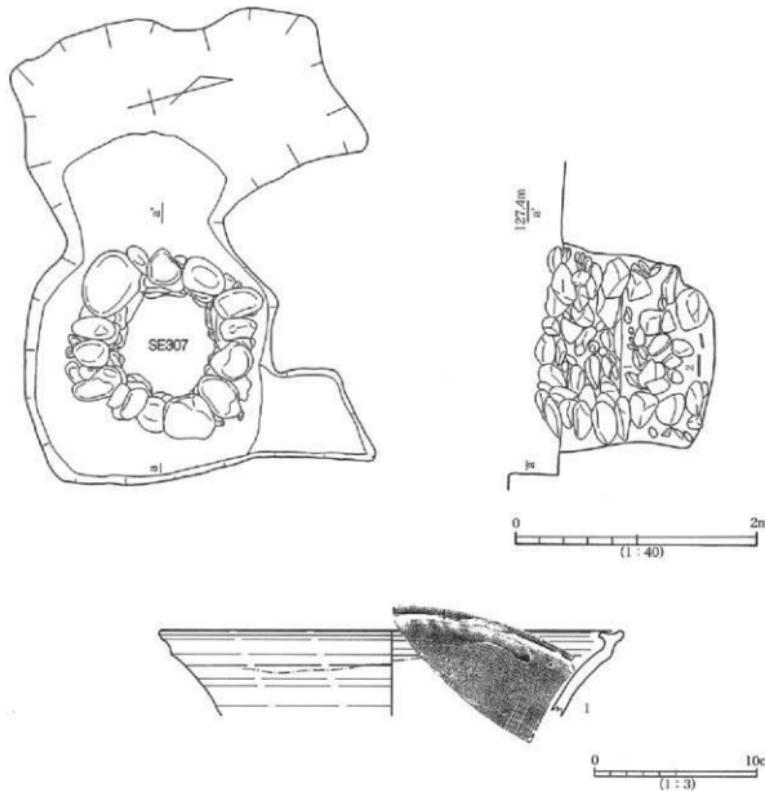
**規模** 堀方径 2.11 m、内径 1.00 m、検出面からの深さ 0.89 m、底面標高 126.43 m。

**形態** 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

**出土遺物** 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

**年代** 出土遺物は少ないが、2より 17世紀半ばころであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第230図 SE307

SE307

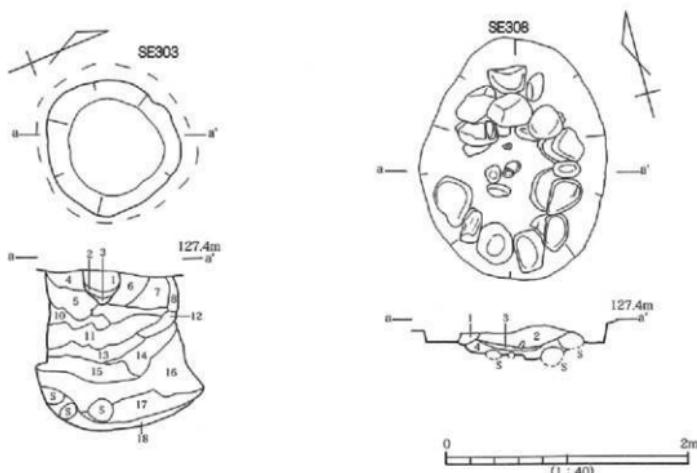
位 置 8-7グリッド。

規 模 挖方径 2.29 m、内径 0.90 m、検出面からの深さ 0.84 m、底面標高 126.71 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態はややくずれた円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、波佐見産と思われる肥前系磁器が 1 点ある。

年 代 肥前系磁器が出土しているので II 期以降であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は不明である。



第231図 SE303・SE308

**S E 3 0 3**

**位 置** 5-6グリッド。

**規 模** 直径 1.12 m、検出面からの深さ 1.28 m、底面標高 126.04 m。

**形 態** 素掘りの井戸である。平面形態は円形を呈する。土層より一括埋土である。

**出土遺物** 出土遺物はない。

**年 代** 不明。

**S E 3 0 8**

**位 置** 6-8グリッド。

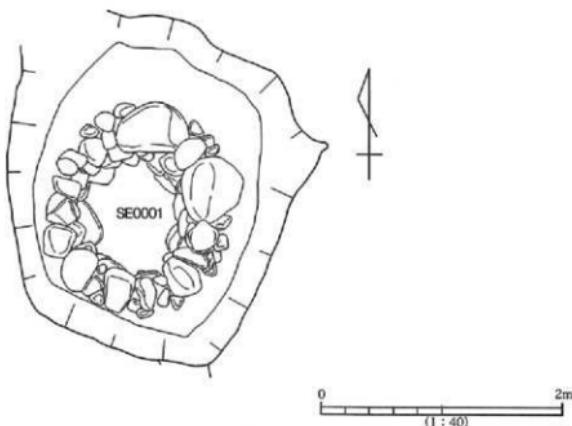
**規 模** 堀方径 1.96 m、内径 0.82 m、検出面からの深さ 0.33 m、底面標高 127.05 m。

**形 態** 石組の井戸である。平面形態は梢円形を呈する。上部を擾乱で切られるため、石組は検出面で確認され、検出面からの深さも浅い。

**出土遺物** 出土遺物はない。

**年 代** 不明。

#### IV 検出された遺構と遺物



第232図 SE0001

##### SE0001

位置 16-8グリッド。

規模 堀方径 2.65m、内径 0.88m、検出面からの深さ 1.16m、底面標高 128.76m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 50cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

##### SE0003

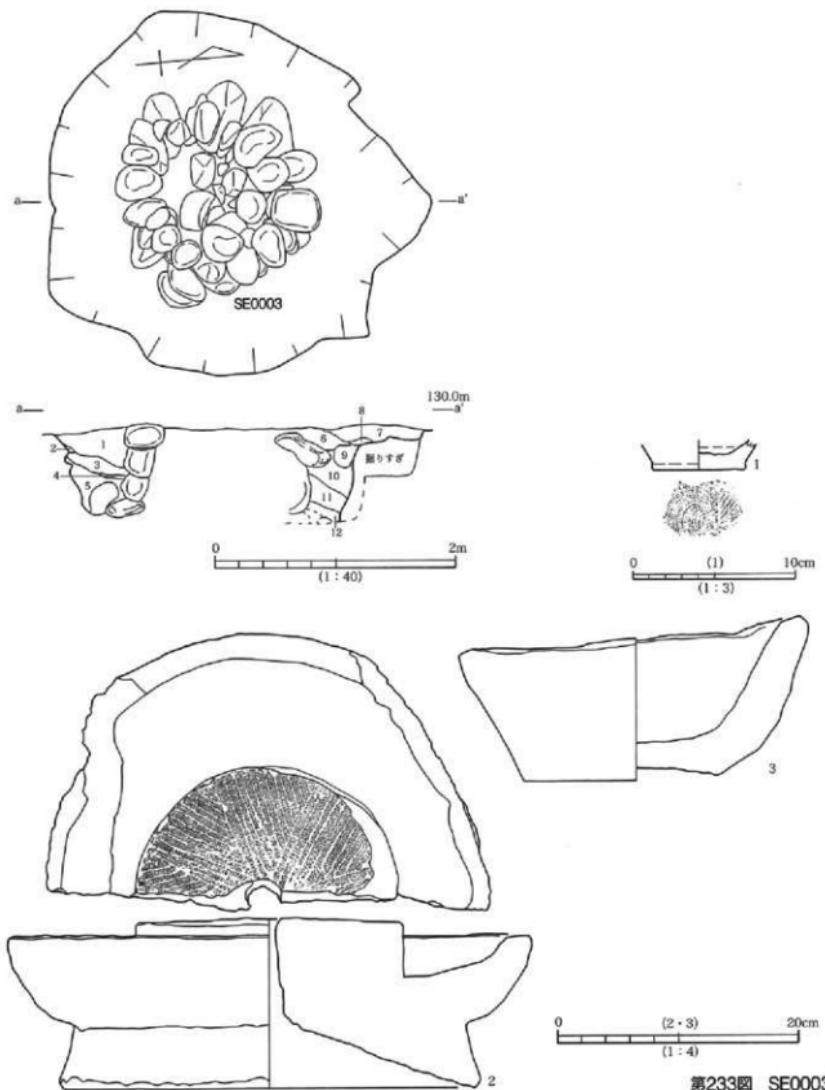
位置 16-3グリッド。

規模 堀方径 2.92m、内径 0.72m、検出面からの深さ 0.78m、底面標高 129.08m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

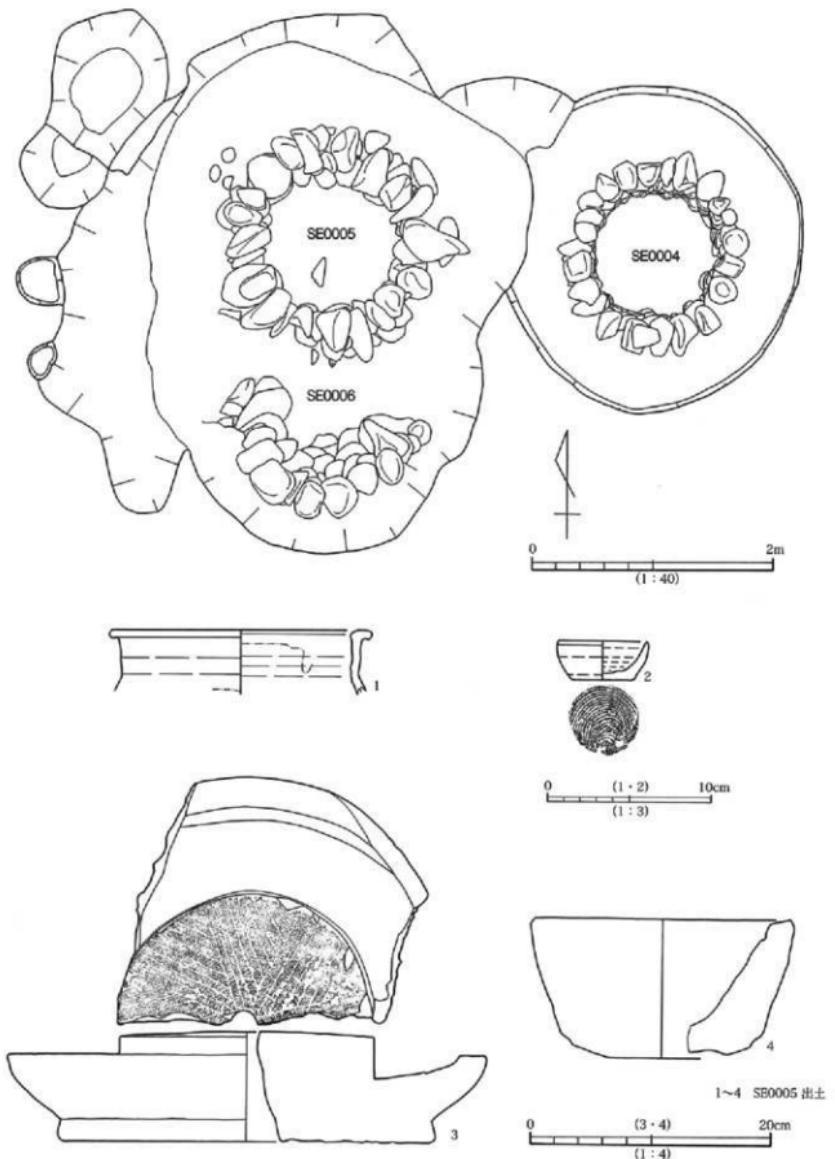
出土遺物 図化資料以外に、出土遺物はない。

年代 不明。

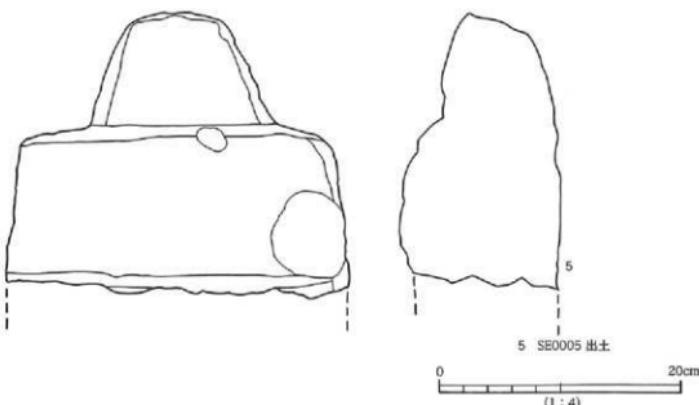


第233図 SE0003

IV 検出された遺構と遺物



第234図 SE0004・SE0005・SE0006 (1)



第235図 SE0004・SE0005・SE0006 (2)

## SE0004・SE0005・SE0006

位 置 17-8 グリッド。

規 模 SE0004 掘方径 2.68 m、内径 1.02 m、検出面からの深さ 0.75 m、底面標高 129.27 m。

SE0005 掘方径 3.09 m、内径 1.05 m、検出面からの深さ 1.02 m、底面標高 128.90 m。

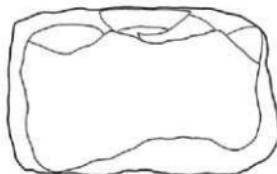
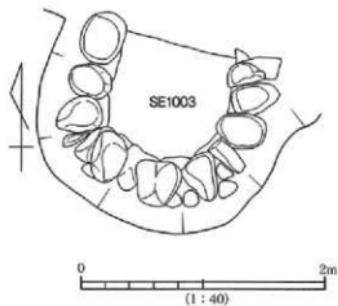
SE0006 掘方径 2.45 m、内径 0.64 m、検出面からの深さ 1.10 m、底面標高 128.86 m。

形 態 ともに石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は SE0004、SE0005 が検出面の約 10 cm、SE0006 が検出面の約 20 cm 下で確認された。SE0005 は SE0004、SE0006 を切る。

出土遺物 SE0005 は図化資料以外に、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦が出土している。SE0004、SE0006 は出土遺物はない。

年 代 SE0005 は肥前系磁器が出土しているので II 期以降であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は不明である。SE0004 と SE0006 は切り合いより SE0005 より古いが、年代は不明である。

#### IV 検出された遺構と遺物



第236図 SE1003

#### SE1003

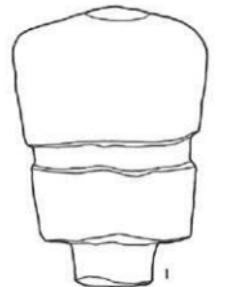
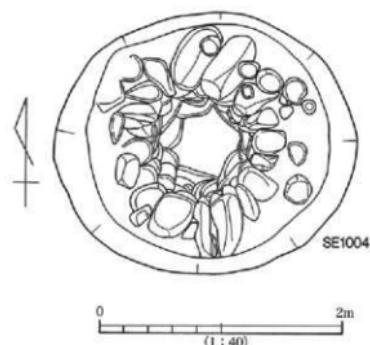
位置 10-10 グリッド。

規模 掘方径 2.11 m、内径 0.98 m、検出面からの深さ 0.63 m、底面標高 128.90 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。上部を搅乱で切られていたため北側の石組は失われており、石組は検出面で確認され、検出面からの深さも浅い。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年代 不明。



第237図 SE1004

#### SE1004

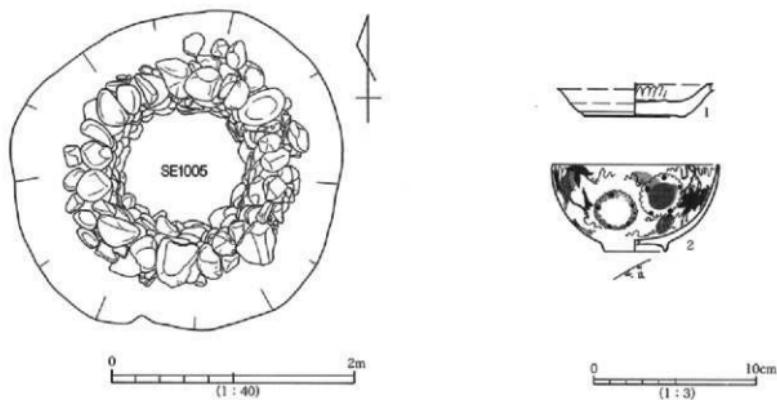
位置 7-10 グリッド。

規模 掘方径 2.43 m、内径 0.81 m、検出面からの深さ 1.92 m、底面標高 127.73 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 80 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年代 不明。



第238図 SE1005

**SE1005**

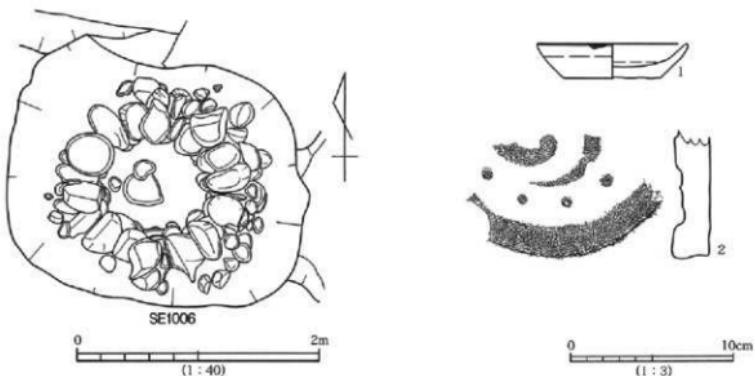
位置 11 - 10 グリッド。

規模 挖方径 2.81 m、内径 1.29 m、検出面からの深さ 1.27 m、底面標高 128.43 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系磁器、黒瓦が出土している。

年代 遺物の年代幅は広いが、2より18世紀前半ころの埋没年代が与えられるだろう。



第239図 SE1006

**SE1006**

位置 8 - 10 グリッド。

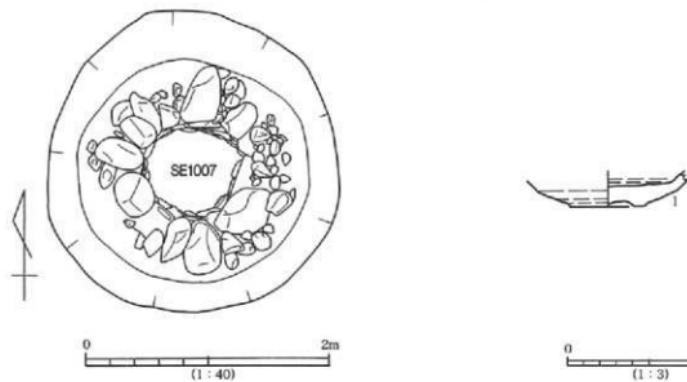
規模 挖方径 2.70 m、内径 0.88 m、検出面からの深さ 1.50 m、底面標高 128.13 m。

#### IV 検出された遺構と遺物

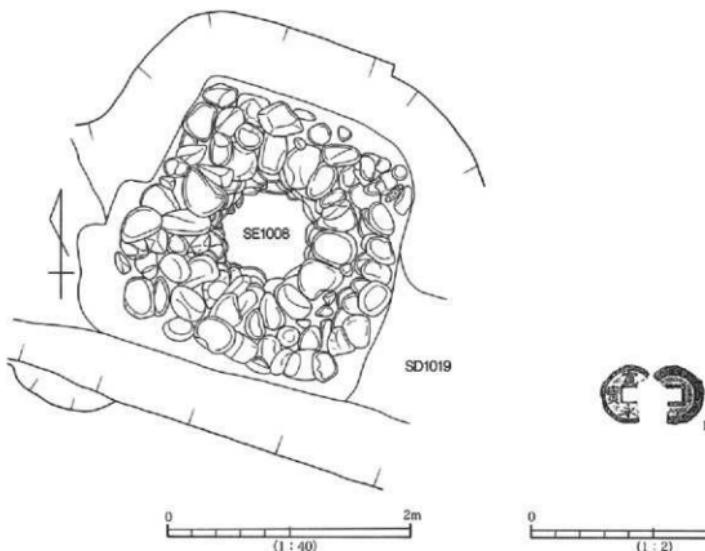
**形態** 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組が円形を呈する。石組はほぼ検出面で確認された。なお、石組内の埋土中に黒瓦が多量に廃棄されていた。

**出土遺物** 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系磁器、備前、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

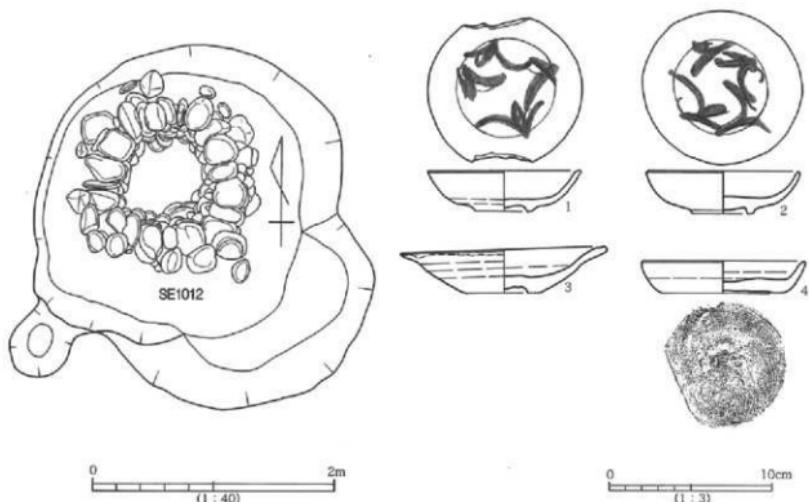
**年代** 肥前系磁器が出土しているのでⅡ期以降であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は不明である。



第240図 SE1007



第241図 SE1008



第242図 SE1012

**S E 1 0 0 7**

**位 置** 7-10 グリッド。

**規 模** 堀方径 2.51 m、内径 0.75 m、検出面からの深さ 1.62 m、底面標高 127.69 m。

**形 態** 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。

**出土遺物** 固化資料以外では、肥前系陶器が 1 点ある。

**年 代** 出土資料が少ないが、1 より 17 世紀前半であろう。

**S E 1 0 0 8**

**位 置** 11-11 グリッド。

**規 模** 堀方径 3.36 m、内径 0.98 m、検出面からの深さ 1.14 m、底面標高 128.52 m。

**形 態** 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組は内側が円形を、裏込め石が掘り方に沿うように隅丸方形を呈する。石組は検出面の約 80 cm 下で確認された。SD1019 を切る。

**出土遺物** 固化資料以外に出土遺物はない。

**年 代** SD1019 との切り合いや、1 より 17 世紀半ば以降の埋没年代であろう。

**S E 1 0 1 2**

**位 置** 10-12 グリッド。

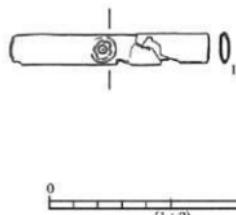
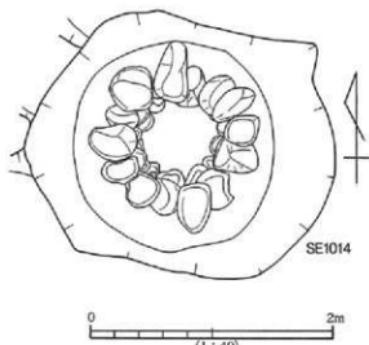
**規 模** 堀方径 2.81 m、内径 0.81 m、検出面からの深さ 1.54 m、底面標高 128.78 m。

**形 態** 石組の井戸である。平面形態は円形を呈するが、掘り方は南東側に一部テラス状の張り出しを持つ。石組は検出面の約 50 cm 下で確認された。

#### IV 検出された遺構と遺物

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが肥前系磁器は初期伊万里のみで構成されるので、II期であろう。



第243図 SE1014

#### S E 1 0 1 4

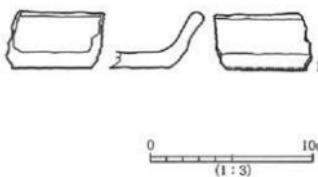
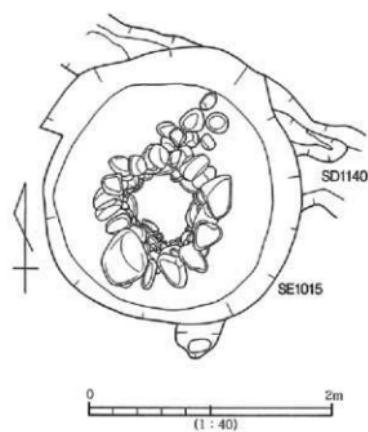
位 置 8 - 11 グリッド。

規 模 堀方径 2.42 m、内径 0.65 m、検出面からの深さ 1.62 m、底面標高 127.35 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が梢円形を、石組は円形を呈する。石組は検出面の約 80 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器などが出土している。

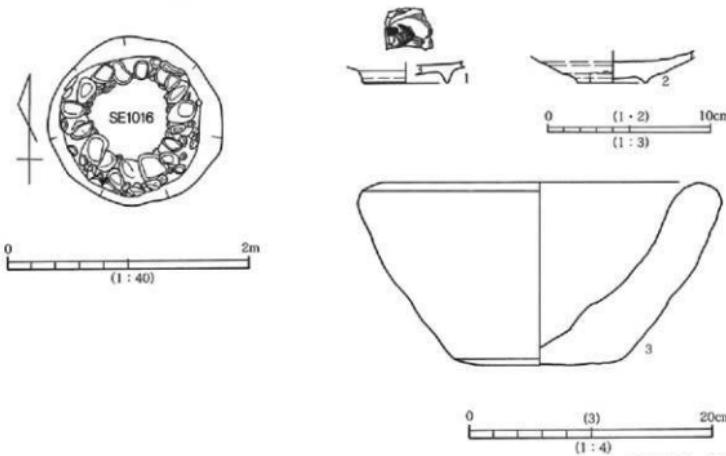
年 代 不明。



第244図 SE1015

## S E 1 0 1 5

位 置 9 - 12 ~ 10 - 12 グリッド。  
 規 模 堀方径 2.31 m、内径 0.67 m、検出面からの深さ 1.29 m、底面標高 128.86 m。  
 形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。  
 出土遺物 図化資料以外に、出土遺物はない。  
 年 代 出土遺物は少ないが、1 より 17 世紀前半であろう。

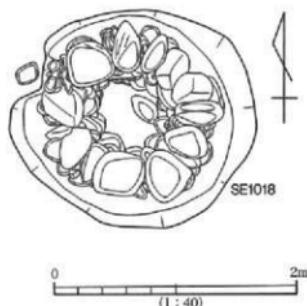


第245図 SE1016

## S E 1 0 1 6

位 置 10 - 12 グリッド。  
 規 模 堀方径 1.44 m、内径 0.65 m、検出面からの深さ 1.47 m、底面標高 128.86 m。  
 形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 40 cm 下で確認された。  
 出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器が 1 点出土している。  
 年 代 1 や 2 より 17 世紀前半であろう。

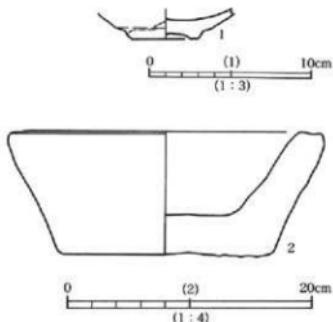
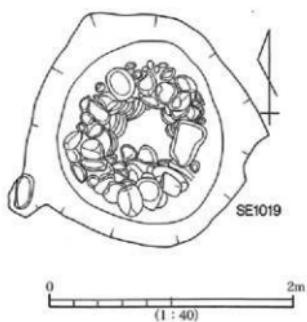
IV 検出された遺構と遺物



第246図 SE1018

**S E 1 0 1 8**

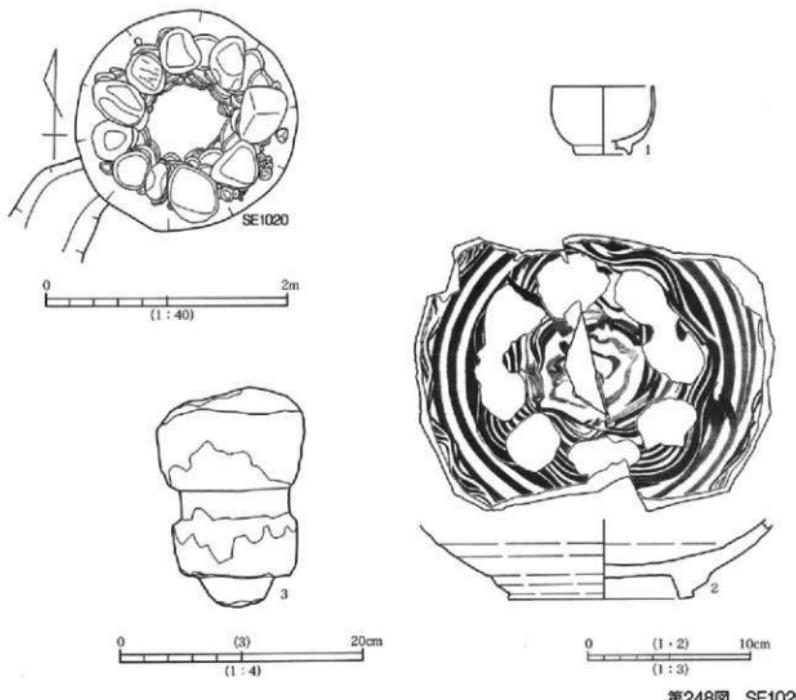
- 位 置 12 - 12 グリッド。  
 規 模 堀方径 2.02 m、内径 0.70 m、検出面からの深さ 0.97 m、底面標高 129.49 m。  
 形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。  
 出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。  
 年 代 1より 16世紀後半から 17世紀初頭であろう。



第247図 SE1019

**S E 1 0 1 9**

- 位 置 9 - 13 グリッド。  
 規 模 堀方径 2.01 m、内径 0.60 m、検出面からの深さ 1.13 m、底面標高 129.24 m。  
 形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。  
 出土遺物 図化資料以外には、黒瓦が出土している。  
 年 代 1より 17世紀前半であろう。



第248図 SE1020

**S E 1 0 2 0**

**位 置** 10 - 13 グリッド。

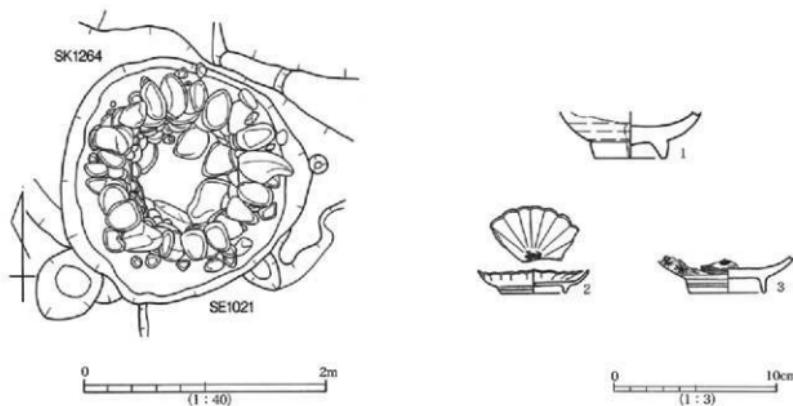
**規 模** 横方径 1.83 m、内径 0.73 m、検出面からの深さ 1.45 m、底面標高 128.99 m。

**形 姿** 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

**出土遺物** 固化資料以外には、黒瓦が出土している。

**年 代** 1 や 2 より、18 世紀代であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第249図 SE1021

**S E 1 0 2 1**

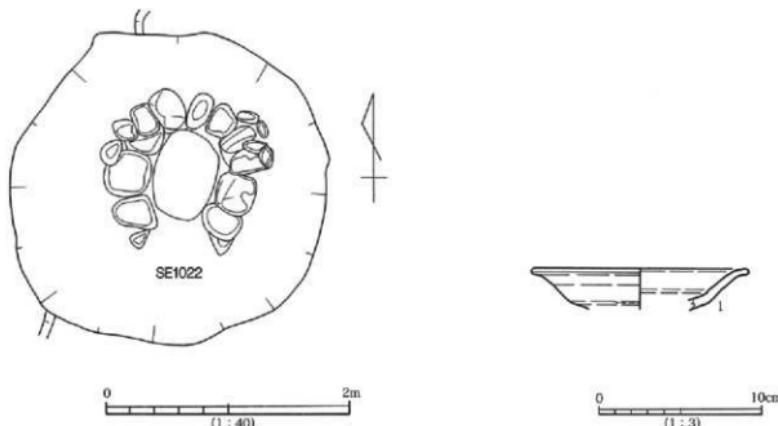
位 置 8 - 13 グリッド。

規 模 堀方径 2.06 m、内径 0.98 m、検出面からの深さ 2.10 m、底面標高 127.72 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。SK1264 を切る。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 肥前系磁器は高台U字状の製品が主体を占めるので、IV期であろう。



第250図 SE1022

## S E 1 0 2 2

位 置 9-13 グリッド。

規 模 挖方径 2.73 m、内径 0.71 m、検出面からの深さ 1.87 m、底面標高 128.34 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 1.4 m 下で検出された。石組は 1 段から 2 段しか積まれておらず、南側は欠落している。井戸構築当初からこのような形状なのか、崩落したものなののかはわからなかった。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器が出土している。なお、種類は不明だが動物の骨が出土している。

年 代 1 より 17 世紀前半であろう。

## S E 1 0 2 3

位 置 11-13 グリッド。

規 模 挖方径 2.35 m、内径 0.93 m、検出面からの深さ 1.44 m、底面標高 128.87 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外に、出土遺物はない。

年 代 赤瓦が出土しているので、IV 期以降であろう。

## S E 1 0 2 5 · S E 1 0 2 6

位 置 11-14 グリッド。

規 模 SE1025 内径 0.78 m、検出面からの深さ 0.73 m、底面標高 128.96 m。

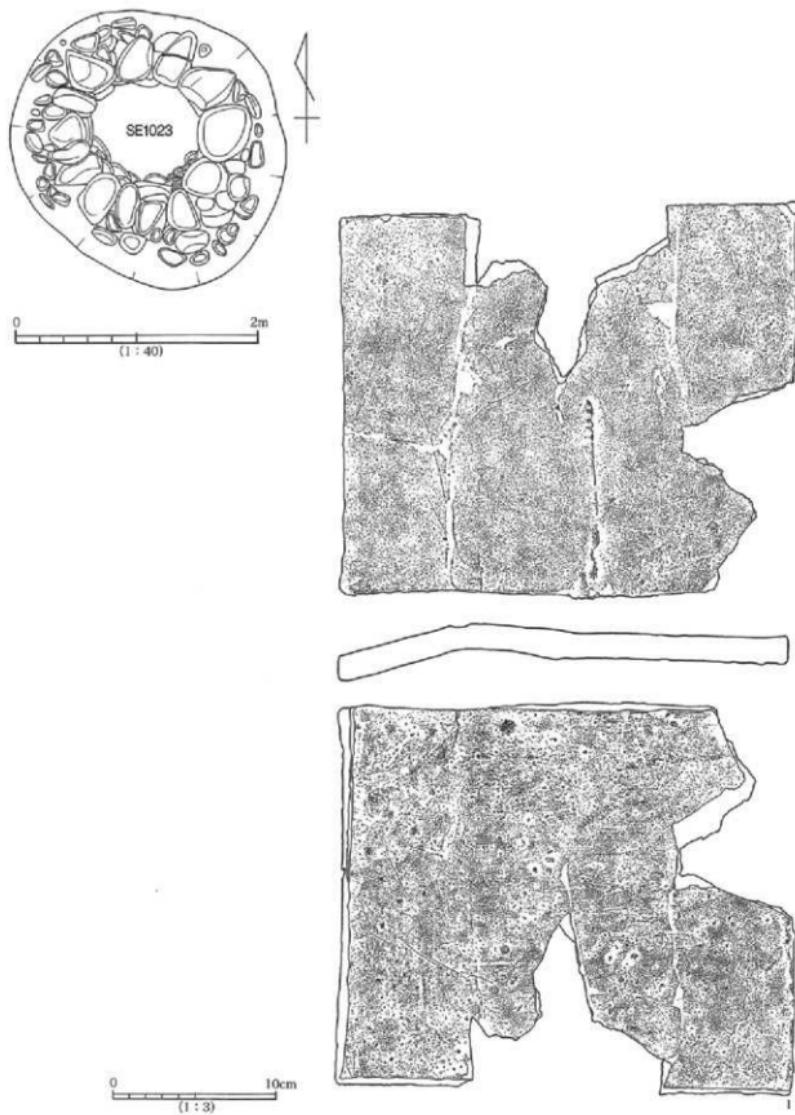
SE1026 内径 0.87 m、検出面からの深さ 0.44 m、底面標高 129.62 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組はともに検出面の約 30 cm 下で確認された。中世の溝である SD1085 を切る。SE1025 が SE1026 を切る。

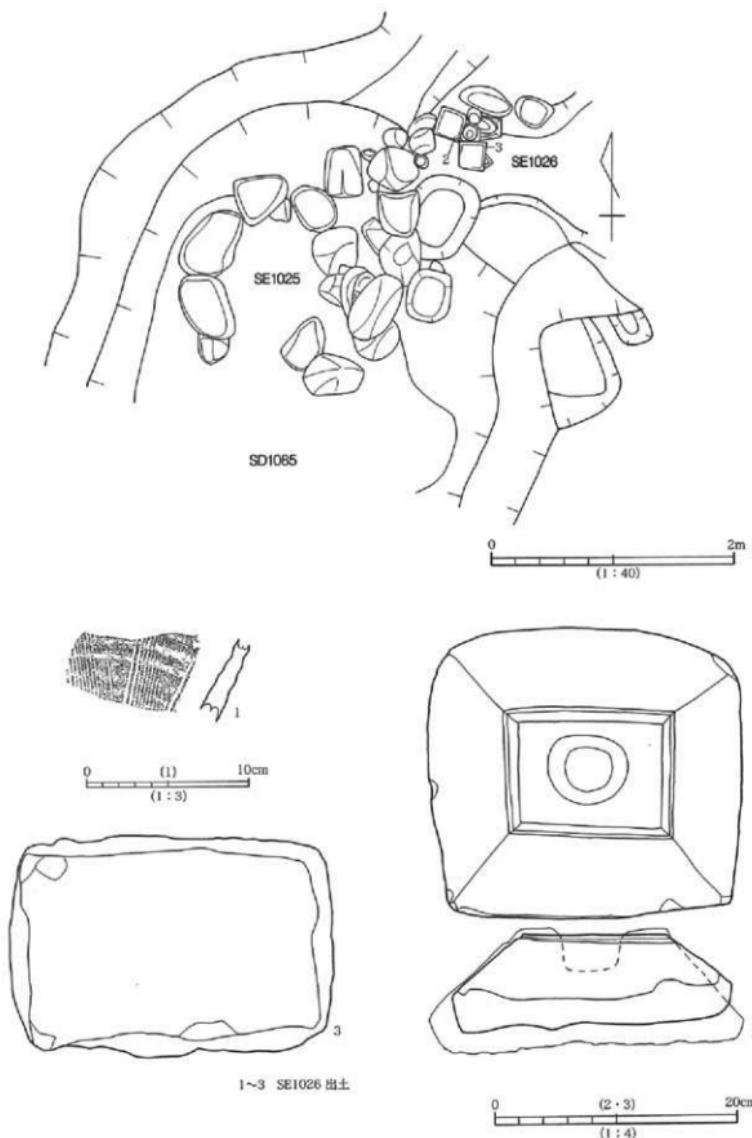
出土遺物 SE1026 は中世と思われる五輪塔である 2・3 を石組に再利用している。図化資料以外には、SE1026 は肥前系磁器、黒瓦などが出土している。SE1025 は出土遺物がない。

年 代 SE1026 は肥前系磁器が出土していることから II 期以降であろうが、出土遺物が少なく詳細な年代は不明である。SE1025 は SE1026 より新しいが年代は不明である。

IV 検出された遺構と遺物

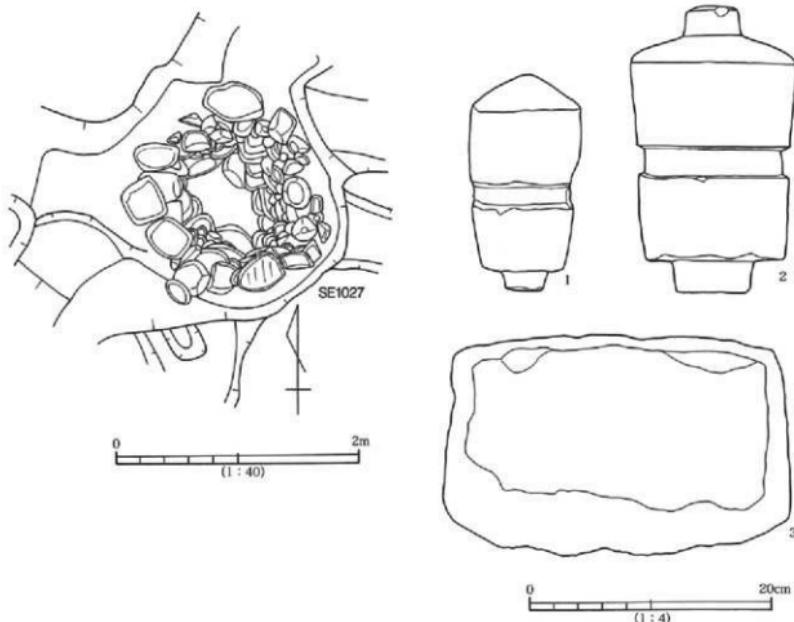


第251図 SE1023



第252図 SE1025・SE1026

#### IV 検出された遺構と遺物



第253図 SE1027

#### SE1027

位置 11-14グリッド。

規模 堀方径 2.10 m、内径 0.93 m、検出面からの深さ 1.39 m、底面標高 129.01 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形に近い梢円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 不明。

#### SE1028

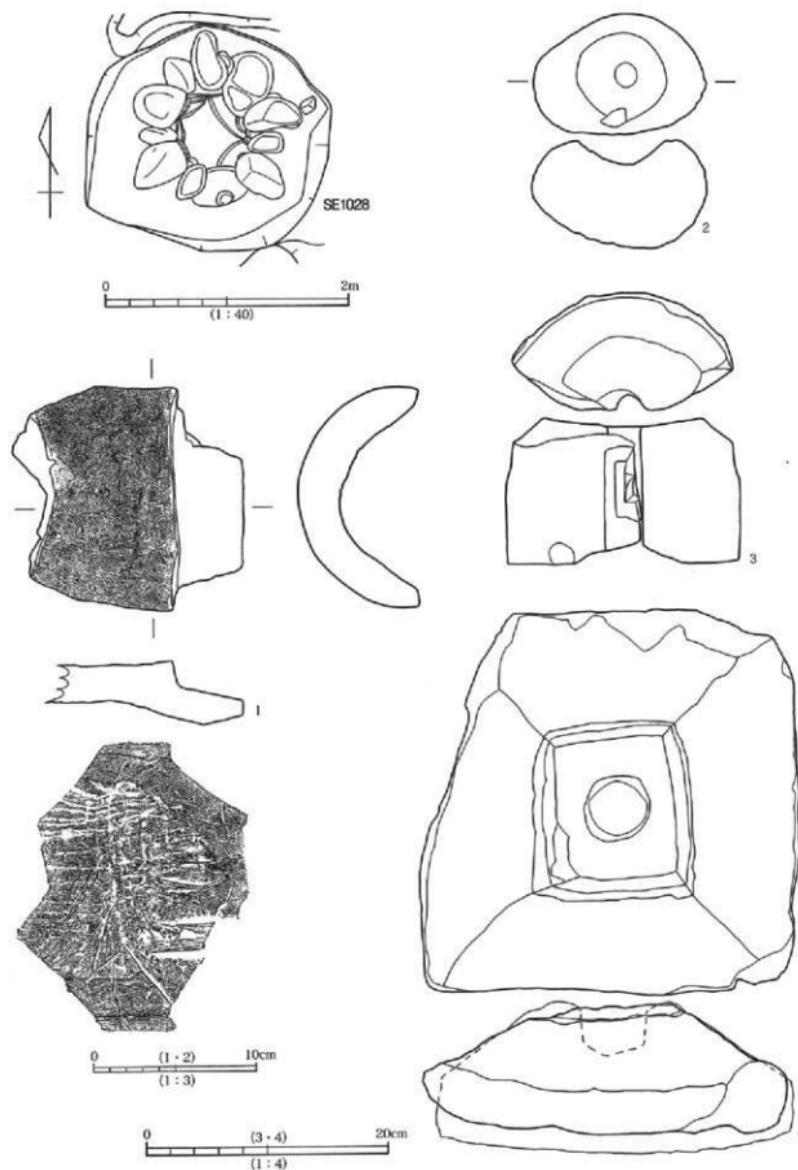
位置 8-12グリッド。

規模 堀方径 2.08 m、内径 0.63 m、検出面からの深さ 1.31 m、底面標高 128.50 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 40 cm 下で確認された。

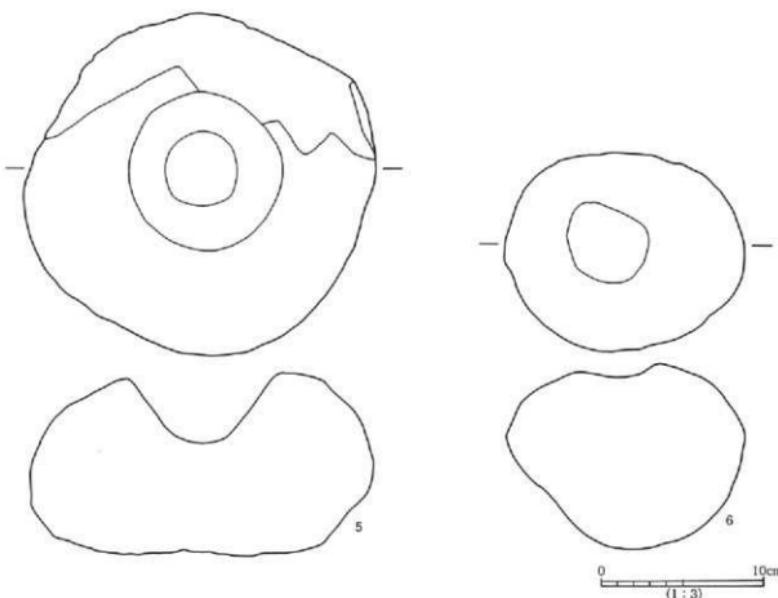
出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、黒瓦、石製培塿などが出土している。

年代 図化資料以外の出土遺物より 17世紀前半ころであろう。



第254図 SE1028 (1)

#### IV 検出された遺構と遺物



第255図 SE1028 (2)

#### SE1029

位 置 7-12 グリッド。

規 模 堀方径 2.36 m、内径 1.10 m、検出面からの深さ 1.38 m、底面標高 127.98 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。SD1072 を切る。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年 代 不明。

#### SE1030

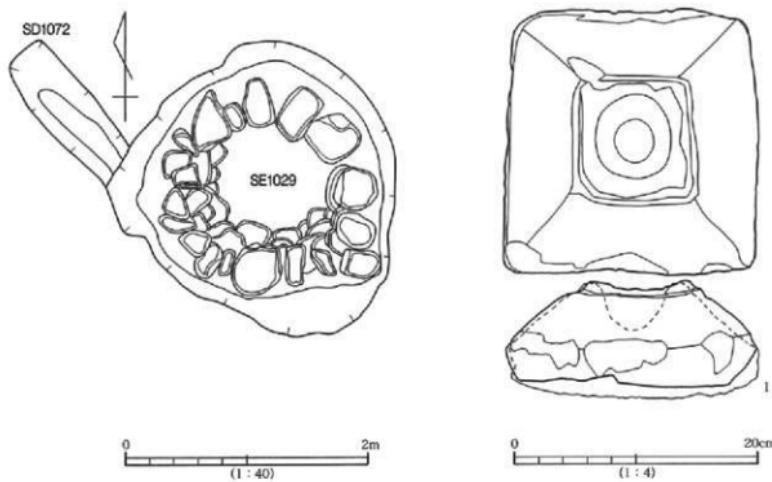
位 置 6-12 グリッド。

規 模 堀方径 2.66 m、内径 0.91 m、検出面からの深さ 1.69 m、底面標高 127.44 m。

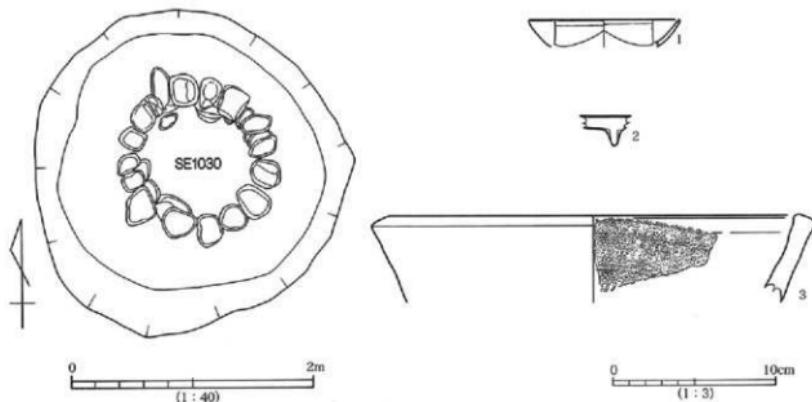
形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 1 m 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器が 1 点出土している。なお、2 や 3 などの中世遺物が若干混入している。

年 代 1 より 17 世紀初頭の可能性が高い。

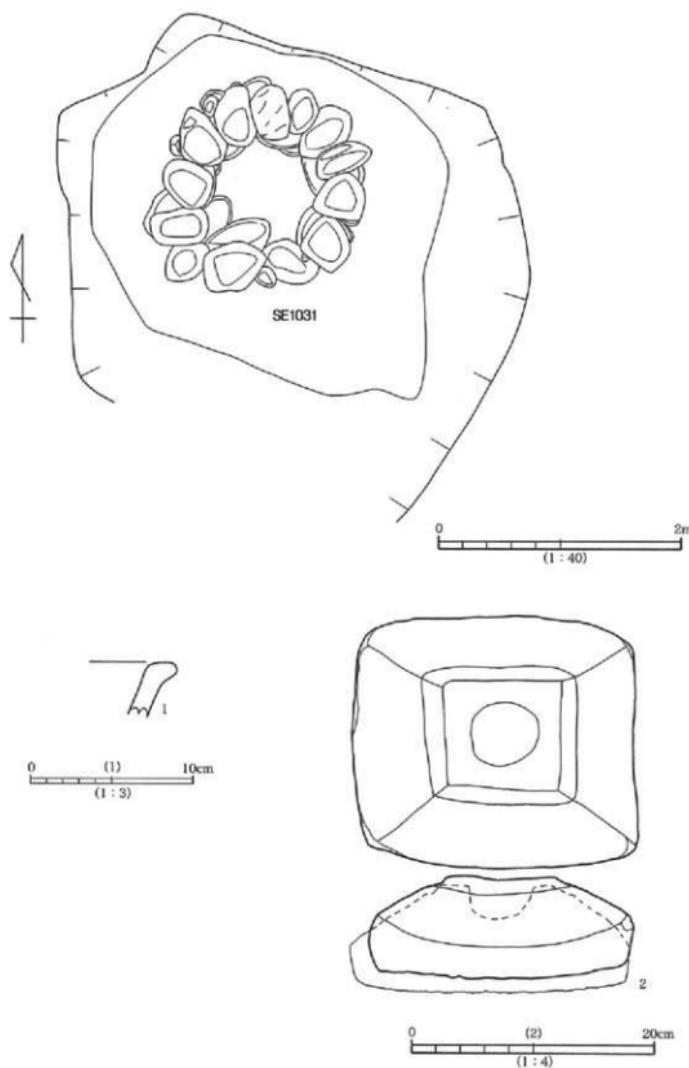


第256図 SE1029

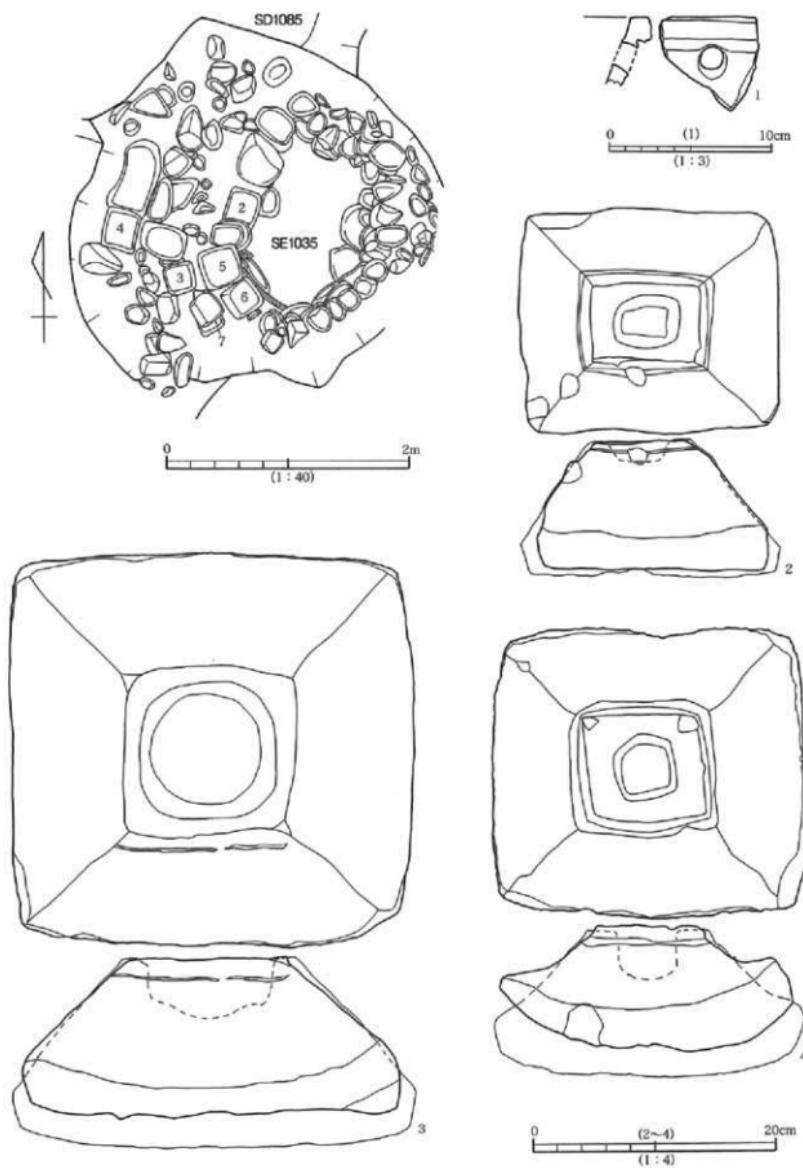


第257図 SE1030

IV 検出された遺構と遺物

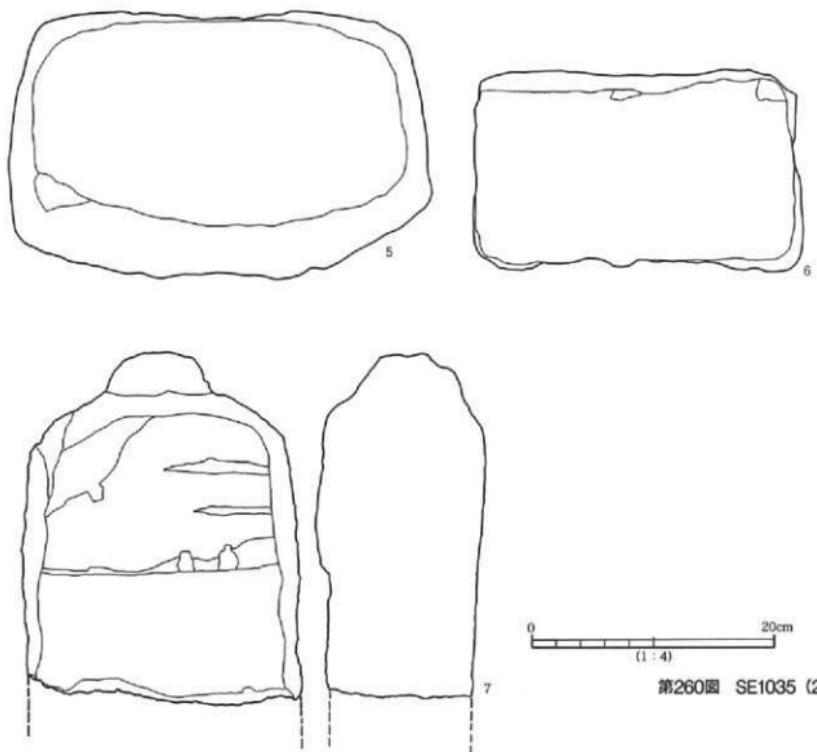


第258図 SE1031



第259図 SE1035 (1)

#### IV 検出された遺構と遺物



第260図 SE1035 (2)

#### SE1031

位置 8 - 13 グリッド。

規模 堀方径 3.85 m、内径 0.90 m、検出面からの深さ 1.74 m、底面標高 127.99 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がややくずれた方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 1 m 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 不明。

#### SE1035

位置 11 - 15 グリッド。

規模 堀方径 3.12 m、内径 1.25 m、検出面からの深さ 0.65 m、底面標高 129.46 m。

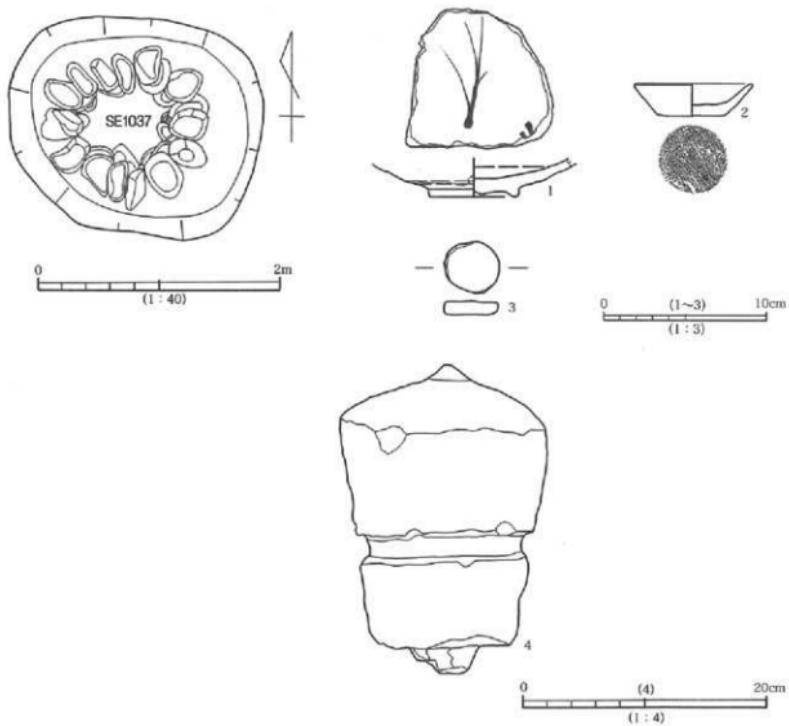
形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がくずれた円形を、石組が梢円形を呈する。掘り方に對し

#### IV 検出された遺構と遺物

て石組が東側にずれており、石組の西外側には裏込め石が積まれている。石組の1段目には五輪塔の火輪や地輪あるいは板碑が転用されている。石組は検出面の約10cm下で確認された。中世の構であるSD1085を切る。

**出土遺物** 2~7は中世と思われる五輪塔や板碑で、これらはすべて井戸の石組に転用されている。図化資料以外には、輸入磁器などが出土している。

**年代** 不明。



第261図 SE1037

#### SE1037

**位置** 10~15グリッド。

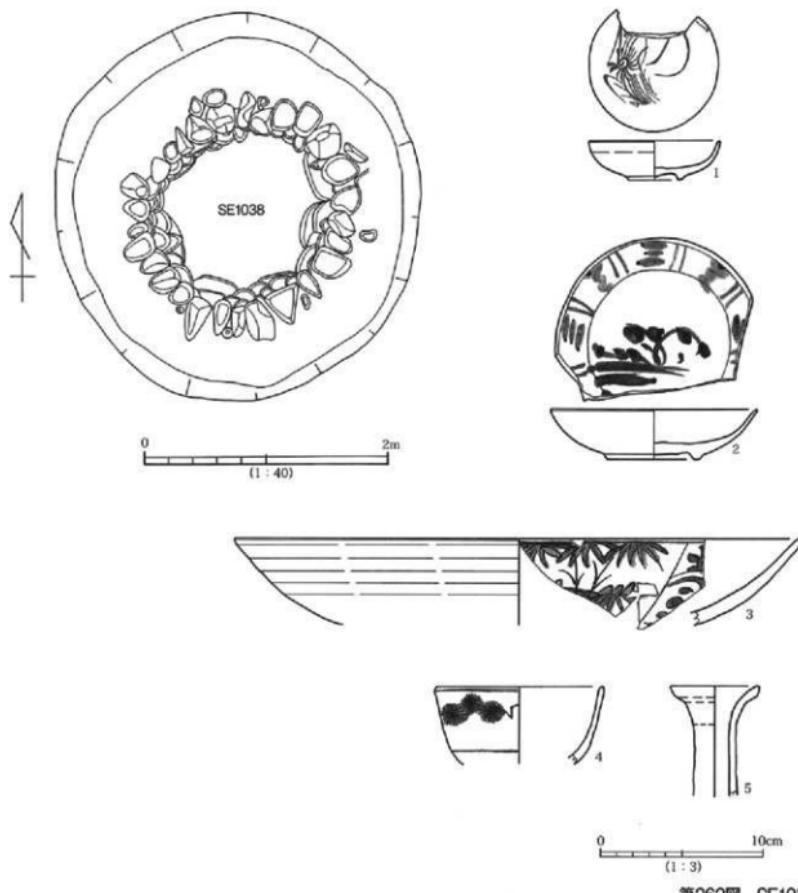
**規格** 挖方径 2.11m、内径 0.79m、検出面からの深さ 0.75m、底面標高 129.07m。

**形態** 石組の井戸である。平面形態は掘り方が橢円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約20cm下で確認された。

**出土遺物** 図化資料以外では、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけなどが出土している。

**年代** 出土遺物は少ないが、図化資料以外の肥前系磁器から17世紀半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第262図 SE1038

**SE1038**

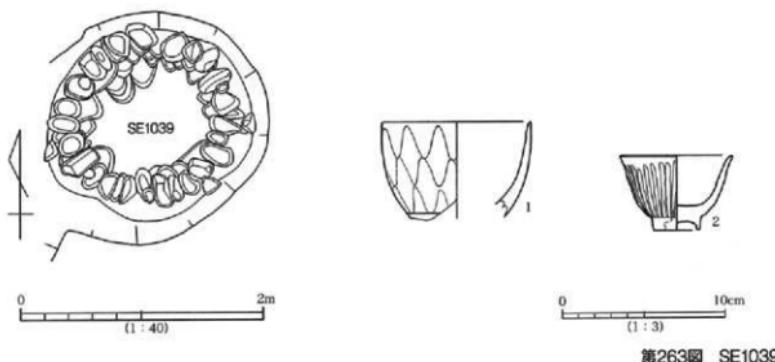
位 置 11-14グリッド。

規 模 堀方径 3.10 m、内径 1.26 m、検出面からの深さ 1.81 m、底面標高 128.63 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、III期である。



第263図 SE1039

**SE1039**

**位 置** 9-14 グリッド。

**規 模** 掘方径 1.91 m、内径 1.01 m、検出面からの深さ 1.27 m、底面標高 128.91 m。

**形 態** 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

**出土遺物** 図化資料以外には、肥前系磁器や产地不明の擂鉢などが出土している。

**年 代** 出土遺物は少ないが、1や2から17世紀半ばであろう。